

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア考古学	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城弘樹 5回 / 森達也 5回 / 後藤雅彦 5回	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい アジアの遺跡や考古学研究について紹介する。広くアジア地域の考古学と南島考古学を比較研究するための基礎知識の習得を目標とする。	メッセージ 沖縄の遺跡を広くアジアの中で一緒に考えてみましょう！
	到達目標 考古学のモノの見方考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 広い地域、長期の時間的変遷という広い視点で、琉球列島の歴史事象について遺跡・遺物から考える事ができる。	

学びの準備	到達目標 考古学のモノの見方考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 広い地域、長期の時間的変遷という広い視点で、琉球列島の歴史事象について遺跡・遺物から考える事ができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	中国考古学の概要
	3	中国考古学について
	4	東南中国考古学について
	5	台湾考古学について
	6	環中国海地域の文化交流
	7	中国陶磁考古学の概要
	8	唐・五代の貿易陶磁
	9	宋・元時代の貿易陶磁
	10	明・清時代の貿易陶磁
	11	海のシルクロードの考古学
	12	東南アジアの考古学
	13	東アジアの水中文化遺産について
	14	太平洋戦争と東アジアの戦争遺跡
	15	アジアにおける文化財保護
16	テスト・レポート提出	
		時間外学習の内容
		シラバスをよく読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		関連資料を配付するので読むこと
		各自課題に取り組むこと

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：飯島武次2015年『中国考古学のでびき』同成社。四日市康博（編著）2008年『モノから見た海域アジア史（九大アジア叢書11）』九州大学出版会。江上波夫（編著）1976年『考古学ゼミナール』山川出版。 参考文献：宮本一夫2005年『中国の歴史01 神話から歴史へ 神話時代夏王朝』講談社。坂井隆、新田栄治（編著）1998年『東南アジアの考古学（世界の考古学⑧）』同成社。西谷正2016年『北東アジアの中の弥生文化 私の考古学講義上』梓書院。西谷正2016年『北東アジアの中の古墳文化 私の考古学講義下』梓書院。 基本的に講義形式で行い、関連資料を配付する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、切厳守の上必ず取り組むこと。なお、課題は琉球列島を介して日本列島の文化に与えた影響に関する事、大陸との交流や影響、長期的・広域的な視点で自ら課題を設定し「物質文化」について論述すること。 ・「考古学概論」「沖縄の考古学」を事前に受講しているとより理解が早い。
-------	--

学びの実践	評価 レポート（90%）、テーマは東アジアの遺跡や遺物、文化交流等に関するテーマについて担当教員ごとに1題、計3題課す。 平常点（10%）。 提出レポートと平常点によって総合的に評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジアの考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につけ、南島考古学をアジアの視点で理解する。 関連科目としては「アジア史」「アジア文化概論」「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア史	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 勇樹	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では主にアヘン戦争以降、近代への大きな転換期を迎える19世紀末の東アジアの歴史や文化を通して、世界的な大きな流れを掴み、その中で地域社会にどのような変化が生じたのか受講者と共に考えていきます。アヘン戦争や欧米列強の進出、日本帝国の誕生、伝染病などいくつかのトピックを通して東アジア社会の変化を捉え、最終的には現代社会の問題に繋げて考えることが目標です。	高校までの「歴史＝暗記」とは異なり、本講義では歴史事象を通して「考える」ことを受講者に求めます。一つ一つの出来事にはどのような意味があり、どのような繋がりがあるのか、担当教員も含めて受講者全員で考えていきましょう。

到達目標	19世紀末から始まるアジアの近代化について学ぶことで、単純な一国史(例えば日本史や中国史など)を超えた広い視野で歴史を捉える能力の獲得を目指します。何がどのように影響し合っているのか、アジアへの欧米列強の進出と「近代」の流入を通して学んでいきます。その一方で、この大きな歴史の流れが地域社会にどのような影響を与えたのか、講義の後半では琉球(沖縄)の事例を中心に学びます。マクロとミクロ双方の視点を関連させて歴史を考える事は、今後皆さんが各自の研究を進める上でも重要な能力と言えます。また、今私たちが生きている近代国家は、アジアでは本講義で扱う19世紀末から形成されていきます。本講義を通して、自分が生きている現在を考える視点を養うことができるでしょう。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの熟読
	2	アジア史とは①	配布資料を使った予習・復習
	3	アジア史とは②	配布資料を使った予習・復習
	4	アジア史とは③	配布資料を使った予習・復習
	5	欧米列強のアジア進出—アヘン戦争と東アジア社会①	配布資料を使った予習・復習
	6	欧米列強のアジア進出—アヘン戦争と東アジア社会②	配布資料を使った予習・復習
	7	欧米列強のアジア進出—ペリーとジャバングランド①	配布資料を使った予習・復習
	8	欧米列強のアジア進出—ペリーとジャバングランド②	配布資料を使った予習・復習
	9	中間テスト	2～8の授業資料の見直し
	10	琉球処分とその時代①	配布資料を使った予習・復習
	11	琉球処分とその時代②	配布資料を使った予習・復習
	12	琉球処分とその時代③	配布資料を使った予習・復習
	13	伝染病と東アジアの近代①	配布資料を使った予習・復習
	14	伝染病と東アジアの近代②	配布資料を使った予習・復習
15	伝染病と東アジアの近代③	配布資料を使った予習・復習	
16	期末テスト	10以降を中心に全配布資料の熟読	

実践	テキスト・参考文献・資料など 講義は配布資料とパワーポイントを中心に行い、資料は毎回担当教員から配布します。参考文献や読んでおいてほしい文献については、適宜授業中に紹介します。
----	---

学びの手立て	講義は基本的に配布資料やパワーポイントを用いた座学形式で行います。授業内容で重要だと思った内容に関しては適宜メモをとり、不明な点や疑問的についてはそのまませず、リアクションペーパーに書くか、担当教員に直接質問してください。授業の内容を聞いて特に興味深いと思ったことについて、受講者自ら文献や論文を探して読んでおくことを推奨します。また、出席の確認も兼ねて受講者に意見や考えを聞くことがあります。※もちろん、遅刻はしてはいけません。
--------	---

評価	中間考査30%(穴埋め問題と論述問題)、期末考査40%(穴埋め問題と授業内容に関する論述問題)、平常点30%(毎回の授業態度と授業後のリアクションペーパーの内容) 無断欠席5回以上は不可とします。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 このアジア史の講義を通して歴史をみる時に重要なマクロ(アジア)とミクロ(各地域社会の変化)両方の視点が身に付くと思います。これは歴史研究のみに限らず、現代社会が抱える多くの問題を考える上でも重要な能力と言えます。受講者各自の今後の研究や日々の実践の中で生かしてもらいたいです。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義は、社会文化学科の「発展科目」として設定されている。
「アジアのなかの沖縄・日本」を考えるために必須の科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論 I	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>中国は歴史的に沖縄と深い関わりあいをもってきた国である。また、近代になって沖縄が日本に組み込まれてきた歴史、日本の近代、さらには21世紀のアジアおよび世界を考えるうえで、とても重要な対象である。本講義では、地理、歴史、宗教・思想、社会変化、現代生活といったさまざまなトピックから多面的に迫ることで、「巨大な隣人」についての理解を深めることを目指す。</p>	<p>「中国」を知らずして、東アジアを語ることはできない。東アジアにおける文明の中心としての「中国」を学ぶことは、翻って、私たちが住む沖縄・日本の理解にも繋がるはずである。「アジアの時代」が叫ばれている今こそ、「巨大な隣人」である「中国」を学ぶ必要がある。</p>
到達目標	<p>「巨大な隣人」である中国に関する基礎的な情報を学んだ上で、歴史、言語、親族組織、社会関係、思想・宗教など個別のトピックについて理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	「中国」に対する関心を深めよう。
	2	中国の概要——概要・基礎データ	諸統計データを調べてみよう。
	3	中国の歴史（1）——華夷秩序と王朝の交代劇	日本史・琉球史と比較しよう。
	4	中国の歴史（2）——二人の「末代皇帝」、溥儀と毛沢東	中国史関連の映像を探してみよう。
	5	中国語の世界（1）——漢語・漢字の歴史と「中国人」	漢字・漢語の成り立ちを調べよう。
	6	中国語の世界（2）——中国語入門	中国語学習に挑戦しよう。
	7	中国社会の構造（1）——親族関係	朝鮮・日本・沖縄と比較しよう。
8	中国社会の構造（2）——人間関係、社会関係	〈関係〉の重要性を理解しよう。	
9	映像鑑賞——中国（漢族）の習俗・宗教世界	思想・宗教関連の映像を探そう。	
10	中国の思想と宗教（1）——中国の祭日、儒教	日本・沖縄への影響を考えよう。	
11	中国の思想と宗教（2）——仏教、道教、風水	日本・沖縄への影響を考えよう。	
12	中国の思想と宗教（3）——民俗宗教の世界	日本・沖縄と比較してみよう。	
13	現代中国の現状と課題——政治・経済、民族問題	時事問題との関連を考えよう。	
14	映像鑑賞——現代中国の現実：「激流中国」・「農民工」	関連の映像を探してみよう。	
15	まとめ——中国文化と現代社会	「中国」の全体的理解を目指そう。	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する） 講義の際に適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>高校の頃に学んだ世界史や日本史の知識、そして各自の日本文化・沖縄文化に関する知識を頼りに、「比較」という視点から「中国」について考えよう。「他者」を知ることは「自己」を深く理解することに繋がります。</p>		
評価	<p>出席（30％）、テスト（70％） 毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのリアクション・ペーパーの提出を求める。また、学期末には講義内容にかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>中国だけでなく、朝鮮半島や東南アジアそしてオセアニア地域に対する理解も併せて学ぼう。「文化人類学」、「民俗学」、「比較民俗学」、「アジア文化概論」といった講義が様々な視点を提供してくれるだろう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本科目は、「フィールドワーク」・「比較文化的観点」を強調する
本学科の教育目標の実現において不可欠なものである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-神谷 智昭	2年	授業終了後教室にて受付	

学びの準備	ねらい 近くて遠い国といわれる隣国、韓国の社会と文化について理解することを目指す。	メッセージ 一見、奇妙に思える異文化の慣習・制度でも、その文化なりの論理や価値観の上に成り立っています。「なぜ異文化の人々はそう考えるのか、自分達の場合はどうなのか」という疑問を常に持ち、受講して下さい。
	到達目標 ①韓国の社会・文化を理解するための基礎的知識を身につけることができる。 ②ある文化の中で、歴史・家族親族・村落・民俗・宗教などが相互に関連しあっていることを理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体の説明	
	2	韓国の歴史（1）	韓国の古代史について調べる
	3	韓国の歴史（2）	韓国の中世史について調べる
	4	韓国の歴史（3）	韓国の近世史について調べる
	5	韓国の言語	韓国（朝鮮）語について調べる
	6	韓国の家族・親族（1）	韓国の家族・親族について調べる
	7	韓国の家族・親族（2）	韓国の家族・親族について調べる
	8	韓国の祖先祭祀	韓国の祖先祭祀について調べる
9	韓国の村落（1）	韓国の村落について調べる	
10	韓国の村落（2）	韓国の村落について調べる	
11	韓国の村落祭祀	韓国の村落祭祀・年中行事を調べる	
12	韓国のシャーマニズム	シャーマニズムについて調べる	
13	変貌する韓国社会（1）	現代韓国の社会・文化を調べる	
14	変貌する韓国社会（2）	現代韓国の社会・文化を調べる	
15	変貌する韓国社会（3）	現代韓国の社会・文化を調べる	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定の教科書は用いず、毎回配布するレジюмеと資料、映像資料などを使用します。		
	学びの手立て 履修に際しては、通常の出席確認だけでなく、リアクション・ペーパー（感想・質問・意見）の提出を求める場合がある。他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。		
	評価 期末試験（論述式）80%、授業態度（リアクションペーパーの内容）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 In addition to the academic content, this course aims to cultivate a broad range of vocabulary and reading skills

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論Ⅲ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ダグラス トライスタット	2年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062	

学びの準備	ねらい In this course students are introduced to Asian culture through the eyes of a particular ethnic group. The social and cultural characteristics are brought into focus through interaction with other cultures. This course is conducted in Japanese, but English text materials are utilized.	メッセージ Don't be afraid of English. The lecture is conducted in Japanese.
	到達目標 このコースは、ラオスとタイ北部に住んでいるモン族中に焦点を合わせ、そのレンズを通して、アジアの文化と社会を論じる。下記の内容について検討する：	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p># Theme Homework</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、LMSの登録 LMSの登録 2 Introduction to Chinese Civilization -Pt. 1 3 Introduction to Chinese Civilization -Pt. 2 4 Introduction to Chinese Civilization -Pt. 3 5 モン族の歴史、神話、伝説 6 氏族と親族関係 7 村落組織 8 年中行事 9 伝統工芸 10 宗教と信仰：シャーマン、アニミズム、先祖崇拜 11 農業と経済 12 伝統的治療法 13 秘密の戦争 14 モン族の離散 15 移民：異文化接触と文化の変化 16 期末テスト
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト: Jacobsen, Craig. An Introduction to Chinese Civilization</p> <p>参考文献:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木正嵩. ミャオ族の歴史と文化の動態. 風響社. 2012 ・Fadiman, Anne. The Spirit Catches You and You Fall Down. 1997. Farrar, Straus, and Giroux ・Symonds, Patricia V. Calling in the Soul. 2004. University of Washington Press
	<p>学びの手立て</p> <p>Keep up with the class readings!</p>
	<p>評価</p> <p>授業参加 - 60%</p> <p>テスト・レポート - 40%</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論</p>
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会論	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-河村 雅美	2年	mamikw@nifty.com 授業終了後に教室・非常勤講師室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>アジアの中で展開するグローバリゼーションと、その背景にあるアジア社会の現状をテーマとする授業です。国境を越える人の移動や、代理母問題などを題材としていきます。また、他地域を理解するとはどのようなことか、異文化を理解するとはどのようなことなのかを考える時に、必要な知識、視点を養っていきます。</p>	<p>担当教師はタイを専門としているので、東南アジアのトピックが多くなります。東南アジアのことはあまりなじみがないかもしれませんが、とても面白い地域なので、皆さんに興味をもってもらえるように映画などの視覚教材等を使ってわかりやすく講義を進めていきます。3-4回ずつのセッションに分け、グループディスカッションの機会も設けます。</p>
到達目標	<p>(1) アジア社会についての基本的な知識を学ぶ (2) アジアのグローバリゼーション現象についての事例を学ぶ (3) 他者や異文化を理解するとはどのようなことが必要かについての視点を持つ</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・ガイダンス	シラバスや授業の流れの理解
	2	1 アジア社会を理解するとは？(1)背景知識としての東南アジア	補助配布資料の理解
	3	1 アジア社会を理解するとは？(2)「地図」「地名」からみるアジア	リアクションペーパー執筆
	4	1 アジア社会を理解するとは？(3)「文化」が違うとは何か？を考える	補助配布資料の理解
	5	1 アジア社会を理解するとは？(4)イメージ・表象について考える	補助配布資料の理解
	6	1 知っておいてほしい理論の紹介（「オリエンタリズム」「伝統の創造」など）	リアクションペーパー執筆
	7	2 人が国境を越えて移動するということは？フィリピン映画から考える(1)	補助配布資料の理解
	8	2 人が国境を越えて移動するということは？フィリピン映画から考える(2)	補助配布資料の理解
	9	2 人が国境を越えて移動するということは？フィリピン映画から考える(3)	補助配布資料の理解
	10	2 知っておいてほしい国際情勢（日本の「技能実習制度」など）	リアクションペーパー執筆
	11	3 アジアの「いのち」の移動を考える メディカル・ツーリズム	補助配布資料の理解
	12	3 アジアの「いのち」の移動を考える 生殖ツーリズムの歴史と現状	補助配布資料の理解
	13	3 アジアの「いのち」の移動を考える 生殖ツーリズムの歴史と現状	リアクションペーパー執筆
14	1-3 セッションの統括 / 授業ふりかえりディスカッション	レポート準備	
15	予備日・レポートの書き方	レポート準備	
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>・テキストは指定しない。 ・レジュメを配布する。 ・レジュメに参考文献等を記す。</p>		
学びの手立て	<p>[履修の心構え] アジア社会の細かい知識を覚えることは、要求しません。「他者」「他地域」「異文化」を知るとはどのようなことなのか、グローバリゼーションとはどのようなことなのか、を具体的な例を通じて考えることを重視します。 [学びの手立て] 積極的にアジアのニュースに接したり、映画や書籍に触れることを心がけてほしいと思います。</p>		
評価	<p>授業への参加姿勢・平常点(40点)、期末レポート(60点)で評価します。 [授業への参加姿勢]授業に対するリアクションペーパーの提出 [期末レポート]期末にレポートを課します。詳細は講義の中で提示します。 期末レポートのみでの採点はしません。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本講義は「沖縄をとりまく世界の社会や文化」を知るためのものである。「アジアのなかの沖縄」を考える際の必須知識を提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア文化概論	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アジアの時代」が叫ばれて久しい。しかし、私たちの「アジア」理解は極めて限られたものである。沖縄・日本の社会・文化的特徴を考察し、その未来を構想する上でも、周辺アジア地域との比較は欠かせない。本講義では、東アジア、東南アジア、オセアニアの諸社会・文化にかんする基本的な知識の習得を基礎としながら、そこにみられる差異と共通点について講義する。	「沖縄を知る」ことは重要である。周辺アジア地域の社会・文化を理解することは、自社会・自文化の理解を深めることにつながる。ぜひ、「アジアのなかの沖縄」を考え、沖縄・日本の未来を切り拓く人材を目指して欲しい。
到達目標	周辺アジア地域の文化に関する基礎的な知識を身に付け、比較という視点からこれらの諸地域ならびに沖縄・日本の文化を考察することができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス ―なぜいま「アジア」を学ぶのか？	
	2	「アジア」とは何か？	
	3	中国の社会と文化（1） ―概要／歴史／民族	
	4	中国の社会と文化（2） ―親族関係	
	5	朝鮮半島の社会と文化（1） ―概要／歴史	
	6	朝鮮半島の社会と文化（2） ―親族・社会関係と宗教	
	7	日本の社会と文化 ―「文明の生態史観／タテ社会論／民族性論	
8	台湾の社会と文化（1） ―概要／歴史／民族		
9	台湾の社会と文化（2） ―映像鑑賞		
10	台湾の社会と文化（3） ―原住民族の歴史と現在		
11	東南アジアの社会と文化（1） ―概要／歴史／宗教		
12	東南アジアの社会と文化（2） ―インドネシア・バリ島		
13	オセアニアの社会と文化（1） ―太平洋島嶼世界の基層文化		
14	オセアニアの社会と文化（2） ―ハワイの歴史・文化・現在		
15	まとめ ― アジア・太平洋的視座の重要性		
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する） 参考文献については、毎回の講義の際に適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	・周辺アジア地域の諸文化について関心を持ち、沖縄・日本の文化をそれらとの比較において考察することを心掛けてほしい。 ・毎回講義の際に出席確認をかねて受講生にレスポンス・ペーパーの提出を求めるので、毎回の講義の要点を自分なりに整理する癖をつけること。 なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。		
	評価		
	平常点（30％）、テスト（70％） 授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末テストの成績・内容を加味し、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	3年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習のねらいは、琉球・沖縄の前近代史の先行研究（文献）を把握し、引用史料を丁寧に確認しながら、卒業論文の課題を設定するところにあります。前期は『沖縄県史』各論編第3・4巻の論考を読み、先行研究・引用史料・論点に関する報告をしてもらいます。後期では、各自が卒業論文のテーマを決め、先行研究を踏まえ、関連史料を確認したうえで卒業論文の課題を文章化してもらいます。</p>	<p>学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気や議論に触れてください。県内の博物館や発掘調査現地説明会に足を運んで琉球・沖縄の前近代史をめぐるモノに接してください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球・沖縄の前近代史をめぐる先行研究（文献）と引用史料を把握することができるようになる。 ・卒業論文のテーマを決定し、先行研究を踏まえ、関連史料を確認したうえで、卒業論文の課題を的確に設定できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、前期の授業計画および関心があるテーマの確認	
	2	『沖縄県史』各論編第3巻・第4巻で担当する論考の割り当て、レジユメの作成要領の確認など	
	3	同書各論編第4巻「総論」の読み合わせ	
	4	同書各論編第3巻「総論」の読み合わせ	
	5	先行研究に関する報告と質疑応答①	
	6	同上②	
	7	同上③	
	8	引用史料に関する報告と質疑応答①	
	9	同上②	
	10	同上③	
	11	論点に関する報告と質疑応答①	
	12	同上②	
	13	同上③	
	14	卒業論文のテーマ（仮）の提出	
	15	「実習」の内容・計画の確認	
	16	那覇港周辺のフィールドワーク（仮）	
	17	後期の授業計画の確認、卒論の課題設定に向けた準備報告レジユメの作成要領の確認など	
	18	先行研究の論点について	
	19	先行研究の引用史料について	
	20	卒業論文の先行研究に関する報告と質疑応答①	
	21	同上②	
	22	同上③	
	23	卒業論文の関連史料に関する報告と質疑応答①	
	24	同上②	
	25	同上③	
	26	卒業論文の課題に関する報告と質疑応答①	
	27	同上②	
	28	同上③	
29	同上④		
30	同上⑤		
31	「卒業論文の課題」の提出		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト・資料】テキストはありません。レジュメと図表などの参考資料を必要に応じて配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球（沖縄県教育委員会、2010年） ・『沖縄県史』各論編第4巻 近世（沖縄県教育委員会、2005年）
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『沖縄県史』各論編第3・4巻の担当する論考や各自が決めたテーマの先行研究をあきらめずに最後まで読み切ってください。 ・先行研究（文献）と史料の区別がつかなければ理解できるまで質問してください。
	<p>評価</p> <p>報告・質疑応答・卒業論文の課題設定に取り組む姿勢（60%）、卒業論文の課題の的確性（40%）によって総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>4年次では最後の専門必修科目「演習Ⅱ」で卒業論文の作成に取り組みますが、「演習Ⅰ」にどのような姿勢で取り組んだかが学生生活の集大成である卒業論文のスタートラインにつながることを自覚してください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅰ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	3年	オフィスアワーおよび学内メールで対応する。	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	この講義は、2年次の領域演習での学習内容をふまえつつ、調査研究の実践を通してより深く学びつつ、各自が深く考えるテーマを発見するための演習である。			
学びの準備	到達目標	自ら設定したテーマにとって必要とされる調査方法を実践・習得し、調査内容を的確にまとめて資料を作成できるようになる。またその課題に取り組むことを通して、卒業論文で取り組むテーマを発見する。		
学びの実践	学びのヒント	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）		
		前期は調査研究の実践に必要な視点と方法について学びながら、調査テーマに関する内容報告や問題点の発見を繰り返し、各自の問題意識を深める。それをふまえて、夏期休暇中の調査実習に取り組んだ後、後期にはその内容について要約や分析を重ね、各自がレポートを作成し、報告する。 それと並行して、4年次にかけて取り組むテーマを各自が見出ししていくために、個別報告の機会を設ける。		
		テキスト・参考文献・資料など 指定しない。 必要に応じて紹介する。		
		学びの手立て		
学びの準備	評価	報告課題の内容とゼミへの参加姿勢によって評価する。		
学びの継続	次のステージ・関連科目	4年次の演習Ⅱにつながる		

※ポリシーとの関連性

社会文化学科における沖縄を中心にした学びで、とくに文字の存在しない時代を対象とする考古先史領域である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	3年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 遺跡の発掘調査に参加し、調査技術のマスターに努めるとともに、前年発掘した遺跡の調査報告書を作成し、発掘調査の学術的意義について認識を深める。報告書の作成に際し、琉球諸島の先史文化を熟知する必要がある、そのため分担して県内各地の先史文化を調査研究し、それに基づいて各自が調査成果を発表、参加者全員で討論、先史文化に関する知識を深める。	メッセージ 大学生活で最も本を読むことになり、また、次のステップになる一番大事な年度になります。
	到達目標 まず、南西諸島の各島嶼群（トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、宮古・八重山諸島）における詳細な考古学の調査研究状況を知ることができる。物言わぬ遺物や遺構をどの様に整理して、歴史や文化を語らすのかという方法を学ぶことができる。次年度の卒業論文の素材を得る機会になることと、その基本的な構成を学ぶことになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 全員が遺物の整理（図表等の作成）を行う。遺跡の概況、調査経過等のほかの遺物の記述を行う。 上記を通して報告書の作成を実地に学ぶ。各自分担して県内各地の先史文化を調査研究し、発表を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 1、宮城栄昌・高宮廣衛『沖縄歴史地図（考古編）』柏書房 1983年 2、嵩元政秀・安里嗣淳『日本の古代遺跡（沖縄）』保育社 1993年 3、ほか基礎文献および沖縄・九州関係の発掘報告書は随時紹介する。
	学びの手立て 授業の殆どがグループによる調査、検討、発表になるため、常に互いに連絡をとり、コミュニケーションをはかること。数人で勉強会を立ち上げるのもいい。
	評価 試験・レポート（90%）、平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論Ⅱ」がある。 先史古代の環境と社会文化の関わりについて、多様な視点でみる必要から社会文化学科提供科目を広く受講する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は3年次を対象とし、近現代史研究を専攻とするゼミである。前期には南島地域に関する近現代史の専門知識の修得を前提として、夏期休業期間に実施する実習の準備をおこなう。実習を通じて史料収集と読解の技能を学んだうえで、後期には収集した資料の翻刻を基軸とする報告書を作成する一方で、卒業論文作成に向けた各自の調査テーマの設定をおこなう。</p>	<p>歴史研究は、史料の読解が中心となるため、地道な作業が多くなります。そうした作業に集中して取り組む根気強さが必要となります。その一方で、歴史的事象が発生した現場へのフィールドワークも、積極的に取り組んで、五感をフル活用して歴史理解を深めましょう。</p>
到達目標	<p>(1) 南島地域に関する近現代史の専門的な知識を修得することができる。 (2) 近現代史に関する史料の読解に、積極的に取り組むことができる。 (3) 自らの卒業論文作成に向けて、研究課題を設定し、研究計画を作成することができる。 (4) 自らの研究課題に関する先行研究を調査し、まとめることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバス内容の理解
	2	実習調査の概要確認、役割分担/要旨報告の担当決め	事前配布資料の精読
	3	フィールドワーク①：宜野湾市立博物館	リフレクションペーパー提出
	4	文献の要旨報告①	報告準備/該当箇所の精読
	5	文献の要旨報告②	報告準備/該当箇所の精読
	6	文献の要旨報告③	報告準備/該当箇所の精読
	7	文献の要旨報告④	報告準備/該当箇所の精読
	8	文献の要旨報告⑤	報告準備/該当箇所の精読
	9	フィールドワーク②：沖縄県公文書館	リフレクションペーパーの提出
	10	資料読解演習①	資料読解の予習ふい
	11	史料読解演習②	史料読解の予習
	12	史料読解演習③	史料読解の予習
	13	史料読解演習④	史料読解の予習
	14	フィールドワーク③：宜野湾市野嵩、嘉数等	リフレクションペーパーの提出
	15	前期振り返り、実習の確認	
	16	後期ガイダンス、卒論仮テーマの設定	仮テーマの選定
	17	予備調査①：先行研究の調査、収集、文献リストの作成	先行研究の収集、読み込み
	18	予備調査②：研究史の整理	先行研究の収集、読み込み
	19	第1回報告：先行研究について①	報告準備/先行研究調査
	20	第1回報告：先行研究について②	報告準備/先行研究調査
	21	第1回報告：先行研究について③	報告準備/先行研究調査
	22	第1回報告：研究研究について④	報告準備/先行研究調査
	23	第1回報告：先行研究について⑤	報告準備/先行研究調査
	24	第2回報告：研究史の整理と研究課題について①	報告準備/先行研究調査
	25	第2回報告：研究史の整理と研究課題について②	報告準備/先行研究調査
	26	第2回報告：研究史の整理と研究課題について③	報告準備/先行研究調査
	27	第2回報告：研究史の整理と研究課題について④	報告準備/先行研究調査
	28	第2回報告：研究史の整理と研究課題について⑤	報告準備/先行研究調査
	29	研究課題の確定、調査計画書の作成①	調査計画書の検討
30	調査計画書の作成②	調査計画書の検討	
31	まとめ、春季休業の過ごし方		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。 要旨報告に用いる文献については、講義の最初に提示する。 読解する史料は、複写して配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>① 2年次対象の領域演習の単位を修得済みで、演習Ⅰの振り分けで近現代史ゼミに配属されていること。 ② 夏期休業中に実施する実習の計画、準備、実習後の報告書作成も併行して実施する。 ③ 南島地域の近現代史に関する文献を、積極的に読み込むこと。 ④ 日本、中国、台湾といった周辺地域の歴史にも、関心をもって学ぶこと。</p>
	<p>評価</p> <p>到達目標（1）の評価：文献の要旨報告（20%） 到達目標（2）の評価：史料読解演習（20%） 到達目標（3）の評価：調査計画書の作成（10%） 到達目標（4）の評価：予備調査および報告（50%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅰおよび実習の成果を踏まえて、演習Ⅱで卒業研究に取り組んでもらう。 また、歴史領域の発展科目はもちろんのこと、社会・平和領域、民俗・人類学領域の発展科目や異文化理解科目のなかで、自らの研究課題に隣接するものは、積極的に履修することを勧める。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	3年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人口・家族の社会学——本演習では、社会現象としての人口と家族の変動、及び少子高齢化とグローバル化がすすむ中での教育と労働をめぐる現代的課題を中心テーマに、現代社会が直面する様々な課題を発見し、ジェンダー・社会階層・エスニシティといった分析軸をすえ、国際比較・比較社会的観点からその課題を実証的・論理的に分析、広い視野と多角的視点にたち解決策を考察していきます。	社会科学の考え方(ものの見方)と方法を学びながら、ゼミで共有する調査テーマを実習で追究していきます。同時に、4年次の卒業研究に向けて、個人の研究テーマも探求していきましょう。国内外のフィールドで見たり考えたりしたこと、本や映像資料を見て考えたことを、ゼミの仲間とじっくり議論し、新しい知性を生みだす、そんなゼミのあり方を目指します。
到達目標	①社会科学的思考を身につけながら、社会学の各領域についての見識を深める。 ②社会調査の基礎をふまえ、ゼミで共有する研究テーマを、社会調査に基づいて追究することができる。 ③現代世界のさまざまな社会的課題・社会現象に関心を広くもつことができる。 ④個人の研究テーマを探求・設定することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内で指示する
	2	ゼミで共有する研究テーマの選定	授業内で指示する
	3	ゼミで共有する研究テーマの展開	授業内で指示する
	4	受講生による報告と討論(文献報告)	授業内で指示する
	5	受講生による報告と討論(文献報告)	授業内で指示する
	6	受講生による報告と討論(文献報告)	授業内で指示する
	7	受講生による報告と討論(文献報告)	授業内で指示する
	8	受講生による報告と討論(文献報告)	授業内で指示する
	9	受講生による報告と討論(プレ調査報告)	授業内で指示する
	10	受講生による報告と討論(プレ調査報告)	授業内で指示する
	11	受講生による報告と討論(プレ調査報告)	授業内で指示する
	12	受講生による報告と討論(プレ調査報告)	授業内で指示する
	13	受講生による報告と討論(プレ調査報告)	授業内で指示する
	14	調査実習の準備	授業内で指示する
	15	調査実習の準備	授業内で指示する
	16	後期ガイダンス	授業内で指示する
	17	受講生による報告と討論(実習中間報告)	授業内で指示する
	18	受講生による報告と討論(実習中間報告)	授業内で指示する
	19	受講生による報告と討論(実習中間報告)	授業内で指示する
	20	受講生による報告と討論(実習中間報告)	授業内で指示する
	21	受講生による報告と討論(実習中間報告)	授業内で指示する
	22	調査報告書草稿の提出	授業内で指示する
	23	調査報告書の校正・推敲	授業内で指示する
	24	調査報告書の校正・推敲	授業内で指示する
	25	受講生による報告と討論(個人の研究テーマ発表)	授業内で指示する
	26	受講生による報告と討論(個人の研究テーマ発表)	授業内で指示する
	27	受講生による報告と討論(個人の研究テーマ発表)	授業内で指示する
	28	受講生による報告と討論(個人の研究テーマ発表)	授業内で指示する
	29	受講生による報告と討論(個人の研究テーマ発表)	授業内で指示する
30	調査報告書の完成・提出	授業内で指示する	
31	1年間のふりかえり	授業内で指示する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業で適宜紹介します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>①共通の研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、文献調査や読解、事前調査を授業に合わせて主体的に行うこと。 ②本演習で共有するテーマとは一見関係ないと思われる、沖縄や世界の社会的課題について、各自で主体的に知識を得ること。 ③調査実習はグループワークを軸とする。受講生は、調査の企画設計から実査、報告書作成までの社会調査の全過程に主体的・協力的に取り組むこと。他のゼミ生との共同作業であることを自覚し、協同性を磨くこと。調査倫理に則った節度のある行動を行うこと。調査に必要な道具・機材を準備すること。</p>
	<p>評価</p> <p>平常点、報告、討論への参加姿勢、グループでの調査と報告（実習）、実習報告書（ゼミレポート）、個人研究レポートの内容に基づいて総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(連動する科目) 実習 (次のステージ) 演習Ⅱ (関連する科目) 領域演習・社会平和領域、ジェンダー論、国際社会学、社会学理論、マスコミ論、家族社会学、都市社会学、南島社会学、アジア社会論、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会統計学Ⅰ・Ⅱ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	3年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習の目的は、実際に現地調査を通じて収集した資料を整理・検討し、個別テーマに関する報告書を完成させることにある。前期には、調査予定する地域の社会・文化ならびに具体的な調査テーマに関する文献を輪読し、調査に備える。後期には、夏休み行った調査実習の成果を整理し、報告書の完成を目指す。	①テーマ設定→②関連情報の収集・検討→③フィールドワーク→④調査データの整理・分析・発表（他者への説明・説得）。このプロセスを大学時代に経験することは、学生たちが本学卒業後どの分野に進もうとも、必ず役に立つはずである。社会文化学科の真骨頂であるフィールドワークから、ぜひ多くのことを学んで欲しい。
到達目標	沖縄文化の諸トピックに関する知識を文献研究ならびにフィールドワークを通じて学び、それを説得的な形で整理・発表する作法を身に着ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	レポート/調査報告/学術論文作法(1)	
	3	レポート/調査報告/学術論文作法(2)	
	4	班分け/調査テーマ設定	
	5	調査計画の策定	
	6	沖縄文化関連文献の輪読(1)	
	7	沖縄文化関連文献の輪読(2)	
	8	沖縄文化関連文献の輪読(3)	
	9	沖縄文化関連文献の輪読(4)	
	10	沖縄文化関連文献の輪読(5)	
	11	アジア・人類学関連文献の輪読(1)	
	12	アジア・人類学関連文献の輪読(2)	
	13	アジア・人類学関連文献の輪読(3)	
	14	調査項目の設定(1)	
	15	調査項目の設定(2)	
	16	(予備日)	
	17	班毎の調査成果発表(1)	
	18	班毎の調査成果発表(2)	
	19	班毎の調査成果発表(3)	
	20	班毎の調査成果発表(4)	
	21	補足関連文献の検討(1)	
	22	補足関連文献の検討(2)	
	23	補足関連文献の検討(3)	
	24	調査報告書の作成(1)	
	25	調査報告書の作成(2)	
	26	調査報告書の作成(3)	
	27	調査報告書の作成(4)	
	28	調査報告書の印刷・製本(1)	
29	調査報告書の印刷・製本(2)		
30	論文発表・検討会		
31	(予備日)		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 演習のなかで適宜紹介。 演習のなかで適宜紹介。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。 またその際、こうした祭りや習俗がどのような歴史の中ではぐくまれてきたのか、そして周辺地域と比較した場合の特徴とは何なのかを考えてみよう。</p>
	<p>評価 出席・授業への参加姿勢（50%）、報告書の内容・成果（50%）。 出席および演習カリキュラムへの参加姿勢を重視する。その上で、報告書の内容を検討し、総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 本演習で学んだ内容は、4年次の演習Ⅱ（卒論演習）でさらに活かされることになる。なお、フィールドワークで調査する項目に関連した科目、ならびに調査スキルやライティング・スキルの向上に関連した科目の履修も推奨する。</p>

※ポリシーとの関連性 現地で調査したデータを整理して文章化し、論文へとまとめていくためのトレーニングを行う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	3年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文を構成し執筆する力を養うことを目的とする。前期には現地調査の方法の講義と文献のレビューを、後期には研究報告を行う。各回に報告者を立て、自分で作成したレジメに基づいてプレゼンを実施し、出席者との討論を行う。後期の研究報告はそれに基づいた事例報告を行い、文献調査から自分自身によるデータの収集へと結び付けていく。	卒業論文を書くことを前提に、フィールドワーク方法論、情報の収集と論点の整理、ゼミ論文までの作業を高い密度で行う。よく準備すること。

到達目標	自分の調査データを整理し、読者に伝わるように表現できるようになる。また自分の議論のためにはどのようなデータをどのように提示する必要があるのかを考えることが出来るようになる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	講義-1 ; 文献リストを作る	
	3	講義-2 ; 文献をレビューする	
	4	講義-3 ; フィールドワークにつなげる	
	5	ゼミ	
	6	ゼミ	
	7	ゼミ	
	8	ゼミ	
	9	ゼミ	
	10	ゼミ	
	11	ゼミ	
	12	ゼミ	
	13	ゼミ	
	14	ゼミ	
	15	ゼミ	
	16	フィールドワーク心得	
	17	後期イントロダクション	
	18	講義-4 ; 図表の作り方と使い方	
	19	ゼミ	
	20	ゼミ	
	21	ゼミ	
	22	ゼミ	
	23	ゼミ	
	24	ゼミ	
	25	ゼミ	
	26	ゼミ	
	27	ゼミ	
	28	ゼミ	
	29	ゼミ	
30	ゼミ		
31	講義-5 ; まとめ・論文に着手する		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメ及び論文のコピーを用いる ・上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）1987『新版 民俗調査ハンドブック』吉川弘文館
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>ある程度の長さのある意味の通る文章を書けることが前提となる。甘く考えずに、機会をみて文章を書くトレーニングを積むこと。文章力に関しては一般の啓発書にも教わる場所があるので利用すること。</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン、レジュメ、議論への積極的参加などを総合的に鑑みて評価する。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>実習、卒業論文指導演習</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	4年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自が定めた卒論のテーマ、フィールド、方法、資料に基づいて卒業論文の構想と執筆を進める。前期と後期に1回ずつ中間報告を行い、より高い水準での論文の完成を目指す。	メッセージ 民俗学の論文はその議論の内容のみならず、そこに記された民俗誌自体が後世へのかけがえのない記録となる。丁寧に取り組むこと。
	到達目標 論文の完成が目標となる。	

学びの準備	到達目標 論文の完成が目標となる。
-------	----------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	各自で調査研究を進めること
	2	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	3	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	4	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	5	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	6	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	7	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	8	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	9	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	10	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	11	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	12	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	13	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	14	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	15	卒論構想報告（研究計画と進捗）	各自で調査研究を進めること
	16	講義；夏季フィールドワークに向けて	各自で調査研究を進めること
	17	後期イントロダクション	各自で調査研究を進めること
	18	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	19	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	20	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	21	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	22	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	23	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	24	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	25	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	26	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	27	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	28	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）	各自で調査研究を進めること
	29	卒論最終指導（体裁と倫理のチェック）	各自で調査研究を進めること
30	卒論最終指導（体裁と倫理のチェック）	各自で調査研究を進めること	
31	卒論報告会		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて指示する ・特になし
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>いつでもアポをとり教員に相談すること。</p>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文への取り組みと、その内容に基づいて評価する。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	月1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	4年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自、関心のあるテーマを設定する。遺跡の報告書をもって卒業論文にかえることもある。	メッセージ 大学で学問をした証しであり、専門の集大成です。
	到達目標 自ら考古学資料を分析をし、報告書や論文化を書くことができる。 先史原史時代の文化を復元することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 関心のあるテーマについて、学史を調べレポートを作成する。 夏期休暇までに、卒論の骨子をまとめ、簡単な肉付けをする。 後期に不備な点を補い、本格的な執筆にはいる。
	テキスト・参考文献・資料など 個別テーマに応じて随時推薦する。

学びの実践	学びの手立て 論文の書き方に関する図書を読む。 資料は具体的なものに接し、先輩、同輩と積極的に情報交換をする。
	評価 課題の提出資料・レポート（90%）、平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 提出論文のテーマを弱い部分を補完し、発展させてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	4年	オフィスアワーおよび学内メール等で随時対応する。	

学びの準備	ねらい 各自が選択したテーマに沿って考察と調査を進め、その成果を卒業論文としてまとめることができるように、継続的に作業を進める。そのために必要とされる研究方法の修得・資料の収集・調査の実践について、ゼミの場で報告・議論しながら進めていく。	メッセージ
	到達目標 卒業論文を作成するために必要とされる情報収集を自分自身の判断に基づいて行い、その成果を論文としてまとめ上げる思考力を身に着ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期は、まず各自がテーマを決定し、自分の論文を作成するために必要とされる作業を把握できるようにする。そのうえで、夏期休暇中に本格的な調査を進めることができるよう、準備を進める。その進捗状況について、ゼミでの報告を求める。 後期は、それまでの調査をまとめて中間報告を行ったうえで、論文の完成に向けて作業を進める。
	テキスト・参考文献・資料など 指定しない。（各自で積極的に情報を集めること）
	学びの手立て
	評価 論文作成に向けた報告内容とゼミへの参加姿勢によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	4年	研究室 (5434) 、もしくはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は4年次を対象とした、近現代史研究を専攻とするゼミである。演習Ⅰで修得した知識、技能を前提として、卒業論文作成に向けた調査と報告を中心とし、後期には実際に卒業論文の執筆活動をおこなう。	卒業論文作成の道のりは、とても大変です。また、就職活動や各種実習もあり、大変忙しい1年になります。計画的に取り組み、早めに作業を進めるようにしてください。

到達目標
(1) 自らの卒論テーマに関する専門的な知識を十分修得することができる。 (2) 自らの卒論テーマに関する歴史資料を収集し、正確に読解できる。 (3) 自らの卒論テーマに関する調査を行い、その内容について論理的に報告できる。 (4) 他者の報告に対して、建設的な意見を述べるすることができる。 (5) 歴史学の作法に基づき、論理的かつ実証的な卒業論文を作成できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの精読
	2	史料調査と精読	史料の収集と内容把握
	3	史料内容に関する1次報告①	報告準備/史料の内容把握
	4	史料内容に関する1次報告②	報告準備/史料の内容把握
	5	史料内容に関する1次報告③	報告準備/史料の内容把握
	6	史料内容に関する1次報告④	報告準備/史料の内容把握
	7	史料内容に関する1次報告⑤	報告準備/史料の内容把握
	8	史料補充調査と精読①	史料の収集と内容把握
	9	史料補充調査と精読②	史料の収集と内容把握
	10	史料補充調査と精読③	史料の収集と内容把握
	11	史料内容に関する2次報告①	報告準備/史料の内容把握
	12	史料内容に関する2次報告②	報告準備/史料の内容把握
	13	史料内容に関する2次報告③	報告準備/史料の内容把握
	14	史料内容に関する2次報告④	報告準備/史料の内容把握
	15	史料内容に関する2次報告⑤	報告準備/史料の内容把握
	16	前期振り返り、夏季休業中の取り組みの確認	卒論執筆の作業計画作成
	17	後期ガイダンス	報告準備
	18	卒論中間発表①	報告準備/補充調査
	19	卒論中間発表②	報告準備/補充調査
	20	卒論中間発表③	報告準備/補充調査
	21	卒論中間発表④	報告準備/補充調査
	22	卒論中間発表⑤	報告準備/補充調査
	23	卒論最終発表①	報告準備/卒論の執筆
	24	卒論最終発表②	報告準備/卒論の執筆
	25	卒論最終発表③	報告準備/卒論の執筆
	26	卒論最終発表④	報告準備/卒論の執筆
	27	卒業論文の執筆と添削①	卒論の執筆
	28	卒業論文の執筆と添削②	卒論の執筆
	29	卒業論文の最終確認	卒論の執筆/最終点検
30	卒業論文集作成の打合せ	卒業論文の修正	
31	まとめ	卒業論文の修正	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しません。 参考文献については、個別に紹介します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>① 特別の場合を除いて、藤波担当の演習Ⅰの単位を修得済みの者が履修できる。 ② 卒論テーマに応じた史料の収集を自ら積極的におこなうこと。 ③ 史料の精読は地道で時間のかかる作業なので、早めに取り組むこと。 ④ 報告が中心となるので、準備をきちんと整えた上で、ゼミに参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>到達目標（1）の評価：卒論中間報告の内容（20%） 到達目標（2）の評価：史料内容に関する2回の報告（20%） 到達目標（3）の評価：卒論最終報告の内容（20%） 到達目標（4）の評価：ゼミでの発言内容（10%） 到達目標（5）の評価：卒業論文の提出（30%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文作成を目指すこのゼミは、社会文化学科での4年間の学びの最終段階です。ゼミにしっかり取り組んだことを自信として、社会に羽ばたいてください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	4年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習のねらいは、大学生活の集大成である卒業論文を、先行研究を丁寧に踏まえ、関連史料を適切・効果的に用いたうえで説得力のある結論を導き出せるよう指導するところにあります。前期では主に関連史料の解釈、後期では論点および結論について報告してもらいます。	メッセージ 卒業論文のテーマに関わる報告がある学内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加してください。アンテナの感度を高めておけば、報告や議論からヒントをつかめることもありますよ。
	到達目標 先行研究を丁寧に踏まえ、関連史料を適切・効果的に用いた説得力のある卒業論文を作成できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、前期の授業計画の確認、『回顧と展望』の紹介	
	2	前期の報告日程の決定、報告レジュメ作成要領の確認	
	3	論文の構成について一序論(課題)・本論・結論の関係一	
	4	卒業論文準備報告と質疑応答一先行研究の引用史料と論点一①	
	5	同上②	
	6	同上③	
	7	同上④	
	8	同上⑤	
	9	報告レジュメ作成要領の確認	
	10	卒業論文準備報告と質疑応答一引用史料の解釈と指摘一①	
	11	同上②	
	12	同上③	
	13	同上④	
	14	同上⑤	
	15	章立てについて	
	16	卒業論文タイトル(仮)と章立て(仮)の提出	
	17	後期の授業計画の確認、後期の報告日程の決定、報告レジュメ作成要領の確認	
	18	論文の構成について一課題と結論の整合性一	
	19	卒業論文準備報告と質疑応答一主要な論点について一①	
	20	同上②	
	21	同上③	
	22	同上④	
	23	同上⑤	
	24	報告レジュメ作成要領の確認	
	25	卒業論文準備報告と質疑応答一課題と結論について一①	
	26	同上②	
	27	同上③	
	28	同上④	
	29	同上⑤	
30	まとめ		
31	卒業論文発表会と『卒業論文集』刊行に向けて		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト・資料】テキストはありません。参考資料は必要に応じて配布します。</p> <p>【参考文献】各自のテーマに関する参考文献は個別に対応します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究と関連史料の把握に寸暇を惜しまず励んでください。 ・「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」をまだ履修していなければ半期でも受講してください。
	<p>評価</p> <p>卒業論文準備報告および質疑応答に取り組む姿勢（60%）と報告レジュメの内容および完成度（40%）によって総合的に評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」および「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を求めます。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	4年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、学生各自の関心にもとづいて研究テーマを設定し、主体的に調査・分析を行い、先行研究の知見にも目を配りながら、論理的・実証的記述により、卒業論文作成を行うことを目指します。	現代社会が直面するさまざまな課題を発見し、ジェンダー・エスニシティ・社会階層といった分析軸をすえながら、国際比較・比較社会的観点にたちその課題を実証的・論理的に分析しましょう。国内外のフィールドで見たり考えたりしたこと、本や映像資料を見て考えたことを、ゼミの仲間とじっくり議論し、卒業研究につながる知性を生みだす、そんなゼミのあり方を目指します。
到達目標	①個人の研究テーマを設定し、主体的に調査研究を行うことができる。 ②自分の研究課題について、実証的・論理的に説明できる。 ③ゼミで研究報告を行い、学生同士で意見交換を行うことができる。 ④学術的ルールに則って、自分の研究課題を追究した卒業論文を書くことができる。 ⑤卒論発表会（口頭試問）における質疑に適切に応答できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内で指示する
	2	講義:卒論作成までのプロセス	授業内で指示する
	3	講義:卒論の書き方	授業内で指示する
	4	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	5	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	6	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	7	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	8	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	9	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	10	受講生による報告と討論(論文構想)	授業内で指示する
	11	受講生による報告と討論(論文構想)	授業内で指示する
	12	受講生による報告と討論(論文構想)	授業内で指示する
	13	受講生による報告と討論(論文構想)	授業内で指示する
	14	受講生による報告と討論(論文構想)	授業内で指示する
	15	前期のふりかえりと夏期休暇中の研究計画報告	授業内で指示する
	16	講義:卒論の形式と決まり	授業内で指示する
	17	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	18	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	19	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	20	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	21	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	22	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	23	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	24	卒業論文仮提出	授業内で指示する
	25	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	26	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	27	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	28	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	29	卒業論文提出	授業内で指示する
30	卒業論文発表会	授業内で指示する	
31	卒業論文集完成	授業内で指示する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>①授業で配布する「卒論作成までのプロセス」「卒論の書き方」「卒論のしおり（改訂版）」および『社会学評論スタイルガイド』を共通テキストとする。</p> <p>②参考文献は、木下是雄『理科系の作文技術』（中央公論社, 1981）、榎木伸明『卒論を書こう（第2版）』（三修社, 2006）、早稲田大学出版部編『卒論・ゼミ論の書き方（第2版）』（早稲田大学出版部, 2002）など。</p> <p>③個人の研究テーマに関する参考文献は、授業で適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>①各自の研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、指示された課題に積極的に対応し、文献精読および社会調査を、授業に合わせて主体的に行っていくこと。</p> <p>②他のゼミ生の研究テーマについて、自分の研究テーマや関心にひきつけて、意見が述べられるようにすること。</p> <p>③新聞と文献を継続してしっかり読むこと。</p>
	<p>評価</p> <p>平常点、研究報告の内容、討論への参加姿勢、卒業論文への取組みと内容で総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（関連する演習科目）演習 I</p> <p>（関連する講義科目）ジェンダー論、国際社会学、社会学理論、マスコミ論、家族社会学、都市社会学、南島社会学、アジア社会論</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	4年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の目的は、基礎演習と実習（2年生）および演習（3年生）で学んできた成果を踏まえ、各ゼミ生自らが設定する研究テーマにそって、文献収集・研究、調査計画の策定、実地調査、調査・研究成果の整理・分析をへて、卒業論文を作成することにある。夏休みなどを利用して各自で現地調査を実施し、後期には調査・研究成果の発表・議論をへて卒業論文の作成・編集を目指す。</p>	<p>沖縄は「深い」。しかし、「沖縄とは何なのか？」を深く理解するためには、その「外部」に立つことも重要である。「沖縄をより深く理解するための“鏡”」は、（沖縄の内部だけでなく）周辺アジア地域の街角や人々を取り巻く自然環境の中に転がっている。</p>
到達目標	<p>沖縄の社会・文化に対する基礎的な学びを深めると同時に、周辺アジア地域との比較という視点から沖縄の歴史と現在を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	アジア・人類学関連文献の輪読（1）	
	3	アジア・人類学関連文献の輪読（2）	
	4	アジア・人類学関連文献の輪読（3）	
	5	学術論文作法	
	6	テーマ設定（1）	
	7	テーマ設定（2）	
	8	文献研究（1）	
	9	文献研究（2）	
	10	文献研究（3）	
	11	文献研究（4）	
	12	文献研究（5）	
	13	文献研究（6）	
	14	調査計画、質問事項等の作成（1）	
	15	調査計画、質問事項等の作成（2）	
	16	（予備日）	
	17	ガイダンス	
	18	調査成果発表と質疑応答（1）	
	19	調査成果発表と質疑応答（2）	
	20	調査成果発表と質疑応答（3）	
	21	調査成果発表と質疑応答（4）	
	22	中間発表会（1）	
	23	中間発表会（2）	
	24	論文作成・指導（1）	
	25	論文作成・指導（2）	
	26	卒業論文仮提出	
	27	論文作成・指導（3）	
	28	論文作成・指導（4）	
	29	論文作成・指導（5）	
30	論文作成・指導（6）		
31	完成卒業論文へのコメント・推敲作業		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 演習のなかで適宜紹介。 演習のなかで適宜紹介。</p>
	<p>学びの手立て 日本の他府県はもちろんのこと、周辺アジア地域の情報に関心を持ち、常に沖縄を内側と外側という視点から考える習慣をつけよう。それを繰り返すことが「沖縄の再発見」につながるはずである。多様な情報をゲットするために欠かせないのが語学能力である (e.g. 英語、中国語、韓国語、etc.)。</p>
	<p>評価 出席・授業への参加姿勢 (40%)、調査成果・論文評価 (60%)。 卒業論文の内容はもとより、各ゼミ生の出席および演習への参加姿勢を重視して総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 社会文化学科・人類学ゼミで学んだ知識や経験は、必ずやあなたが社会に出たときに生きてくるだろう。</p>

科目基本情報	科目名 沖縄近現代史 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -宮城 晴美	前期	金 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後か、自宅メール (h-unai@nifty.com) に連絡ください。	

学びの準備	ねらい かつて王国だった沖縄。明治政府による「琉球処分」によって、ことばをはじめ独自の文化を排除させられ、「日本人」に同化されていった。さらに沖縄戦後の米軍支配によって日本から分断され、広大な基地建設によって人権のない生活を強いられることになる。本講義では、沖縄の社会・政治・経済等、歴史的に検証することによって、日本における沖縄の位置づけについて考えていく。	メッセージ おそらく、中高生時代に学ぶことがなかったであろう沖縄の歴史について、特定のテキストは使わず、できるだけ時代のイメージができるよう、毎回、パワーポイントの画像、映像を使ったビジュアルな講義を進めていきます。
	到達目標 1. 琉球・沖縄の歴史を学ぶことで自分の住む沖縄への知的好奇心を高め、自身が社会の構成員の一人であることを自覚し、政治・社会情勢を敏感にとらえて自らのポリシーを確立できるようにする。 2. ネット社会に翻弄されることなく、多様な情報・資料を収集、分析して適正に判断し行動する力を身につけるようにする。 3. 沖縄社会の現状を、歴史的背景に基づいて理解することにより、真の平和とは何かを追究し、国際社会の平和に貢献できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション (本授業のねらいと全体像の説明)	シラバスを事前に読んでくること
	2	【映像】「歴史は眠らない 沖縄・日本400年」(NHK制作)鑑賞	参考文献③の第5章
	3	琉球処分前後の動乱	〃
	4	「旧慣温存」期の沖縄の統治機構—県令政治の実相—	参考文献①第二部、三部
	5	教育の普及と「同化」政策—風俗改良運動	参考文献②四。プリントをよく読む
	6	沖縄の貧困と移民・出稼ぎ—差別との遭遇、「内なる日本化」	参考文献②の四、五
	7	社会運動の台頭	〃
	8	「内なる日本化」—15年戦争とファシズム体制下の沖縄民衆	プリントを読んでくること
	9	アジア・太平洋戦争下の沖縄	〃
	10	【映像】沖縄戦の基礎学習「ドキュメント沖縄戦」 講義「沖縄戦の特徴」	身近な戦争体験を聞く
	11	敗戦後の住民生活—米軍による統治機構	〃
	12	日本から切り離された沖縄—琉球政府の設置とサンフランシスコ講和条約	プリントを読んでくること
	13	銃剣とブルドーザー—米軍基地への抵抗・「島ぐるみ」土地闘争	〃
	14	復帰前後の民衆の動向	〃
	15	沖縄の基地問題と日米地位協定	〃
16	期末テスト		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストはパワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配付します。 【参考文献】①沖縄県文化振興会史料編集室『沖縄県史 各論編 第5巻 近代』沖縄県教育委員会、2011 ②金城正篤・上原兼善・秋山勝・仲地哲夫・大城将保『沖縄県の百年』山川出版社、2005 ③安里進・高良倉吉・田名真之・豊見山和行・西里喜行・真栄平房昭『沖縄県の歴史』山川出版社、2004 ④那覇市歴史博物館編『戦後をたどる—「アメリカ世」から「ヤマトの世」へ』琉球新報社、2010 ⑤その他、随時紹介します。
----	--

学びの手立て	①「履修の心構え」・出席を重視します。やむを得ず遅刻した場合は講義終了後に申し出、欠席した場合は、必ず届けを出してください。 ・欠席した日のプリントは、必ず要求して受け取ってください。 ・やむを得ず途中退席するときは授業前に届け出、リアクションペーパーを自身で提出してください。 ②「学を深めるために」 ・プリントは前の週に配付します。事前に読んでくること。講義には忘れずに持参し、授業の内容をメモして復習に役立ててください。 ・「時間外学習の内容」を参考に、提示した文献で予習するよう心がけてください。
--------	---

評価	・評価は、テスト50%、レポート35%、リアクションペーパー(授業参加度)15%で配分します。・テストは授業で使用したプリントを持ち込みますが、内容を理解しなければ解けないようになっていってしまうのでしっかり学習してください。・レポートは、授業を振り返って最も関心のあるテーマを選んで書いてもらいますが、「到達目標」を評価基準にしますので、自身の言葉で書いてください。・リアクションペーパーは、授業に対する感想、意見、質問等を書いていただきますが、的外れの感想、質問は減点の対象になります。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目 後期の沖縄近代史Ⅱでは、ジェンダーの視点を入れた講義をします。より幅広い沖縄近現代史の知識が習得できます。(2)次のステージ 私たちが現在生活している場所がどういった所なのか、父母、祖父母の経験を通してその歴史を学び、あるいは沖縄の現状をメディア等で学ぶことによって将来像を描き、自分にできることは何かを模索し続けてほしいと思います。
-------	--

科目基本情報	科目名 沖縄近現代史Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -宮城 晴美	後期	金 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後か、自宅メール (h-unai@nifty.com) に連絡ください。	

学びの準備	ねらい 長年文字を学ぶ機会がなかった沖縄の女性たちは「良妻賢母」教育を身につけ、天皇制国家を支える一員として「日本人化」されていきます。沖縄戦で多くの犠牲をうみながらも、敗戦後は選挙権を手にし、形ばかりの男女平等が実現しました。しかし米軍支配では辛酸をなめつくし、復帰を前後して、女性たちは立ち上がりました。本講義では、ジェンダーの視点で沖縄の歴史を学びます。	メッセージ 本講義では、沖縄近現代史Ⅰをベースに、ジェンダーの視点から講義を進めていきます。祖母や母の生きた時代を学ぶことによって、真の男女平等とは何かを考えるきっかけにしてほしいと思います。
	到達目標 1. 琉球・沖縄の歴史を女性の視点で学ぶことによって差別の本質を学び、自律性を身につけることができるようにする。 2. 自身が社会構成員の一人として、ジェンダー偏見を排除し、他者の意見を傾聴することができるようにする。 3. 就職したとき、あるいは家庭生活を営むなかで性別による問題に直面したとき、その解決にむけた「アイテム」を講義の中から見出すことができるようにする。 4. ジェンダー平等を学ぶことで、沖縄社会の文化的ひずみ（たとえばトートナー問題を正し、差別のない社会づくりに貢献できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション（本授業のねらいと全体像の説明）
	2	琉球王国時代の女性の地位－神女（ノロ）組織・御内原
	3	ジェンダーと性－公娼制度下の辻遊廓
	4	【映像】娼婦から画家へー「Born Again」（今帰仁村出身・正子さんの生涯）
	5	家父長制の確立とジェンダー役割の形成
	6	抗する女たちと「日本化」への道
	7	戦争と性－日本軍「慰安婦」制度
	8	日本国憲法と女性の政治参加－世界的潮流のなかで
	9	婦人会の結成と男女平等意識の高まり
	10	米軍基地と売買春－公衆衛生看護婦の誕生
	11	女たちの文化活動と土地闘争
	12	【映像】イザイホー
	13	沖縄のフェミニズム運動－起ち上がった女たち
	14	日米の政治のはざまで－軍隊の構造的暴力を考える
	15	「トートナー」継承問題とジェンダー
16	期末テスト	
	時間外学習の内容	
	シラバスを事前に読んでくること	
	参考文献①第6章	
	参考文献②第Ⅷ章	
	〃	
	参考文献④Ⅱ部	
	プリントを事前に読んでくること	
	〃	
	〃	
	参考文献③第二章	
	参考文献④第6部	
	プリントを事前に読んでくること	
	身近な行事を調べてみる	
	プリントを事前に読んでくること	
	〃	
	〃	

テキスト・参考文献・資料など
 テキストはパワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配付します。
 【参考文献】①那覇市総務部女性室『なは・女のあしあと 那覇女性史（前近代編）』琉球新報社、2001 ②那覇市総務部女性室・那覇女性史編集委員会編『なは・女のあしあと 那覇女性史（近代編）』ドメス出版、1998 ③那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（戦後編）』琉球新報社、2001 ④沖縄県教育委員会文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編 第8巻 女性史』沖縄県教育委員会、2016 ⑤その他、随時紹介します。

学びの手立て
 ①「履修の心構え」・出席を重視します。やむを得ず遅刻した場合は講義終了後に申し出、欠席した場合は、必ず届けを出してください。
 ・欠席した日のプリントは、必ず要求して受け取ってください。
 ・やむを得ず途中退席するときは授業前に届け出、リアクションペーパーを自身で提出してください。
 ②「学びを深めるために」
 ・プリントは前の週に配付します。事前に読んでくること。講義には忘れずに持参し、授業の内容をメモして復習に役立ててください。
 ・「時間外学習の内容」を参考に、提示した文献で予習するよう心がけてください。

評価
 ・評価は、テスト50%、レポート35%、リアクションペーパー（授業参加度）15%で配分します。 ・テストは授業で使用したプリントを持ち込みますが内容を理解しないと解けませんので、しっかり学習してください。 ・レポートの課題は改めて指定しますが、「到達目標」を評価基準にしますので、自身の言葉で書いてください。 ・リアクションペーパーは、授業に対する感想、意見、質問等を書いていただきますが、的外れの感想、質問は減点の対象になります。

次のステージ・関連科目
 (1)関連科目 沖縄近現代史Ⅰで、女性史の背景となる歴史が学べます。(2)次のステージ 法的には、ほぼ「男女平等」の社会になりましたが、女性を取り巻く環境はまだまだ厳しいものがあります。日常生活のなかで、それに気づき、その根源は何かを、講義を思い出しながら解決方法を考えてみてください。また、母・祖母の経験を通して、沖縄女性の足跡を学ぶことも良いですね。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄社会入門	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳(8回)、澤田 佳世(7回) 澤田 佳世	1年	講義終了後に教室内で対応する。	

学びの準備	ねらい この講義は、今日の沖縄社会が直面している様々な課題に目を向けて、その背景にある構造的な問題について考察することをテーマとする。前半の講義では、沖縄戦から現在へと続く問題を理解し、身近な生活空間に存在している環境被害について理解する。後半の講義では、権力作用によって把握しにくくなっている、沖縄の様々な社会現象と問題群、その現代的課題を理解することを目的とする。	メッセージ 沖縄社会に関する知的関心が不可欠な講義である。
	到達目標 沖縄社会にかかわる問題について学術的に思考する方法を具体的に理解し、そこから多様なテーマについて考察するための手がかりを引き出すことができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1週目 講義全体のガイダンスと前半のテーマの概要説明 2週目 沖縄にとっての戦後① 基地難民の経験 3週目 沖縄にとっての戦後② 27年間の占領 4週目 沖縄にとっての戦後③ 復帰の内実 5週目 傷跡に向き合う① 証言記録の作成 6週目 傷跡に向き合う② 過ぎ去らない戦場体験 7週目 傷跡に向き合う③ 慰霊と継承 8週目 レポート提出と講義前半の振り返り 9週目 後半のテーマと概要説明 10週目 〈お笑い〉からみえる沖縄 11週目 〈アイデンティティ〉からみえる沖縄 12週目 〈イメージ〉からみえる沖縄 13週目 〈子ども/女性〉からみえる沖縄 14週目 〈人口・家族/教育・労働〉からみえる沖縄 15週目 〈移民〉からみえる沖縄
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。各回の講義で必要に応じ参考文献を提示する。
	学びの手立て 新聞等を通して、日々の出来事やそこに含まれている問題を発見しようと意識することが重要である。
	評価 次の方法で評価し、前半・後半の合計点で成績を決定する。 前半の講義 (50点満点) 参加姿勢 20点、レポート 30点 後半の講義 (50点満点) 小レポート20点、学期末レポート(あるいはテスト) 30点

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年次後期の基礎科目(学科必修科目)である社会学概論と平和学概論につながる
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄ジャーナリズム論	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	謝花直美、山城紀子、安里努、崎濱秀光、福元大輔、大野享恭、具志堅学、下地広也、照屋剛志、森田美奈子、與那原良彦、山城響、赤嶺由紀子、黒島美奈子	1年	times-okikoku@okinawatimes.co.jp(講師共用)、098(860)3538	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の現在社会を知る上で必須の時事問題を中心に、沖縄ジャーナリズムの歩み、米軍基地問題、沖縄戦などを現役のデスク、記者、論説委員が解説する。報道を通して、ニュースの読み方、現代沖縄の問題を多様な視点から考える姿勢を学ぶ。</p>	<p>沖縄タイムスの一線で活躍する記者、日々の紙面づくりに取り組むデスクが、米軍基地問題から社会福祉まで幅広い視点で現代沖縄を解説します。ニュース一般の読み解き方も紹介します。</p>
到達目標	<p>報道の現場の一線で活躍する記者の解説を通して、現代沖縄の社会を知るため、ニュースがつくりだされる過程から、その情報の読み解き方までを学ぶ。多様な視点から考える態度を習得する。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション (謝花直美)</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>ジャーナリズムの役割とは (山城紀子、ジャーナリスト、早稲田大学Jスクール講師)</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>大学生のためのNIE (安里努)</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>縦軸、横軸からみる新聞 (崎濱秀光)</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>米軍基地問題の歴史 (福元大輔)</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>米軍基地問題の現在 (大野享恭)</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>心をつかむ整理術 (具志堅学)</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>人を繋ぐ報道写真 (下地広也)</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>元気がでる企業と沖縄経済 (照屋剛)</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>社説・論を伝える (森田美奈子)</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>若者と政治 (与那原良彦)</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>事件はいかに報道されるか (山城響)</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>地域ニュース喜怒哀楽 (赤嶺由紀子)</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>新聞の中のマイノリティ (黒島美奈子)</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>新聞が沖縄戦を伝えること (謝花直美)</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>学期末テスト (謝花直美)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	イントロダクション (謝花直美)		2	ジャーナリズムの役割とは (山城紀子、ジャーナリスト、早稲田大学Jスクール講師)		3	大学生のためのNIE (安里努)		4	縦軸、横軸からみる新聞 (崎濱秀光)		5	米軍基地問題の歴史 (福元大輔)		6	米軍基地問題の現在 (大野享恭)		7	心をつかむ整理術 (具志堅学)		8	人を繋ぐ報道写真 (下地広也)		9	元気がでる企業と沖縄経済 (照屋剛)		10	社説・論を伝える (森田美奈子)		11	若者と政治 (与那原良彦)		12	事件はいかに報道されるか (山城響)		13	地域ニュース喜怒哀楽 (赤嶺由紀子)		14	新聞の中のマイノリティ (黒島美奈子)		15	新聞が沖縄戦を伝えること (謝花直美)		16	学期末テスト (謝花直美)	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	イントロダクション (謝花直美)																																																		
	2	ジャーナリズムの役割とは (山城紀子、ジャーナリスト、早稲田大学Jスクール講師)																																																		
3	大学生のためのNIE (安里努)																																																			
4	縦軸、横軸からみる新聞 (崎濱秀光)																																																			
5	米軍基地問題の歴史 (福元大輔)																																																			
6	米軍基地問題の現在 (大野享恭)																																																			
7	心をつかむ整理術 (具志堅学)																																																			
8	人を繋ぐ報道写真 (下地広也)																																																			
9	元気がでる企業と沖縄経済 (照屋剛)																																																			
10	社説・論を伝える (森田美奈子)																																																			
11	若者と政治 (与那原良彦)																																																			
12	事件はいかに報道されるか (山城響)																																																			
13	地域ニュース喜怒哀楽 (赤嶺由紀子)																																																			
14	新聞の中のマイノリティ (黒島美奈子)																																																			
15	新聞が沖縄戦を伝えること (謝花直美)																																																			
16	学期末テスト (謝花直美)																																																			
テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメを配布する																																																				
<p>学びの手立て</p> <p>講義では時事問題に毎回言及します。そのため事前の1週間の新聞を読んで講義に参加することが求められます。ネットニュースの形ではなく、紙の新聞を1面から社会面までを通して読む習慣を身につけて下さい。朝刊には新書1冊分の活字が記載されています。その中から必要なニュースを自在に読むことが出来る力を身につけることは、社会人としても必要なスキルです。特に地域紙は地域の問題に密着し、政治、経済、社会と学生のみなさんが住んでいる地域の視点からニュースを発信します。地域紙と全国紙を読むことを、大学生のころから心掛けてほしいと思います。</p>																																																				
<p>評価</p> <p>出席、論文</p>																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄前近代史 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球・沖縄の前近代史は先史時代、古琉球、近世琉球に区分されています。古琉球では琉球王国が成立する一方、近世琉球では薩摩藩による支配が固定化され、最終的には明治政府による琉球併合で終焉を迎えます。本講義では、日本史および琉球史研究の論点を踏まえ、それぞれの時期の日本との関係を意識しながら、琉球の国家のありかたを考えます。</p>	<p>本学図書館は沖縄県内の市町村史を多く所蔵しています。学外でも、博物館では沖縄前近代史に関わる常設展や企画展、また、県や市町村による発掘調査現地説明会が催されることがあります。身近な市町村史をめぐってみることで、博物館や説明会に足を運んでモノに接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 先史時代から近世琉球にわたる琉球と日本の関係を理解できるようになる。 古琉球と近世琉球における国家のありかたを理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、沖縄前近代史 I を始める前に	
	2	琉球・沖縄の前近代史と向き合う前に	
	3	律令制国家と南島—奈良時代の南の「境界」—	
	4	平安時代の南の「境界」—八郎の真人・キカイガシマ・落ち武者伝説—	
	5	琉球の国家形成—グスク時代の沖縄島—	
	6	第一尚氏政権と足利政権	
	7	第二尚氏政権と豊臣政権—尚寧の冊封と朝鮮出兵—	
8	島津氏の琉球侵攻—歴史の変動のなかで—		
9	講義の折り返し地点を過ぎて		
10	徳川政権と琉球王国—「鎖国」と琉球王権—		
11	近世琉球の国家と社会—琉球支配と乾隆検地—		
12	異国船の琉球来航—アジアの近代との接点—		
13	明治政府による琉球併合—東アジアのなかの「琉球処分」—		
14	沖縄前近代史 I をまとめる前に		
15	まとめ		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト・資料】テキストはありません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球（沖縄県教育委員会、2010年） 『沖縄県史』各論編第4巻 近世（沖縄県教育委員会、2005年） 桃木至朗編『海域アジア史研究入門』（岩波書店、2008年） 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画に示した各回のテーマのなかで、関心がある、関心が持てそうなものをあらかじめいくつかピックアップすることをおすすめします。 		
評価	<p>課題の提出状況（20%）、期末試験もしくはレポート（80%）によって総合的に評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「アジア史」「琉中交流史」「古文書講読 I・II」の受講を希望します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄前近代史Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球王国にとって重要な港であった那覇港はアジアの歴史の変動がいち早く反映する場でした。本講義では、15世紀から19世紀にいたる那覇港の変遷、時期ごとの特徴を中国船と日本船に注目して考えます。また、琉球の王権や政権でなく、近世の琉球社会についての対外関係史を考えます。</p>	<p>本学の図書館は沖縄県内の市町村史を多く所蔵しています。学外でも、博物館では沖縄前近代史に関する常設展や企画展、また、県や市町村による発掘調査現地説明会が開催されることもあります。身近な市町村史をめぐってみることで、博物館や説明会に足を運んでモノに接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇港の変遷および時期ごとの特徴を理解できるようになる。 ・近世の琉球社会についての対外関係史を理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、沖縄前近代史Ⅱを始める前に	
	2	「琉球貿易図屏風」(滋賀大学経済学部附属史料館蔵)を歩く	
	3	「大交易時代」の那覇港—中国船と日本船—	
	4	16世紀末の那覇港—那覇の日本人町—	
	5	「鎖国」と那覇港—17世紀前半の状況—	
	6	琉球史のなかの久米村—チャイナタウンから諮問機関へ—	
	7	講義の折り返し地点で	
	8	琉球社会と対外関係史①—黒砂糖・貿易銀・海産物・中国商品—	
	9	琉球社会と対外関係史②—久米島の場合—	
	10	琉球社会と対外関係史③—宜野湾間切我如古村の場合—	
	11	琉球社会と対外関係史④—那覇港を抱えた地域の場合—	
	12	異国船の琉球来航—1840～50年代の那覇—	
	13	琉球王国最末期の那覇港—1870年代の状況—	
14	沖縄前近代史Ⅱをまとめる前に		
15	まとめ		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト・資料】テキストはありません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球(沖縄県教育委員会、2010年) ・『沖縄県史』各論編第4巻 近世(沖縄県教育委員会、2005年) ・豊見山和行編『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』(吉川弘文館、2003年) 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・近世琉球において琉球王国と琉球社会は運命共同体だったのか考えてみましょう。 		
評価	<p>課題の提出状況(20%)、期末試験もしくはレポート(80%)によって総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「沖縄前近代史Ⅰ」「琉中交流史」「アジア史」「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を受講することを希望します。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義は、「沖縄」の全体的な理解を目指す社会文化学科における「沖縄文化」理解のための基礎・入門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄文化入門	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川高8回、石垣直7回	1年	t.oikawa@okiu.ac.jp nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の主眼は、沖縄の民俗文化に関する基礎的な理解を深めることにある。具体的には、地理・歴史、生業、衣・食・住、村落、家族・親族、誕生・成長儀礼、婚姻、葬送儀礼と墓、祭り・年中行事などの諸トピックを取り上げる。</p>	<p>私たちはどれだけ「沖縄文化」を知っているでしょうか。「沖縄文化」の歴史と現状を知る人材が一人でも増えることが、経済分野におけるアジア展開や「観光立県・沖縄」の確立につながるはずだ。</p>
到達目標	琉球弧の島々で歴史的に作り上げられてきた文化の概要を理解し、空間的（周辺地域との交流）・時間的（文化の歴史的变化）広がりの中で「沖縄文化」を捉える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	
	2	沖縄のおまつり——エイサーと綱引き	
	3	農耕——米と芋、民族起源論、生業複合	
	4	海——海人と交易、ニライカナイ	
	5	村の景観——建築・風水・石敢当	
	6	被服と装い——色彩、素材、形態	
	7	沖縄料理——肉食、沖縄そば、チャンプルー	
8	都市と王権——那覇と首里		
9	琉球弧の「文化」を育んだ地理・歴史		
10	親族関係の基盤と「門中」制度の確立・広がり		
11	祖先祭祀と葬墓制——「祖先／子孫」関係の繋ぎ方		
12	女性の霊的優位——オナリ信仰と国家祭祀制度		
13	年中行事——琉球弧の人々の宗教・世界観		
14	誕生・成長・結婚・長寿儀礼		
15	まとめ——「沖縄文化」の歴史・現在と文化人類学的視点		
16	(予備日)		
テキスト・参考文献・資料など	特になし。(毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する) 授業の中で適宜紹介する。		
学びの手立て	図書館で文献を読んだり、県内の諸文化関連施設などを実際に訪問することで、マスコミ報道などで取り上げられる「沖縄文化」の情報を掘り下げて学んでみよう。		
評価	出席ならびに授業参加姿勢をもとに、総合的に評価する。(担当教員によってはレポートあるいは筆記試験を課す場合がある)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>沖縄の文化だけでなく、歴史や言語、さらには周辺諸地域に対する理解を深めることが望ましい。次の諸科目の履修を勧めたい。e.g. 民俗学概論、文化人類学概論、南島民俗学史Ⅰ・Ⅱ、比較民俗学、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、etc.</p>

※ポリシーとの関連性 社会文化学科は、問題解決型の人材の養成を教育目標としているが、本授業は社会問題を発見し、分析する力をつけるのに貢献する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖繩平和学	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉城 福子	2年	授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この授業では、ジェンダー、セクシュアリティ、植民地主義の視点を学び、社会の様々な事象を分析することを通じて、これまで「当たり前」だと思っていた身近な出来事の中にある差別や暴力に気づき考える力を身につけることを目的とする。題材として、沖縄の歴史や暴力の問題（具体的には、DV、沖縄戦時の日本軍「慰安所」制度、戦後の米兵による性暴力など）を取り上げる。	メッセージ 身近な事象を取り上げたり、ドキュメンタリー映画などを用いることで、暴力そして平和の問題を自分のこととして考えることができるように工夫しています。また、少人数でのグループディスカッションを取り入れており、考え自分の意見を言うこと、相手の意見に耳を傾ける力も身につきます。
	到達目標 ・ジェンダー、セクシュアリティ、植民地主義に関わる基礎的な概念について説明できるようになる ・平和学的な視点から特定の社会問題や歴史を掘り下げ、問題の所在や解決のための具体策について自分の意見が言えるようになる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	ジェンダー：基礎	第2～4週：参考文献⑥を読む
	3	ジェンダー：歴史と発展	
	4	ジェンダー：応用	
	5	事例を通じて考える①：沖縄社会とDV	参考文献④を事前に読む
	6	セクシュアリティ：基礎	第6～8週：参考文献③を読む
	7	セクシュアリティ：歴史と発展	
	8	セクシュアリティ：応用	
	9	事例を通じて考える②：沖縄戦と日本軍「慰安所」制度	参考文献①を事前に読む
	10	ゲストスピーカーによる講演会（詳細は授業内で指示する）	前の週に配布の資料を事前に読む
	11	植民地主義：基礎	第11～13週：参考文献②を読む
	12	植民地主義：歴史と発展	
	13	植民地主義：応用	
	14	事例を通じて考える③：沖縄における米兵による性暴力	参考文献①を事前に読む
	15	講義のまとめ	これまでのレジュメで復習してくる
16	学期末試験	テスト勉強	

テキスト・参考文献・資料など
 ・教科書は指定しない ・参考文献として、以下の文献を推薦する
 ①アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」編、2012年、『軍隊は女性を守らない—沖縄の日本軍慰安所と米軍の性暴力』アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」。 ②本橋哲也、2005年、『ポストコロニアリズム入門』岩波書店。 ③河口和也、2003年、『クイア・スタディーズ』岩波書店。 ④関口久志、2009年、『性の“幸せ”ガイド—若者たちのリアルストーリー』エイデル研究所。 ⑤竹村和子、2000年、『フェミニズム』岩波書店

学びの手立て
 履修の心構え
 ・出欠確認は毎回厳格に行うので、欠席・遅刻に注意してください。
 ・沖縄の現代史や現在の時事問題についての基本的な知識を持っていると理解がしやすいと思います。関連科目を取ったり、新聞に目を通す習慣をつけましょう。

評価
 ・平常点30%…毎回コメントペーパーを書いてもらう。
 ・試験70%…基礎概念の用語説明と小論文とする。
 ※無断欠席5回以上は「不可」とする。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 関連科目・次のステージ
 関連科目として「沖縄近代史Ⅰ」「沖縄近代史Ⅱ」
 平和学に関心を持った学生は、社会学ゼミや平和学ゼミの「演習」で自身のテーマを深めてください。

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にものをみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が生成されてきたのかをたどることは、家族を生成してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	現代の社会事象を家族から読み解くことができるようになる。近代・宗教・経済・近代的ジェンダー・国民国家・アディクションなどの視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、家族の構造	初回から講義します
	2	家族に関する統計を読む	基礎的な統計を把握しておく
	3	日本における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
	4	戦後の日本の社会変動と家族	配布資料を熟読すること
	5	沖縄の家族(1)	配布資料を熟読すること
	6	沖縄の家族(2)	配布資料を熟読すること
	7	子どもの社会史	配布資料を熟読すること
8	母親の社会史	配布資料を熟読すること	
9	近代家族と老い	配布資料を熟読すること	
10	家族システムとダブルバインド	配布資料を熟読すること	
11	家族を読み解く(1)	配布資料を熟読すること	
12	家族を読み解く(2)	配布資料を熟読すること	
13	近代家族とアディクション(1)	配布資料を熟読すること	
14	近代家族とアディクション(2)	配布資料を熟読すること	
15	家族と死	配布資料を熟読すること	
16	課題		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で紹介する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおり。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房）②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫）③グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思案社）		
学びの手立て	現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていく。毎回の受講の積み重ねが力になる。		
評価	毎回、配布資料の文脈にそって、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出します。提出されたリアクション・ペーパーと授業参加度（9割）と課題（1割）を勘案して評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境開発論	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	2年		

学びの準備	ねらい 本講義では、環境と開発を捉える視点と方法を学び、あらためて私たちがにとって「環境」とは何か、「開発」とは何かを問うていく。	メッセージ
	到達目標 自らの衣食住にかかわる多種多様な選択がいかに環境の変化に直結しているかを具体的な事例を通して理解できるようになる。人間社会の外部に環境が在るのではなく、人間社会は否応なく環境の一部である、という新たな社会-環境観を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業時に指示した文献の講読
	2	環境問題と現代社会	授業時に指示した文献の講読
	3	私たちの衣食住に直結する環境問題	授業時に指示した文献の講読
	4	映像鑑賞	映像に関連する文献の講読
	5	私たちは何を食べてきたのか：現代社会の食の問題	授業時に指示した文献の講読
	6	ファスト・フード	授業時に指示した文献の講読
	7	食べることの倫理	授業時に指示した文献の講読
	8	肉食と飢餓問題	授業時に指示した文献の講読
	9	映像鑑賞	映像に関連する文献の講読
	10	私たちの来ている服はどこからくるの？	授業時に指示した文献の講読
	11	ファスト・ファッション：安さの代価	授業時に指示した文献の講読
	12	世界第2位の衣料品輸出国の労働問題	授業時に指示した文献の講読
	13	エシカル・ファッション9つの方法：着ることから始まる倫理のかたち	授業時に指示した文献の講読
	14	ファスト・フード/ファスト・ファッション：私たちの社会が抱える問題の構造	授業時に指示した文献の講読
	15	総括	総合的な復習
	16	試験	試験問題のおさらい
	テキスト・参考文献・資料など テキストはとくに指定しない。 参考文献： 鬼頭秀一・福永真弓編 2009 『環境倫理学』東京大学出版会。		
	学びの手立て		
	評価 原則として、リアクションペーパーの内容（20%）と試験（80%）によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前原 直子	2年	ptt756@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習の目的は、英語圏の高校生・大学生向けに書かれた社会/文化人類学の入門書の講読をとおして、人類学の基礎知識を身につけながら、英文の専門資料に親しむことです。毎回、各テーマに関する内容をみんなで分担して読み取り、その内容について話し合いながら理解を深めます。	自分の専門科目の文献を英語で読むことは、なかなかハードルが高い・・・と感じている学生の皆さんも多いと思います。グループで協力し合いながら、少しずつ読んでいきましょう。英文で読むことの楽しさを感じられるようにサポートします。学生の皆さんの主体的な参加を期待しています。
到達目標	英文資料をとおして、文化/社会人類学の基礎知識を身につける。 英文資料を読み理解し、自分の言葉でまとめ、説明・発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	予習
	2	Some history of the field 人類学はいつ、どう始まったか？植民地主義との共犯関係とは？	予習・復習
	3	Anthropology Today 人類学のユニークな特徴とは？人類学を学ぶことの現代的な意義とは？	〃
	4	The biological body 私たちの祖先はどのようにヒトへ進化したのか？	〃
	5	The concept of race 「人種」の考え方・分類はいつ、どう始まったのか？	〃
	6	The social body 私たちは身体をどう使い、どう改造するのか？	〃
	7	Socialization and classification 私たちは世界をどう分類しているか？分類法をどう学ぶのか？	〃
	8	Explanations of misfortune 私たちは災難・不運をどう説明し、どう対処しているか？	これまでの復習まとめ
	9	中間振り返り	予習・復習
	10	Forms of communication 私たちは言葉やボディランゲージなどを使ってどう意思疎通しているか？	〃
	11	Equality, hierarchy, and social power 社会関係はどう編成され、階層化されているか？	〃
	12	Kinship across culture 家族・親族の形や関係はどう編成されているか？	〃
	13	Social and cultural construction of nature 生業手段と環境に対する認識はどう関わっているか？	〃
14	Becoming a person 「人であること」やその始まりや終わりは社会のなかでどう認識されるのか？	〃	
15	What makes up a person? 「人であること」は社会的な役割とどう関わっているか？	復習まとめ	
16	最終振り返り		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	主に以下の文献から、抜き刷りを配布します。 Hendry, J. & S. Underdown. 2012. Anthropology: A Beginner's Guide. Oxford: Oneworld Publications Pountney, L. & Maric, T. 2015 Introducing Anthropology: What Makes Us Human? Cambridge: Polity Press		
	学びの手立て		
	①授業では、グループでの話し合いや発表があります。学生の皆さんの主体的な参加が期待されます。 ②出席を重視します。無断欠席、遅刻は厳禁です。(遅刻3回で欠席1回とカウントされます。欠席5回以上は「不可」となりますので、気を付けてください。) ③配布資料やワークシートなどをファイルなどに綴り、自分の学びのプロセスとして確認できるようにしてください。(中間・最終振り返りで使います。)		
	評価		
	授業での話し合い・発表への積極的な参加・・・30% ワークシート(毎回提出)・・・30% 中間振り返り・最終振り返り・・・40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「外国語資料講読演習 II」
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	2年		

学びの準備	ねらい 本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに歴史領域と考古・先史領域の学生を対象としている。本演習では、歴史と考古・先史に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを目指す。	メッセージ
	到達目標 歴史と考古・先史に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業の予習
	2	基礎テキストの講読 (1)	授業の予習・復習
	3	基礎テキストの講読 (2)	授業の予習・復習
	4	基礎テキストの講読 (3)	授業の予習・復習
	5	基礎テキストの講読 (4)	授業の予習・復習
	6	基礎テキストの講読 (5)	授業の予習・復習
	7	基礎テキストの講読 (6)	授業の予習・復習
	8	復習	授業の予習・復習
	9	基礎テキストの講読 (1)	授業の予習・復習
	10	基礎テキストの講読 (2)	授業の予習・復習
	11	基礎テキストの講読 (3)	授業の予習・復習
	12	基礎テキストの講読 (4)	授業の予習・復習
	13	基礎テキストの講読 (5)	授業の予習・復習
	14	基礎テキストの講読 (6)	授業の予習・復習
15	復習	授業の総合的な復習	
16	試験	授業の総合的な復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、必要な部分を印刷して配布する。 関連する重要な文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 原則として、授業参加度 (30%) と試験 (70%) を総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	2年	学内LAN メールアドへ	

学びの準備	ねらい 社会学専攻の学生を対象とした本講義では、欧米の社会学理論史を英語で学ぶ。社会学の父コントから主要な社会学者の論点を、現代に至るまで触れる。学生が訳を発表し、それにコメントする形で授業を進行する。おおいにディスカッションを歓迎する。	メッセージ 基本的な社会学理論を理解する学生になって欲しい。
	到達目標 社会を見る際にある程度の社会的視点で見れるようになることを目指す。	

学びの準備	ねらい 社会学専攻の学生を対象とした本講義では、欧米の社会学理論史を英語で学ぶ。社会学の父コントから主要な社会学者の論点を、現代に至るまで触れる。学生が訳を発表し、それにコメントする形で授業を進行する。おおいにディスカッションを歓迎する。	メッセージ 基本的な社会学理論を理解する学生になって欲しい。
	到達目標 社会を見る際にある程度の社会的視点で見れるようになることを目指す。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明と発表順の決定	
	2	末吉がオーギュスト・コントとフランス革命について説明	
	3	学生による発表～15週まで	
	4	(デュルケム、マルクス、ウェーバー、パーソンズ、マートン、ポストモダンの思想家たち等)	
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 印刷物を配布し、テキストとする。
-------	------------------------------------

学びの実践	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションを通じて学び合いたい。
-------	---

学びの実践	評価 前期は個人発表の(40点)、期末テスト(40点)を行う。出席点を20点とし、合計で評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前原 直子	2年	ptt756@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習の目的は、英語圏の高校生・大学生向けに書かれた社会/文化人類学の入門書の講読をとおして、人類学の基礎知識を身につけながら、英文の専門資料に親しむことです。毎回、各テーマに関する内容をみんなで分担して読み取り、その内容について話し合いながら理解を深めます。	自分の専門科目の文献を英語で読むことは、なかなかハードルが高い・・・と感じている学生の皆さんも多いと思います。グループで協力し合いながら、少しずつ読んでいきましょう。英文で読むことの楽しさを感じられるようにサポートします。学生の皆さんの主体的な参加を期待しています。

到達目標	英文資料をとおして、文化/社会人類学の基礎知識を身につける。 英文資料を読み理解し、自分の言葉でまとめ、説明・発表することができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	担当箇所の講読
	2	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	3	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	4	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	5	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	6	テキストの講読・発表・ディスカッション	復習
	7	中間振り返り	担当箇所の講読
	8	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	9	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	10	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	11	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	12	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	13	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
	14	テキストの講読・発表・ディスカッション	担当箇所の講読
15	テキストの講読・発表・ディスカッション	復習	
16	最終振り返り		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>主に以下の文献から、抜き刷りを配布します。 Hendry, J. & S. Underdown. 2012. Anthropology: A Beginner's Guide. Oxford: Oneworld Publications Pountney, L. & Maric, T. 2015 Introducing Anthropology: What Makes Us Human? Cambridge: Polity Press</p>
----	--

学びの手立て	<p>①授業では、グループでの話し合いや発表があります。学生の皆さんの主体的な参加が期待されます。</p> <p>②出席を重視します。無断欠席、遅刻は厳禁です。(遅刻3回で欠席1回とカウントされます。欠席5回以上は「不可」となりますので、気を付けてください。)</p> <p>③配布資料やワークシートなどをファイルなどに綴り、自分の学びのプロセスとして確認できるようにしてください。(中間・最終振り返りで使います。)</p>
--------	--

評価	<p>授業での話し合い・発表への積極的な参加・・・30%</p> <p>ワークシート(毎回提出)・・・30%</p> <p>中間振り返り・最終振り返り・・・40%</p>
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	2年		

学びの準備	ねらい 本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに歴史領域と考古・先史領域の学生を対象としている。本演習では、歴史と考古・先史に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを目指す。	メッセージ
	到達目標 歴史と考古・先史に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになったうえで、さらに専門的な英文テキストを正確に翻訳・読解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業の予習
	2	専門テキストの講読（1）	授業の予習・復習
	3	専門テキストの講読（2）	授業の予習・復習
	4	専門テキストの講読（3）	授業の予習・復習
	5	専門テキストの講読（4）	授業の予習・復習
	6	専門テキストの講読（5）	授業の予習・復習
	7	専門テキストの講読（6）	授業の予習・復習
	8	復習	授業の予習・復習
	9	専門テキストの講読（1）	授業の予習・復習
	10	専門テキストの講読（2）	授業の予習・復習
	11	専門テキストの講読（3）	授業の予習・復習
	12	専門テキストの講読（4）	授業の予習・復習
	13	専門テキストの講読（5）	授業の予習・復習
14	専門テキストの講読（6）	授業の予習・復習	
15	復習	授業の総合的な復習	
16	試験	授業の総合的な復習	
テキスト・参考文献・資料など テキストは、必要な部分を印刷して配布する。 関連する重要な文献は、適宜紹介する。			
学びの手立て			
評価 原則として、授業参加度（30%）と試験（70%）を総合し評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	2年	学内LAN メールアドへ	

学びの準備	ねらい 後期は、前期に学んだ社会学理論を前提として社会問題を学ぶ。アメリカの学部生がよく使うテキストを使用するが、日本とは異なる視点に注目し、米国の文化についても触れることを目的とする。このテキストは家庭問題から政府の問題まで数多くの社会問題を扱っている。それを学生が担当して翻訳発表し、コメントを混ぜながら授業を進める。	メッセージ 社会問題をなるべく冷静に見ることができることを目指したい。
	到達目標 様々な社会問題を四つの社会学的視点から分析する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	分担ページの決定	
	2	末吉が四つの社会学的視点（機能主義、ファミニズム、紛争主義、相互行為主義）の説明	
	3	担当者による発表と末吉によるコメント～15週まで	
	4	（家族、教育、経済、政府、健康、貧困、民族的少数派、高齢者、男女、	
	5	性行動、ドラッグ、犯罪、都市化、人口、環境、格差、戦争等から各自選択）	
	6		
	7		
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16	テストかペーパー提出(授業の進行状況で決める)		
実践	テキスト・参考文献・資料など James W Coleman & Donald Clessey, 'SOCIAL PROBLEMS' (New York, Harper & Roe, Publications, 1999)- 図書館に指定文献として置いておくので、それを各自でコピーして使用すること。		
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションしながらの授業を行いたい。		
	評価 後期は発表（40点）、期末ペーパーor試験（小論40点）を課す。 出席点を20点とし、合計で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学概論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 考古学の学問的特質について理解し、考古学におけるモノの見方・考え方を学ぶ。授業では、考古学の歴史、基礎理論および研究素材となる対象物と研究方法について紹介する。あわせて、考古学研究成果について代表的な事例を幾つか紹介する。考古学の学問的特質について基礎知識の習得を目標とする。	メッセージ 初学者にもわかりやすく教えます。受講後は5号館ロビーにある土器が輝いて見えるはずですよ。
	到達目標 考古学のモノの見方・考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 ニュースで取り上げられる発掘調査の成果について、関心を持ち内容を理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学の定義と研究領域	関連資料を配布するので読むこと
	3	考古学の歴史（1）欧米における考古学の歩み	関連資料を配布するので読むこと
	4	考古学の歴史（2）日本における考古学の歩み	関連資料を配布するので読むこと
	5	考古学の歴史（3）沖縄における考古学の歩み	関連資料を配布するので読むこと
	6	型式学について	関連資料を配布するので読むこと
	7	層位学について	関連資料を配布するので読むこと
	8	絶対年代と相対年代と編年	関連資料を配布するので読むこと
	9	発掘調査について	関連資料を配布するので読むこと
	10	遺跡、遺物、遺構	関連資料を配布するので読むこと
	11	文化、社会、分布	関連資料を配布するので読むこと
	12	考古学の諸分野と関連科学	関連資料を配布するので読むこと
	13	世界・日本の遺跡調査の実例	関連資料を配布するので読むこと
	14	沖縄の遺跡調査の実例	関連資料を配布するので読むこと
	15	※授業の1回を考古学関連の展示会見学を予定	課題を提出すること
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。 参考文献：①鈴木公雄1988年『考古学入門』東京大学出版会。②佐々木憲一・ほか2010年『はじめて学ぶ考古学（有斐閣アルマ）』有斐閣。③小林達雄2007年『考古学ハンドブック』新書館。④菊池徹夫2013年『はじめての考古学（あさかく選書4）』朝日出版社。⑤菊池徹夫2007年『考古学の教室—ゼロからわかるQ&A65（平凡社新書）』平凡社。⑥藤本強2000年『考古学の方法—調査と分析』東京大学出版会。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行う。やむを得ず遅刻・欠席する際は欠席届を提出すること。 ・考古学を最初に学ぶ基礎的な単元として、平易な授業内容になるよう配慮する。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト（80%）・課題（10%）。平常点（10%）。 ※出欠状況については、無断欠席5回以上になると「不可」とする。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究の基礎を身につけ自身の研究計画に考古学研究の成果についても活かすこと。 関連科目としては「考古学概論2」「沖縄の考古学」。 上位科目としては「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特講 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 考古学はモノから歴史を復元する学問である。授業では、遺構、遺物からどのように歴史復元を行うかについて一緒に考える。考古資料の見方と研究方法を理解し、考古資料を分析する力を身につける。	メッセージ モノをよく観察すること。報告書をしっかり熟読すること。
	到達目標 報告書を読んで遺物や遺構が具体的にイメージできるようになる。	

学びの準備	到達目標 報告書を読んで遺物や遺構が具体的にイメージできるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学的発見と研究について	関連資料を配付するので読むこと
	3	建物跡の発掘の実際	関連資料を配付するので読むこと
	4	報告書の読解とデータシート作成	関連資料を配付するので読むこと
	5	建物跡の復元と検証	関連資料を配付するので読むこと
	6	建物跡のセット関係と周辺空間の分析	関連資料を配付するので読むこと
	7	土器研究の方法	関連資料を配付するので読むこと
	8	実物の土器と報告書掲載内容	関連資料を配付するので読むこと
	9	土器製作と実験（1）	課題に取り組むこと
	10	土器製作と実験（2）	課題に取り組むこと
	11	土器型式と編年	関連資料を配付するので読むこと
	12	出土銭貨の研究	関連資料を配付するので読むこと
	13	出土銭貨研究の方法	関連資料を配付するので読むこと
	14	グスクと集落の研究	関連資料を配付するので読むこと
	15	グスクと集落と社会	関連資料を配付するので読むこと
16	レポート提出	課題に取り組むこと	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。基本的に講義形式で行い、毎回資料を配付予定。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下に注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、厳格に厳守の上必ず取り組むこと。 ・各自関心のある考古資料について、博物館等へ出かけ実見するとともに、報告書を適宜読むこと。 ・考古学に関する報告書を事前に読んで、予習復習を怠らないようにすること。
-------	--

学びの実践	評価 課題（80%）。平常点（20%）。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究の実践的授業として位置づける。関連科目としては「考古学特講Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	---

科目基本情報	科目名 考古学特講Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 水2	単位 2
	担当者 宮城 弘樹	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 日本国内で行われる発掘調査の多くは、行政発掘と呼ばれる行政機関が実施する発掘調査である。このため埋蔵文化財保護行政の担い手の多くが考古学的知識を有する専門員（技師）によって担われている。授業では、埋蔵文化財の発掘調査の実例に即して解説し、沖縄における各行政機関等の取り組みを中心に紹介する。	メッセージ 博物館や地方行政の実際の現場の取り組みを中心に紹介します。
	到達目標 考古学と文化財保護政策の基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	文化財保護行政とは	関連資料を配付するので読むこと
	3	埋蔵文化財について	関連資料を配付するので読むこと
	4	県内の各市町村所在の指定文化財について	課題発表
	5	発掘調査の計画	課題に取り組むこと
	6	発掘調査の方法	仲間とともに課題に取り組むこと
	7	遺構の実測（1）	実習
	8	遺構の実測（2）	実習
	9	遺物のトレース（1）	課題に取り組むこと
	10	遺物のトレース（2）	課題に取り組むこと
	11	報告書の作成	関連資料を配付するので読むこと
	12	印刷所見学	関連資料を配付するので読むこと
	13	遺構・遺物の撮影	関連資料を配付するので読むこと
	14	まとめ・遺跡を取り巻く社会環境と支援組織	関連資料を配付するので読むこと
	15	※行政機関が実施する発掘調査現場の見学を予定する	関連資料を配付するので読むこと
	16	レポート提出	課題に取り組むこと
	テキスト・参考文献・資料など 出席確認は毎回厳格に行う。 基本的に講義形式で行い、毎回資料を配付予定。 テキストは指定しないが、将来考古学の仕事に就きたい学生は、以下の参考文献の購入を勧める。 文化庁文化財部記念物課（監修）2010年『発掘調査のてびき』同成社。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下に注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、切を厳守の上必ず取り組むこと。 ・各自参考資料をよく読むこと。 ・考古学に関する専門性の高い授業を行うので、予習復習を怠らないようにすること。		
	評価 課題（80％）。平常点（20％）。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究の実践的授業として位置づける。関連科目としては「考古学特講Ⅰ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際関係論	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-河村 雅美	2年	mamikw@nifty.com 授業終了後に教室・非常勤講師室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際関係を、環境問題という国境を越えるグローバルな問題を通して学びます。国連や国際環境機関のシステム、環境に関する国際条約などの枠組みや、環境問題のための国際的な運動を通じて、国際関係を理解していくことが目的です。また、環境問題が民主主義や人権の問題と深く関わることや、地域と国際社会との関係についても、沖縄からひきつけて考える機会を設けて学んでいきます。	担当講師は、地元沖縄の環境調査団体「インフォームド・パブリック・プロジェクト」で活動しているため、沖縄の環境問題のホットな実践の話をおりませながら、授業を展開していきます。現在は、沖縄の米軍基地の環境問題、汚染問題を中心とした活動をしており、そこから見える日本・米国・沖縄の関係の問題も考えていきたいと思っています。映像なども用いて理解を助ける予定です。
到達目標	(1) 国際的な環境関係の基礎知識（代表的な国際会議や国際機関、条約、枠組み）を身につけること。 (2) 環境問題と人権、民主主義などの関係について理解し、論じることができるようにすること。 (3) 地域と国家、国際社会との関係について論じることができるようにすること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・ガイダンス	シラバスや授業の流れの理解
	2	環境問題が持つ射程(1)環境問題の「国際化」の歴史的経緯	配布補助資料の理解
	3	環境問題が持つ射程(2)環境問題と国際機関・会議・条約	配布補助資料の理解
	4	環境問題が持つ射程(3)「公害」「環境」「地球環境」問題	配布補助資料の理解
	5	環境問題が持つ射程(4)「人権」「民主主義」と環境	リアクション・ペーパー執筆
	6	国際条約の枠組みから(1)「生物多様性」という概念	配布補助資料の理解
	7	国際条約の枠組みから(2)生物多様性条約：「保護」「保全」「再生」	配布補助資料の理解
	8	国際条約の枠組みから(3)生物多様性条約：資源をめぐる南北問題	配布補助資料の理解
	9	地域と国際社会：沖縄と国際環境運動 国際環境機関と沖縄 新石垣空港建設問題	リアクション・ペーパー執筆
	10	地域と国際社会：沖縄と国際環境運動 国際環境機関と沖縄 基地問題の環境問題化	配布補助資料の理解
	11	地域と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際環境機関と沖縄 やんばるの世界自然遺産登録	配布補助資料の理解
	12	地域と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際裁判という手段 ジュゴン訴訟	リアクション・ペーパー執筆
	13	地域と国際社会：沖縄の国際環境運動 基地環境汚染問題 枯れ葉剤問題・土壌汚染	配布補助資料の理解
14	地域と国際社会：沖縄の国際環境運動 基地環境汚染問題 水質汚染（嘉手納基地・普天間基地）	リアクション・ペーパー執筆	
15	予備日（レポートの書き方指導等）		
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは指定しない。 ・レジュメを配布する。 ・レジュメに参考文献等を記す 		
学びの手立て	<p>オリエンテーションでの説明が最終的なシラバスになります。 [履修の心構え] 暗記で知識を詰め込むのではなく、自ら学んだことを一定量の文章に書いていくことを重視します。 [学びの手立て] 現在進行中の問題に触れながら講義を進めていくので、日常でも、積極的に新聞を読んだり、インターネット等で国際的な時事問題を追ってほしいと思います。</p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加姿勢（平常点） 授業参加度を評価するリアクションペーパー等の提出 40点 40% ・レポート 60点 到達目標(1)(2)(3)を評価できるようにする。60% レポート提出のみでは採点対象とならない。 詳細は授業時に発表する。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際社会学	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野入 直美	2年	knori@ll.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代社会を人の移動とグローバリゼーションという視覚から、沖縄移民とアイデンティティ、人の移動、国際結婚、「ダブル」の子どもたちの教育、多文化主義とナショナリズムなどのトピックスを中心に学ぶ。	メッセージ グループワークを行います。話しやすいテーマから始めますので、ディスカッションや発表が苦手な人も気楽に参加してください。
	到達目標 現代社会における人の移動とグローバリゼーションの諸相を理解し、自分自身にひきつけて考察し、フィールドワークによって現場に根ざした新たな知見を獲得し、グループワークを通して議論と発信を行う。市民として、また職業人として、さまざまな文化・言語的背景をもった人びとと「共に生きる」ための資質を育む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	沖縄というとき、あなたの視野に八重山は入っているか？
	3	「アジアに開かれた沖縄」を離島から考える①八重山の台湾人
	4	「アジアに開かれた沖縄」を離島から考える②宮古・石垣のフィリピン女性
	5	チキンスープの沖縄ソパルーパーのウチナーンチュにみる移民と文化変容
	6	「ウチナーンチュ」って誰のこと？ー沖縄移民とアイデンティティ
	7	海外の沖縄系移民子弟が沖縄で学ぶスタディー・ツアーの歴史と現在
	8	実践編：海外移住者子弟研修生と交流してみる
	9	フィールドワーク：世界若者ウチナーンチュ会議に参加してみる
	10	フィールドワーク②：世界のウチナーンチュ大会に参加してみる
	11	沖縄の内なる多様性ーアメラジアン、「ダブル」であることの意味を考える
	12	フィールドワーク③：アメラジアンスクールに行ってみる
	13	現代日本における多民族・多文化状況
	14	マイノリティと差異をとらえる理論枠組み
15	口頭試問①プレゼンテーション	
16	口頭試問②プレゼンテーション	
時間外学習の内容		
実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献として塩原良和『共に生きるー多民族・多文化社会における対話』（弘文堂、2012年、1200円＋税）を指定する。	
	学びの手立て 遅刻3回で欠席1回とみなし、欠席4回で不合格とします。講義の後に少人数のグループで話し合い、発表するグループワークを行います。	
	評価 グループワークへの参加と貢献：30点、フィールドワークへの参加とコミットメント20点、口頭試問50点で評価。口頭試問は学んだテーマのうち一つを選び、自分で問いを立てて考察し、発表する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ダグラス トライスタット	2年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062	

学びの準備	ねらい 世界各国の様々な戦争や紛争は米ソの冷戦に密接に結びつけられていると思われていたが、冷戦が終わっても、新しい平和の時代は実現されなかった。かえって、戦争や民族紛争が増える傾向がある。この授業では海外の研究者が様々な観点から見た戦争や民族紛争を分析、主な学説、理論を検討する。	メッセージ ウィキペディアは使用不可。他のオン・オフライン情報源を活用すること。
	到達目標 ひとつの紛争地域に関してマッピング・プロジェクトを完成させること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) # Theme Homework 1 オリエンテーション、LMSの登録 2 世界の民族紛争、グループテーマの選定 3 紛争マッピングの概要 4 民族紛争の事例紹介 5 地理的概要 6 歴史的概要 7 当事者 1 8 当事者 2 9 原因と結果 10 思想と信仰 1 11 思想と信仰 2 12 目的と目標 13 最近の動き 14 争点と選択肢 15 問題解決の可能性 16 まとめ
	テキスト・参考文献・資料など ・岡本三夫・横山正樹 編、平和学の現在、1999、法律文化社。 ・新聞、雑誌、インターネットから収集した資料。LMSコースページ参照のこと
	学びの手立て Means of learning このコースではグループの協働作業によって最大の結果を出すプロセスを学ぶ。それぞれがグループとメンバー貢献する姿勢を養う。
	評価 レポート - 20% 発表と授業参加 - 80%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古文書講読Ⅰ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>文献史料は文書、記録、編纂物や典籍に分類されます。なかでも一次史料である文書と記録は、意味内容とともに形態・様式・機能・伝来など豊富な歴史情報を持っています。よって、文字(くずし字)と文章(候文)が読めなければ、内容や背景の世界に入っていきません。本講義のねらいは、くずし字を判読し、候文(和様漢文)を読み下し、文章の主旨をつかむ訓練をすることにあります。</p>	<p>本学図書館は沖縄県内の市町村史を多く収蔵しますが、それぞれの地域に伝わる文書や記録を収録しています。身近な市町村史をめぐってみてください。また、県内の博物館の常設展や企画展でも貴重な史料が展示されます。足を運んで現物の迫りに接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> くずし字を判読・翻刻し、候文(和様漢文)を読み下すことができるようになる。 文書や記録(日記)の文章の主旨を理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、文書と記録の違い、文書と古文書の違い	
	2	「在勤中日記」の解題	
	3	活字化された関連史料を読むー候文に慣れるー	
	4	「在勤中日記」を読んでみましょうーくずし字に慣れるー	
	5	「在勤中日記」の講読①(受講生へ翻刻と読み下しを割り当て)	
	6	「在勤中日記」の講読②(同上)	
	7	「在勤中日記」の講読③(同上)	
	8	「在勤中日記」の講読④(同上)	
	9	「在勤中日記」の講読⑤(同上)	
	10	「在勤中日記」の講読⑥(同上)	
	11	「在勤中日記」の講読⑦(同上)	
	12	「在勤中日記」の講読⑧(同上)	
	13	「在勤中日記」の講読⑨(同上)	
	14	「在勤中日記」の講読⑩(同上)	
15	まとめ		
16	期末試験		

<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト・資料】皆さんと講読する史料は、尚家文書343号「在勤中日記」(那覇市歴史博物館蔵)です。1871年、首里王府が鹿児島に派遣した在番親方である池城親方の公務日記です。鹿児島での活動の様子を詳しく知ることができます。二回目の講義でコピーを配布します。</p> <p>【参考文献】林英夫・若尾俊平編『増訂 近世古文書解説辞典』(柏書房、1972年)</p>
--

<p>学びの手立て</p> <p>くずし字と候文をはじめからスラスラ読める人はいません。外国語と同じです。慣れ親しむためには、声を出して量を読むことが大切です。少しずつ読めるようになると自信がつかますよ。あきらめないでください。</p>
--

<p>評価</p> <p>史料の講読に取り組む姿勢(30%)と期末試験の結果(70%)によって総合的に評価します。特に前者では、担当箇所だけでなく、くずし字と候文を読めるようになりたいという意欲や態度を重視します。</p>

<p>学びの継続</p> <p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅱ」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を希望します。</p>
--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古文書講読Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>文献史料は文書、記録、編纂物や典籍に分類されます。なかでも一次史料である文書と記録は、意味内容とともに形態・様式・機能・伝来など豊富な歴史情報を持っています。よって、文字（くずし字）と文章（候文）が読めなければ、内容や背景の世界に入っていきません。本講義のねらいは、くずし字を判読し、候文（和様漢文）を読み下し、文章の主旨をつかむ訓練を積むところにあります。</p>	<p>本学図書館は沖縄県内の市町村史を多く所蔵しますが、それぞれの地域に伝わる文書や記録を収録しています。身近な市町村史をめぐってみましょう。また、県内の博物館の常設展や企画展でも貴重な史料が展示されます。実際に足を運んで現物の迫力に接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を判読し、候文（和様漢文）を読み下すことができるようになる。 ・文書や記録（日記）の文章の主旨を理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、文書と記録の違い、文書と古文書の違い	
	2	「在勤中日記」の解題	
	3	活字化された関連史料を読むー候文に慣れるー	
	4	「在勤中日記」を読んでみましょうーくずし字に慣れるー	
	5	「在勤中日記」の講読①（受講生へ翻刻と読み下しを割り当て）	
	6	「在勤中日記」の講読②（同上）	
	7	「在勤中日記」の講読③（同上）	
8	「在勤中日記」の講読④（同上）		
9	「在勤中日記」の講読⑤（同上）		
10	「在勤中日記」の講読⑥（同上）		
11	「在勤中日記」の講読⑦（同上）		
12	「在勤中日記」の講読⑧（同上）		
13	「在勤中日記」の講読⑨（同上）		
14	「在勤中日記」の講読⑩（同上）		
15	まとめ		
16	期末試験		
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト・資料】前期の「古文書講読Ⅰ」に引き続き、尚家文書343号「在勤中日記」（那覇市歴史博物館蔵）を講読します。1871年、首里王府が鹿児島に派遣した在番親方である池城親方の公務日記です。鹿児島での活動の様子を具体的に知ることができます。前期の続きの部分からコピーを配布します。</p> <p>【参考文献】林英夫・若尾俊平編『増訂 近世古文書解説辞典』（柏書房、1972年）</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>史料は声を出して量を読むことで身体になじんできます。その日読んだ箇所を繰り返し音読することをおすすめします。</p>		
	<p>評価</p> <p>史料の講読に取り組む姿勢（30%）と期末試験の結果（70%）によって総合的に評価します。特に前者では、担当箇所だけでなく、くずし字と候文を読めるようになりたいという意欲や態度を重視します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅰ」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を希望します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	1年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、社会学の基本的な概念や思考枠組（考え方、ものの見方）を学習することからスタートし、現代社会を分析的に読み解く社会学の想像力と歴史的想像力を習得、他者の発見・理解を通して、社会の仕組み（構造）を解明することをめざします。「あたりまえ」を相対化し、個人的なことから社会全体との関わりの中で捉え、人間社会の様々な問題群とその現代的課題を考えます。</p>	<p>社会学は「人間」と「社会」との関係を様々な角度から検証する学問です。近代社会の様々な問題群とその現代的課題を探究し、「認識」を通じてより良い社会の構想を試みてください。</p>
到達目標	<p>①社会学の基本的な概念を理解する。 ②現代社会を批判的（分析的）に読み解くための社会学の思考枠組み（ものの見方）を習得する。 ③他者の発見・理解を通じて社会の仕組み（構造）を捉える。 ④「あたりまえ」を相対化し、その歴史的・社会的構築性を理解する。 ⑤個人的なことから社会的なことからとの関係を捉える。 ⑥オルタナティブな視点に立ち、より良い社会のあり方を構想する。</p>	

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>2</td><td>社会学への誘いー「社会」とは何か、「社会学」とは何か？</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>3</td><td>自己と相互行為ー「私」って何だろう？</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>4</td><td>社会秩序と権力を考える</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>5</td><td>組織と現代社会</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>6</td><td>メディアとコミュニケーション</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>7</td><td>グローバリゼーションと国民国家</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>8</td><td>前半ふりかえりと中間テスト</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>9</td><td>格差と階級・階層ー変貌する労働の世界</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>10</td><td>エスニシティと境界</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>11</td><td>性をめぐる現象とその構築性・多様性ージェンダーとセクシュアリティ</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>12</td><td>家族をめぐる社会学</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>13</td><td>人口変動と現代世界</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>14</td><td>文化と再生産</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>15</td><td>社会運動と社会構想</td><td>授業内で指示する</td></tr> <tr><td>16</td><td>学期末テスト</td><td>授業内で指示する</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	イントロダクション	授業内で指示する	2	社会学への誘いー「社会」とは何か、「社会学」とは何か？	授業内で指示する	3	自己と相互行為ー「私」って何だろう？	授業内で指示する	4	社会秩序と権力を考える	授業内で指示する	5	組織と現代社会	授業内で指示する	6	メディアとコミュニケーション	授業内で指示する	7	グローバリゼーションと国民国家	授業内で指示する	8	前半ふりかえりと中間テスト	授業内で指示する	9	格差と階級・階層ー変貌する労働の世界	授業内で指示する	10	エスニシティと境界	授業内で指示する	11	性をめぐる現象とその構築性・多様性ージェンダーとセクシュアリティ	授業内で指示する	12	家族をめぐる社会学	授業内で指示する	13	人口変動と現代世界	授業内で指示する	14	文化と再生産	授業内で指示する	15	社会運動と社会構想	授業内で指示する	16	学期末テスト	授業内で指示する	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
	1	イントロダクション	授業内で指示する																																																		
2	社会学への誘いー「社会」とは何か、「社会学」とは何か？	授業内で指示する																																																			
3	自己と相互行為ー「私」って何だろう？	授業内で指示する																																																			
4	社会秩序と権力を考える	授業内で指示する																																																			
5	組織と現代社会	授業内で指示する																																																			
6	メディアとコミュニケーション	授業内で指示する																																																			
7	グローバリゼーションと国民国家	授業内で指示する																																																			
8	前半ふりかえりと中間テスト	授業内で指示する																																																			
9	格差と階級・階層ー変貌する労働の世界	授業内で指示する																																																			
10	エスニシティと境界	授業内で指示する																																																			
11	性をめぐる現象とその構築性・多様性ージェンダーとセクシュアリティ	授業内で指示する																																																			
12	家族をめぐる社会学	授業内で指示する																																																			
13	人口変動と現代世界	授業内で指示する																																																			
14	文化と再生産	授業内で指示する																																																			
15	社会運動と社会構想	授業内で指示する																																																			
16	学期末テスト	授業内で指示する																																																			
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2007『社会学』有斐閣。 ギデンズ, A., 2005『社会学』（第5版）而立書房。 【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。 【資料】毎回の授業でパワーポイント資料を配布します。</p>																																																				
学びの手立て	<p>①本講義は、受講生による「復習」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料を見直し、テキストの該当章と参考文献を読み、理解を深めてください。 ②本講義は、基本的に、担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生の積極的な参加・発言を期待しています。 ③授業終了時に、その日の講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察や問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。</p>																																																				
評価	<p>平常点、中間テスト、学期末テスト（あるいは学期末レポート）の結果に基づいて総合的に評価します。配点については、第1回目の講義でお知らせします。</p>																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会学理論、ジェンダー論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学理論	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	2年	講義終了直後およびオフィスアワーに随時対応する	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	社会的存在としての<わたし>を見する視点を確認したうえで社会構造・社会問題へと視野を広げるために、必要とされる理論を紹介し、それぞれの位置づけや相互の関連性を把握できるようにする。	具体的な事象を想像しながら概念を用いるという思考方法に挑戦してもらいたい。

到達目標	社会学で用いられる重要な理論を知ることを通して、社会学の問題意識と認識方法を習得し、それによって日常的な出来事を読み解く思考を身につける。
------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 講義内容と課題についてのガイダンス 第2回 自己と他者の認識① アイデンティティ 第3回 自己と他者の認識② ステイグマとラベリング 第4回 自己と他者の認識③ ジェンダーとセクシュアリティ 第5回 近代を論じる視点① 近代化と個人化 第6回 近代を論じる視点② 規律訓練 第7回 近代を論じる視点③ 想像の共同体 第8回 近代を論じる視点④ 世界システムとグローバリゼーション 第9回 労働と社会① 賃金労働と階級 第10回 労働と社会② 身体の規律化とフォーディズム 第11回 労働と社会③ 脱工業化と感情労働 第12回 労働と社会④ 性別分業と家族 第13回 社会の絆を考える① 貧困とセーフティーネット 第14回 社会の絆を考える② 福祉国家と新自由主義 第15回 社会の絆を考える③ ベーシックインカムと視点 第16回 学期末テスト
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、必要な資料を配布し、関連する文献を紹介する。 参考文献 西澤晃彦・渋谷望『社会学をつかむ』（有斐閣、2008年）
	学びの手立て 講義で配布する資料と板書内容を繰り返し読みながら、粘り強く考えることが重要である。
	評価 学期末テスト50%、小レポート20%、参加姿勢30%

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会平和領域の専門応用科目
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法 I	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国際社会から家族まで、私たちが生活する社会の中で起こる様々な社会現象・社会問題が「なぜ」成り立っているのか、社会調査はそれを考える手段といえます。本講義では社会調査の意義、倫理、資料収集・実査・分析までのプロセスの基礎について学びます。</p> <p>到達目標：基礎的な社会調査の知識を習得し、簡単な調査企画や調査データを解釈することができる。</p>	<p>「調べる」技術は、レポート・卒業論文に必要なだけでなく、実社会に出てからも重要なスキルのひとつです。受講に際して、調べることを「面白い」姿勢を期待します。当たり前とと思っていた自分の暮らしてきた社会について、改めて調べて、考えることで、目の前の世界が違った意味を持っていることに思いをはせて欲しいと思います。</p>
到達目標	<p>1. 調査を企画・実施する前提となる、社会調査の基礎的な知識を習得している。(関連：テスト)</p> <p>2. 自分の興味・関心のある事象について、データとともに意見を書くことができる。(関連：レポート)</p> <p>3. 自分の身近な社会のできごとについて、自分なりの問題意識をもって考えることができる。(関連：テスト・レポート)</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション (本講義の目的・内容・スケジュールの紹介)	①新聞・ネット等でニュース調べ
	2	社会調査は何のためにやるのか? (社会調査の目的、用途)	①+②興味のある事象の本を読む
	3	社会調査はどのように行われてきたか? (社会調査史)	同上
	4	社会調査で心に留めるべきことは何か? (調査倫理)	同上
	5	社会調査にはどんなものがあるのか? 1 (調査の種類と実例)	同上
	6	社会調査にはどんなものがあるのか? 2 (量的調査と質的調査)	①+②+③量的調査の事例を集める
	7	社会調査にはどんなものがあるのか? 3 (統計的調査と事例研究法)	同上
	8	社会調査の手順の流れはどうなっているのか? (企画からまとめ・公表まで)	同上
	9	調査を始めるためにまずやるべきことは何か? (調査のための情報収集)	①+②+③+④図書館等で資料閲覧
	10	調査の手がかりになるものは何か? 1 (国勢調査と官庁統計、世論調査)	同上
	11	調査の手がかりになるものは何か? 2 (学術調査、マーケティング・リサーチ)	同上
	12	具体的にどのように調査を進めるのか? 1 (調査票調査)	①~④+レポートの執筆メモ作成
	13	具体的にどのように調査を進めるのか? 2 (フィールドワーク)	同上
14	調査をどのようにまとめるのか? (分析の進め方の概要)	同上	
15	ふりかえりとまとめ	講義ノート・配布資料の復習	
16	テスト (期末試験)	試験内容とテキスト等の読み合わせ	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>下記のテキストを使用する。その他、講義中で参考文献を紹介する。</p> <p>○主テキスト (要購入) 大谷信介、他編著、『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—ネルヴァ書房、2013年</p> <p>○副テキスト (購入は任意) 篠原 清夫・清水 強志・榎本 環・大矢根 淳=編『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂、2010年、宮内泰介『自分で調べる技術 ~市民のための調査入門~』岩波書店、2004年</p>	
	学びの手立て	<p>①履修の心がまえ・学則等に沿って、講義日数の3分の2以上の出席をもって評価対象とする。欠席の場合、必ず欠席届を事前または事後に提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては退席を命じることがある。その場合、欠席扱いとする。 <p>②学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌 (一般誌・専門誌)、ニュースサイト等を日常的に目を通す。 ・講義中で紹介する書籍、資料等について、自分で調べる・入手して読む ・気になるニュース等について情報を収集し、毎講義でのコメントカードに短く意見を書く等こまめに情報を仕入れて、出す練習をすると学習に役立つと思います。 	
	評価	<p>平常点：30%、テスト：30%、レポート：40%</p> <p>平常点：毎講義でのコメントペーパー提出、受講態度、その他 (小テスト・レポート等を実施することがある)</p> <p>テスト：期末テスト (論述式。講義内容を踏まえ、社会調査の基本的なプロセスを理解しているかを問う)</p> <p>レポート：興味・関心のある社会現象について論じる。参考文献等データの使い方等、の妥当性をみる)</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目…「社会調査法Ⅱ」基礎的事項の学習である本講座に連続して受講することが望ましい。「社会統計学Ⅰ」「社会統計学Ⅱ」統計データの活用・量的調査に関する理解を深めるために、受講をお勧めする。(2) 次のステージ…「調べる」ことは一生ついて回る作業です。自分でものごとを調べ、分析・判断するとともに、自分でデータを作成・発信できる力を身につけられるよう期待します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、これから社会調査を学んでいこうと考えている、あるいは研究過程で社会調査を必要としている学生を対象とした、社会調査の初歩・基礎をレクチャーするものです。社会調査の意義や目的、歴史、基本ルール、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、情報資源の発掘方法の紹介はもちろんのこと、近年の「調査被害」の問題に鑑みて「調査倫理」に重点をおき学んでいきます。</p>	<p>大学における研究の方法を身につけながら、社会を知るための様々な方法を学びましょう。</p>
到達目標	<p>①社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を習得する。 ②調査者としての心がまえ（調査倫理）を理解する。 ③情報資源の発掘調査により先行研究や既存の統計・調査資料を収集できる。 ④量的調査と質的調査の種類と方法を理解する。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>※本講義は社会調査士資格認定「A科目」です。</p> <p>【1】イントロダクション（講義の目的・内容・スケジュールの紹介、他の社会調査士科目との関連性・位置づけ）</p> <p>【2】「社会調査」という世界への招待(1)（社会調査の意味、現代社会における意義・目的）</p> <p>【3】「社会調査」という世界への招待(2)（社会調査の歴史）</p> <p>【4】「社会調査」という世界への招待(3)（社会調査の種類と用途）</p> <p>【5】社会調査の注意書き（社会調査はなぜ煙たがられるか—「調査被害」と調査倫理—）</p> <p>【6】社会調査の基本ルール(1)（記述と説明、概念と概念の操作的定義）</p> <p>【7】社会調査の基本ルール(2)（変数と仮説）</p> <p>【8】情報資源の活用法(1)（学術情報ネットワークの活用法、Cinii/Webcat/J-stageなど）</p> <p>【9】情報資源の活用法(2)（官庁統計、世論調査など二次的データの活用法と基本ルール）</p> <p>【10】量的調査の実際(1)（統計的調査法とは何か—量的調査法の特徴と種類、その魅力／問題点—）</p> <p>【11】量的調査の実際(2)（統計的調査法とは何か—悉皆調査と標本調査、「サンプル」という考え方—）</p> <p>【12】質的調査の実際(1)（事例研究法とは何か—質的調査の特徴と種類、その魅力／問題点—）</p> <p>【13】質的調査の実際(2)（事例研究法とは何か—聞き取り調査の仕方と実践—）</p> <p>【14】質的調査の実際(3)（事例研究法とは何か—参与観察法、ドキュメント分析、生活史法—）</p> <p>【15/16】まとめ（ふりかえりと各学習課題の点検・提出）</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】大谷信介ほか編，2013『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考文献】各回の講義で紹介します。</p> <p>【資料】毎回の講義でパワーポイント資料を配布します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>【履修の心がまえ】</p> <p>①出席と課題への主体的取組みが重視される科目です。</p> <p>②授業は担当教員の講義に加え、学生個人による実践的作業、学生のグループワークおよびプレゼンテーションが含まれます。</p> <p>③パソコン、インターネット、エクセルを使用します。</p> <p>【学びを深めるために】</p> <p>①各回の講義までにテキストの該当章を読んできてください（初回講義で指示）。</p> <p>②講義終了後は配布資料を復習し、テキストと参考文献を読み理解を深めてください。</p>
<p>評価</p> <p>平常点・中間演習課題・グループワーク・学期末レポートの結果に基づいて総合的に評価します。初回の講義で点数配分について説明します。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、演習Ⅰ・実習</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法Ⅱ	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会調査法Ⅰで学んだ内容を踏まえ、調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を勉強します。本講義では、受講者でグループをつくり、実際にミニ調査を行ってもらいます。</p> <p>到達目標：小規模な調査を、グループで、社会調査の企画・準備・実査・データ処理・分析・報告まで行うことができる。</p>	<p>社会調査法Ⅱでは、前期（社会調査法Ⅰ）の内容を踏まえ、実際に受講生に調査を企画・実施してもらいます。前期は一人で調べてまとめることを練習しましたが、後期ではグループで調べてまとめる方法をとります。中には、グループ作業が苦手な人もいますが、複数で話し合うことによる気づきも多くあります。そうした気づきが数多く得られるよう期待します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査の企画・準備・実施・データ処理・まとめに関する基本的な技術を身につけている。 2. 他者と問題意識を共有し、調査に関する一連の作業を協力して実行し、調査を遂行できる。 3. 他者との共同作業を通じ、個人として身近な社会現象に対する興味・関心をもつ。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介等）	①先行研究等の情報収集
	2	問題意識をどのように調査に結びつけるか？（概念、定義、仮説構成など）	①+②グループ作業（テーマ等）
	3	調査目的・方法を明確にするにはどうしたらよいか？（調査目的と調査方法、調査方法の決め方）	同上
	4	実際の調査はどのように企画・準備したらよいか？（調査企画・設計：グループ学習）	同上
	5	対象者をどのように選ぶのか？1（標本抽出の諸方法）	①+③グループ作業（調査方法等）
	6	対象者をどのように選ぶのか？2（サンプリング方法の詳細、対象者数の決定方法と標本誤差）	同上
	7	調査票をどのように作ったらよいか1（質問文の作成とその注意点）	①+④グループ作業（実査計画等）
	8	調査票をどのように作ったらよいか2（調査票全体構成とその注意点）	同上
	9	調査票をどのように作ったらよいか？3（調査票の作成：グループ学習）	同上
	10	どのように調査を実施するか？1（量的調査・調査票の配布および回収法等）	①+⑤グループ作業（実査）
	11	どのように調査を実施するか？2（質的調査・調査対象者へのアプローチ、インタビューの仕方等）	同上
	12	どのように調査データを整理・集計するのか？1（原データの加工等）	同上
	13	どのように調査データを整理集計するのか？2（データ入力・集計とPC活用）	①+⑥グループ作業（まとめ）
	14	どのように調査データを分析し、まとめ、発表するか？（分析、報告に関する倫理等）	同上
15	グループ発表1	①+⑥+⑦グループ作業（発表準備）	
16	グループ発表2	同上	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>下記のテキストを使用する。その他、講義中で参考文献を紹介する。</p> <p>○主テキスト（要購入：前期と同じテキスト） 大谷信介、他編著、『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—ネルヴァ書房、2013年</p> <p>○副テキスト（購入は任意） 篠原 清夫・清水 強志・榎本 環・大矢根 淳＝編『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂、2010年、宮内泰介『自分で調べる技術 ～市民のための調査入門～』岩波書店、2004年</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心がまえ そのため、調査倫理を踏まえた上で調査を「面白い」姿勢が重要です。また、限られた期間内で企画・実査・まとめ・報告を行うため、個人・グループでの自主的な勉強・話し合いなど、講義時間外を活用することが特に重要です。積極的・自主的な学習を期待します。</p> <p>②学びを深めるために ほとんどの受講生が「調査は初めて」の人ばかりです。なので、調査の出来不出来はともかく、まずはグループのメンバーと「一緒に」「通して」「できることから」やってみることを心掛けてください。</p>
--------	--

評価	<p>平常点：30%、発表：40 %、レポート：30%</p> <p>平常点：毎講義でのコメントペーパーでの提出、受講態度、その他（宿題等を課すことがある） 発表：期末の調査報告発表（調査結果について、グループごとに期末に発表。企画から発表までの内容を評価） レポート：学期末に学習の成果を総括する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)関連科目：「社会調査法Ⅱ」本講座の前に、社会調査法Ⅰで基礎的事項を学習することが望ましい。ただし、社会調査法Ⅱから先に受講することを妨げない。「社会統計学Ⅰ」「社会統計学Ⅱ」統計データの活用・量的調査に関する理解を深めるために、受講をお勧めする。(2)次のステージ：社会調査法Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を、他の講義やゼミ・卒業論文等で実践し、自分なりの調べ方・考え方を身につけて欲しい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

①専門領域における調査・研究能力の基礎を構築するための「基礎科目」です。②社会調査士資格認定「B科目」です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「社会調査法Ⅰ」で会得した社会調査の基礎をふまえ、社会調査で資料やデータを収集し、整理・分析するための具体的な方法を解説します。調査テーマの選定と問いの立て方、調査の企画・設計、仮説構成、調査対象者の選定方法、サンプリング法、依頼文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査資料の整理・分析の方法など、社会科学の初歩的研究作業を実践的にレクチャーしていきます。	大学における研究の方法を身につけながら、社会を知るための様々な方法を学びましょう。
到達目標	①社会調査の企画・設計と実施方法に関する基本的事項を理解する。 ②調査の企画・設計を行い、調査票を作成する過程を実践的に理解する。 ③サンプリングの論理と様々な方法を実践的に理解する。 ④調査票調査の過程とデータ化の作業を実践的に理解する。 ⑤データを整理し、単純集計・クロス集計・基本統計量など基本的な調査結果を読み解くことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ※本講義は社会調査士資格認定「B科目」です。 【1】イントロダクション（講義の内容、学習目標の紹介、他の社会調査士科目との関連性・位置づけ） 【2】調査の企画・設計(1)（調査テーマを発見するための情報資源の活用、調査テーマの設定、仮説構成、概念の操作的定義） 【3】調査の企画・設計(2)（グループ学習—調査企画書を作成しよう—） 【4】調査票作成の実際(1)（調査票の構造、質問文・選択肢作成と注意事項） 【5】調査票作成の実際(2)（グループ学習—調査票を作成しよう—） 【6】サンプリングの論理と種類（無作為抽出の考え方と方法） 【7】サンプル数の算出法と標本誤差（論理と実践） 【8】サンプリングの実践(1)（乱数の発生と単純無作為抽出法） 【9】サンプリングの実践(2)（系統抽出法と層化抽出法） 【10】調査の実施方法—調査票の配布および回収法、面接調査の仕方、フィールドノート の意義と活用法— 【11】調査データの整理(1)（エディティング、コーディング、データ入力、データクリーニング） 【12】調査データの整理(2)（単純集計とクロス表の作成） 【13】グループ学習—ミニアンケートの実施と簡単なデータの集計— 【14】グループによるアンケート調査の成果報告 【15/16】まとめ（ふりかえりと各学習課題の点検・提出）
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】大谷信介ほか編, 2013『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房。 【参考文献】各回の講義で紹介します。 【資料】毎回の講義でパワーポイント資料を配布します。
	学びの手立て 【履修の心がまえ】 ①出席と課題への取り組みが重視される科目です。 ②授業は担当教員の講義に加え、学生個人による実践的作業、学生のグループワークおよびプレゼンテーションが含まれます。 ③パソコン、インターネット、エクセル、SPSS統計分析ソフトを使用します。 【学びを深めるために】 ①各回の講義までにテキストの該当章を読んできてください（初回講義で指示）。 ②講義終了後は配布資料を復習し、テキストと参考文献を読み理解を深めてください。
評価 平常点・中間演習課題・グループワークの取り組み・グループプレゼンテーション・学期末レポートの結果に基づいて総合的に評価します。初回講義で点数配分について説明します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会調査法Ⅰ」（関連科目）を履修済みであることが望ましいです。次のステージとして、社会統計学Ⅰ・社会統計学Ⅱ・演習Ⅰ・実習があります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。</p> <p>到達目標：基礎的な社会統計学の知識を習得し、簡易な統計データを作成・分析・利用することができる。</p>	<p>統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. PCを利用して、簡易な統計データを作成することができる。 2. 統計データを加工して、簡易な分析ができる。 3. 統計データの分析を通じて、社会現象について考察できる。 4. インターネット・図書館等を利用して、目的に応じた統計データを収集することができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）	①+②講義使用データの復習
	3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	同上
	4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	同上
	5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	同上
	6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	同上
	7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	同上
	8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）	同上
	9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	同上
	10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	同上
	11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（偏相関係数等）	同上
	12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定等）	同上
	13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定等）	同上
	14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラーレーション1）	同上
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラーレーション2）	同上	
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	同上	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。</p> <p>廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え</p> <p>原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。</p> <p>②学びを深めるために</p> <p>本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。</p>
--------	---

評価	<p>平常点：50%、期末課題：50%</p> <p>平常点：毎講義でのコメントペーパー提出、受講態度、その他（小テスト・課題等を課すことがある）</p> <p>期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目</p> <p>「社会統計学Ⅱ」 社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 社会統計学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 金 4	単位 2
	担当者 -宮平 隆央	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その考え方や方法について理解を深めます。講義ではPCで実際にデータを扱います。到達目標：基礎的な統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。	メッセージ 社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っています。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介して多変量解析のイメージや基礎的な考え方を話したいと考えています。
	到達目標 1. 多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている 2. 多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる 3. 統計解析等、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリット等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）	①+②講義使用データの復習
	3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	同上
	4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	同上
	5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	同上
	6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	同上
	7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	同上
	8	複数の変数を合成する「主成分分析」1	同上
	9	複数の変数を合成する「主成分分析」2	同上
	10	複数の変数を合成する「主成分分析」3	同上
	11	複数の変数を合成する「主成分分析」4	同上
	12	複数の変数から共通の因子を探る「因子分析」1	同上
	13	複数の変数から共通の因子を探る「因子分析」2	同上
	14	複数の変数から共通の因子を探る「因子分析」3	同上
	15	様々な多変量解析（パス解析、クラスター分析等、他の分析手法の概要）	同上
16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	同上	

実践	テキスト・参考文献・資料など 下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。 主テキスト 涌井良幸、涌井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社、2011
----	---

学びの手立て	①履修の心構え 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。
--------	--

評価	平常点：50%、期末課題：50% 平常点：毎講義でのコメントペーパー提出、受講態度、その他（小テスト・課題等を課すことがある） 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 「社会統計学Ⅰ」 社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジェンダー論	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	2年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>〈性別〉によって分割された社会——〈女である/男である〉ことはどのような社会的意味をもち、日本や世界で〈女性〉はどのような社会状況を生きているのでしょうか。皆さんが暮らす社会の〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、家族、人口、国家・国際社会、移動・グローバル化など、ジェンダーの視点から社会の問題群に接近、その現代的課題を考察します。</p>	<p>女だから/男だから?——家族や教育、市場や国家など社会のあらゆる領域で、人間は性別によって振分けられ、意味づけられているようです。学校・部活動、バイト・就活、恋愛・結婚、出産や育児・介護、遊びや流行の音楽・ドラマなど身近な経験にふれながら、ジェンダー化された社会の仕組みと課題を考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①ジェンダーという概念とその分析概念としての深化のあり方を理解する。 ②ジェンダー研究の基礎的な思考枠組みを知る。 ③身近な自分の経験を、講義で学んだことと関連付けて、ジェンダーの視点から考察する。 ④現代社会の様々な問題群と課題について、ジェンダーの視点から分析する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	イントロダクション	授業時に指示する
	2	ジェンダーとは何か——性別の構築性と多様性	授業時に指示する
	3	教育とジェンダー①子どもの社会化	授業時に指示する
	4	教育とジェンダー②学校教育と性差別	授業時に指示する
	5	労働とジェンダー①雇用のジェンダー構造	授業時に指示する
	6	労働とジェンダー②無償労働とケアワーク	授業時に指示する
	7	労働とジェンダー③有償/無償労働とジェンダー平等	授業時に指示する
	8	家族・人口とジェンダー①近代家族と多様化する家族	授業時に指示する
	9	家族・人口とジェンダー②少子高齢社会とジェンダー平等政策	授業時に指示する
	10	家族・人口とジェンダー③福祉レジームと生活保障システム	授業時に指示する
	11	家族・人口とジェンダー④世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ	授業時に指示する
	12	国際社会・国家とジェンダー	授業時に指示する
	13	移動・グローバル化とジェンダー①労働力の女性化と新国際分業	授業時に指示する
	14	移動・グローバル化とジェンダー②ポスト新国際分業と家族のグローバル化	授業時に指示する
15	全体のまとめ——フェミニズムとジェンダー	授業時に指示する	
16	学期末テスト	授業時に指示する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介し、全体を通じた参考文献は以下のとおりです。 ・伊藤公雄・牟田和恵編, 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社。 ・千田有紀・中西裕子・青山薫, 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。 【資料】毎回の授業でパワーポイント資料を配布します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①本講義は、受講生による「主体的学び」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料と参考文献を読み、理解を深めてください。 ②本講義は、基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生数に応じて、随所でグループワーク等も盛り込む予定です。 ③授業終了時に、講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察・問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。</p>
--------	---

評価	<p>平常点、中間テスト、学期末テスト（あるいは学期末レポート）の結果にもとづいて総合的に評価します。配点については初回講義時に説明します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（関連科目）社会学理論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	3年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室（5422）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県公文書館岸秋正文庫所蔵の稽古案文集の閲覧と調査を通して、歴史研究に必要な史料の収集、読解、翻刻、分析などの基礎的能力を身につけることを目的とする。具体的には、近世の首里王府の通達および王府への申請や請願に見える事象・キーワード・地名・職名・パターン化したフレーズなどを調査する。</p>	<p>稽古案文集の調査が首里王府の文書行政や王府の行政機構に関心を持つきっかけとなり、何よりも史料を身近に感じてくれたらうれしいです。</p>
到達目標	<p>・稽古案文集に収録された案文が王府の通達か王府への申請や請願なのかを判別できるようになる。 ・王府の通達および王府への申請や請願における事象・キーワード・地名・職名などを抽出できるようになる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に調査の目的・内容・計画を確認したうえ、調査項目を設定して3～4人のグループを編成する。 ・沖縄県公文書館での稽古案文集の調査では、グループごとに調査項目を分担して作業を行う。1週間程度を予定している。 ・主な調査項目は、作成者と添削者の記載の有無、タイトルの有無、事象もしくはキーワード、地名、職名、物品名、パターン化したフレーズである。 ・事後に収集した情報をグループごとに整理・分析し、全体での検討を踏まえて報告書の作成につなげる。
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【参考文献】『那覇市史』資料篇第1巻11 琉球資料（下）</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>稽古案文集はくずし字の字体、候文（和様漢文）の文体で記されています。内容を理解できるようになるためにはくずし字と候文に慣れ親しむ必要があります。「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」の受講を求めます。</p>
	<p>評価</p> <p>調査に取り組む姿勢、グループへの貢献、情報の整理の仕方などによって総合的に評価します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>深澤が担当する「演習Ⅰ」の受講生を対象とする。「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」の受講を希望します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	3年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 実際に遺跡を発掘する。そのことにより調査の方法を学ぶ。遺跡の調査は一種の破壊行為である。そのことを十分に認識して、調査には周到な計画と細心の注意が必要なことを理解してもらう。そうすることにより、報告書の意義を認識してもらう。	メッセージ
	到達目標 考古学の調査の方法を身につける。 調査が一方では遺跡破壊をしていることを認識する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 文化庁記念物課『発掘調査の手引き』同成社 2010年 声舎藤本 強『考古学を学ぶ』雄山閣出版 1966年 高宮廣衛『先史古代の沖縄』第一書房 1991年 佐々木憲一他『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ 2011年
	学びの手立て 琉球列島における先史文化、社会の形成過程を深く知る。 調査が一方では遺跡破壊をしていることを認識する。
	評価 平常点 (遅刻、出席状況、受講姿勢等) (100%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 遺跡は時代、立地など同じものはない。実に多様である。そのため調査の経験を積むため、積極的に大学以外の調査にも参加すること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	3年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備	ねらい 自ら調査対象・内容を設定し、必要とされる調査方法を実践することを通して、地域の課題や取り組みを具体的に理解する。	メッセージ
	到達目標 調査の意義と方法を理解し、メンバー間のコミュニケーション能力を発揮して課題に取り組む方法を実践的に習得するとともに、地域理解能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 全体の調査テーマについて理解を深めたうえで、問題関心に応じて少人数のチームに分かれ、事前学習をくり返しながら、具体的な調査方法を検討する。そのうえで夏季休暇中に調査実習を行い、その内容を詳細に記録・分析し、後期の演習で報告書の作成に取り組む。
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。必要な情報は具体的なテーマを設定しながら提示する。
	学びの手立て
	評価 調査への参加姿勢と調査内容および報告内容によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	3年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の執筆に向けた訓練として、現地における民俗調査が出来るように実地で訓練を行う。	メッセージ フィールドワークは民俗学のもっとも基礎となる方法です。ただそれだけではなく、人から話を引き出し、断片的な情報から地域の全体像をつかんでいく技術は、学問に限らず生涯にわたって役立つテクニックになります。
-------	--	---

到達目標 民俗学の専門職として、学芸員としての現地民俗調査、および市町村誌の受託調査が単独で行えるレベルを目標とする。このレベルには報告書の執筆も含まれる。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>夏休み期間中に合宿にて現地調査を行う。7泊8日を予定。費用の自己負担が生じるため、貯金しておくこと。またこの調査に先立ち、前期中に予備調査を目的とした日帰りの巡見を実施する。</p> <p>前期には3つの班に分かれて、現地の民俗誌の読み込みと、調査項目の作成を行う。それらを踏まえて夏季の調査実習に取り組む。</p> <p>後期には民俗調査報告書の執筆に取り組む。</p>
-------	---

<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>現地の民俗誌、調査報告書、論文を多数読み込む必要がある。適宜指示する。</p>
--

<p>学びの手立て</p> <p>過去の民俗誌を読むときは、どのような調査によってこのデータを取ったのか、を意識すること</p>
--

<p>評価</p> <p>現地調査への取り組みと報告書から評価する</p>

<p>学びの継続</p> <p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文指導実習</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい この実習は、藤波担当の演習Ⅰの受講生を対象としており、歴史研究に不可欠な史料の収集、読解、翻刻などの技能を修得することを目的としている。具体的には、戦後沖縄における学校教育の復興をテーマとし、宜野湾をフィールドとして、当該事象に関する公文書、村報市報、新聞資料などを収集するとともに、関係者への聞き取りとあわせて、報告書を作成する予定である。	メッセージ 夏季休業期間に史料収集と史料読解の2度に分けて、場合によっては合宿形式で作業を行う予定である。また、受講生をチームに分けて作業を進めていくので、他者との協調と自己責任をともに果たすことが求められる。加えて、後期にはゼミ以外の時間を利用して、翻刻作業を進める予定である。
	到達目標 (1) 史料所蔵機関において、適切な史料を収集することができる。 (2) 収集した史料を整理・分類し、適切に保存することができる。 (3) 史料を正しく読解することができる。 (4) 読解した史料を翻刻し、適切な脚注を付することができる。 (5) 他者と協力しながら作業を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) (1) 調査の準備 ① 調査班の構成 ② 調査史料のリスト化 ③ 史料所蔵機関における事前学習 (2) 史料収集実習 (3日間を予定) ① 史料所蔵施設において、史料の探索、複写 ② 収集した史料の整理、保存 (3) 史料読解実習 (3日間を予定) ① 合宿形式での史料の翻刻 ② 注釈を付す項目の抽出 (4) 史料翻刻実習 (3日間を予定) ① 読解した史料のデータ化 ② 脚注の作成 (5) 報告書の作成 以上の作業を実施するが、予定している日数で作業が完了することはない。したがって、後期には各自の担当分を講義時間外で作業を行うとともに、演習Ⅰの時間に進捗状況を確認するとともに、必要によって合宿形式で作業を進めることもある。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて紹介する。
	学びの手立て ① 集中講義形式で開講されるので、日程調整には協力すること。 ② 複数回の合宿を予定しているため、あらかじめ了解しておくこと。 ③ 史料読解に必要な工具類は、できるだけ自分で準備しておくこと。 ④ 史料データの入力のため、各自PCを準備しておくことが望ましい。
評価	到達目標 (1) の評価：史料の収集状況 (10%) 到達目標 (2) の評価：史料の保存状況 (10%) 到達目標 (3) の評価：史料読解の状況 (35%) 到達目標 (4) の評価：入力データの内容 (35%) 到達目標 (5) の評価：作業中の取り組み姿勢 (10%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業は、演習Ⅰと密接に関連している。また、演習Ⅰと実習で修得した技能をいかして、4年次の演習Ⅱを通じて、個人で卒業論文を作成できるようにつながる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	3年	授業時間内に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本実習では、社会調査の基礎を習得したうえで、フィールドワークを中心に、質的調査と量的調査を必要に応じて組合せ、調査企画から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいきます。	多様な他者への想像力を持ち、沖縄で「現場」に学ぶ——この授業のキーフレーズです。社会調査の方法を実践的に学びながら、人間と社会との関係を多角的にとらえる「複眼的な知性」を育みましょう。

到達目標
①社会調査の基礎とルールをふまえ、調査の企画・設計から報告書の作成に至る社会調査の全過程を実践することができる。 ②「演習Ⅰ」で共有した研究テーマを社会調査に基づいて実証的・論理的に探究することができる。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>今年度のテーマは、「人口と家族の社会学」です。</p> <p>本授業では、社会調査の基礎を習得したうえで、フィールドワークを中心に、質的調査と量的調査を相互補完的に組合せ、調査の企画・設計から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいきます。</p> <p>本授業のキーフレーズ——多様な他者への想像力を持ち、沖縄で「現場」に学ぶ——を共有し、沖縄をフィールドに、広く「人口と家族」にかかわる社会のさまざまな問題群について、社会調査にもとづいて、その現代的課題を検討します。自らの関心にもとづいて研究課題を設定し、その課題についてジェンダー・エスニシティ・社会階層といった観点から、実証的に分析し、構造的な理解と論理的に伝える力をつちかいます。</p> <p>調査の実施に先立ち、「演習Ⅰ」の授業と連動して、「人口と家族」に関する社会的なイシュー・概念・考え方をとおさえ、テーマに関する先行研究を整理し基礎的知識を身に付けます。その後、社会調査に関する文献輪読を行い、受講生の関心を整理しつつ、サブ・テーマの設定とグループ分け、グループによる調査の企画・設計、問題の構造化（仮説・調査項目の設定）、対象者・訪問先の選定、インタビューガイドや調査票の作成、実査、収集データの集計・分析、報告書の作成まで、社会調査の一連のプロセスを実践します。</p> <p>実査は2018年8月～9月を中心に、必要に応じて年度内に実施します。</p> <p>テーマに応じて、沖縄県内の各種機関（NPO団体、教育機関、博物館・資料館、映画館、イベントなど）を訪問します。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>授業時に適宜紹介します。</p>

学びの手立て
<p>①実習の研究テーマは、学生と担当教員で相談し最終決定します。</p> <p>②研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、文献調査や読解、事前調査を授業に合わせて主体的に行ってください。</p> <p>③実習はグループワークを軸とします。受講生は、調査の企画・設計から実査、報告書作成までの社会調査の全過程に主体的・協力的に取り組むこと。他のゼミ生との共同作業であることを自覚し、協同性を磨きましょう。</p> <p>④調査地域や対象者に不快感を与えないよう、調査倫理に則った節度ある行動をとるよう留意してください。</p> <p>⑤各自、録音機器やデジタルカメラ、ノートなど調査に必要な道具・機材を用意することが望ましいです。</p>

評価
調査の企画設計、調査票の作成、実査、中間報告、調査報告書の作成までの取組み、調査報告書の内容で総合的に評価します。

次のステージ・関連科目
本実習は、社会文化学科・専門必修科目「演習Ⅰ」との連動科目です。

学びの継続

※ポリシーとの関連性

文献研究に加え、現場で得る知識の重要性を強調する社会文化学科
カリキュラムの根幹となる科目である。

[/実験実習]

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	3年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 社会文化学科における諸入門科目や概論、そして領域演習および演習Ⅰ（前期）で学んだ知識を基礎としながら、実際にフィールドワークを体験する。現場での経験を通じて、自らの手で情報を得ること、そしてコミュニケーション能力の重要性を学ぶ。	メッセージ 現代は、人類の歴史において最も情報が氾濫している時代である。しかし、マスメディアの発達は逆に私たち個々人が自身の力で身の回りの環境や人々から情報を入手する能力を減退させてきたようである。他者とのコミュニケーションを通じて情報を得ること、そして自身が行動することを通じてこそ「世界」は広がるのだという事実を体験・実感してほしい。
	到達目標 演習Ⅰその他の講義・ゼミで学んだフィールドワークの方法を現場で実践し、自らの力で情報を記録・収集して、調査報告書や論文作成の前段階として調査データを整理することができる。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 演習Ⅰ（前期）で学んだ内容を踏まえ、夏季休業中に、7泊8日程度のフィールドワークを実施する。具体的には、4～5人程度で組織する「概要」／「経済・観光」／「年中行事」／「人生儀礼」などの班に分かれ、適切なインフォーマントを探してインタビュー調査ならびに参与観察を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献・史料については、演習Ⅰおよびフィールドワークの際に随時紹介する。
	学びの手立て 各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。家族や友人を対象としてインタビュー調査の練習をするのも良いだろう。実際のフィールドワークに際しては、すでにどのような情報が公開されているのか、何をどう調査するのかを考え、調査項目の設定を行わなければならない。多様な他者と臨機応変にコミュニケーションが取れるよう、大学内外で普段から練習しておく必要がある。
	評価 フィールドワークに対する各自の取り組みならびに報告書の内容にも基づいて、総合的に判断する。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 領域演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.
-----------------------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市社会学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間、都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する素材として、映画作品や音楽作品も取り入れます。
到達目標	古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間を捉える視点等の習得。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	都市社会学への招待 ～近代都市から現代都市へ	欧州「近代都市」の歴史の探索
	2	多人種・多民族社会としてのアメリカ合衆国のその膨張	身近なグローバル資本の探索
	3	シカゴ学派都市社会学理論 ～形式社会学と人間生態学	ジンメルの基本概念の復習
	4	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	身近な都市的生活様式の探索
	5	現代都市を解説する課題Ⅰについて ～アメリカ都市の空間構造について	課題レポートの資料収集と作成
	6	Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の歴史の探索
	7	Black Sociologyの可能性と今日的課題	マイノリティの文化論的実践の探索
8	日本における都市化の歴史的展開	日本の近代的都市化の歴史の探索	
9	日本における都市社会学の展開① ～「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	古典的概念を応用した課題発見	
10	日本における都市社会学の展開② ～都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	日本の身近なグローバル化の探索	
11	現代都市を解説する課題Ⅱについて ～都市社会学の基礎概念を応用した課題	課題レポートの資料収集と作成	
12	テーマ化された都市① ～近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える	
13	テーマ化された都市② ～郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる	
14	テーマ化された都市③ ～「気散じ」「身散じ」、アフオーダンス	テーマ化された空間の心身を考える	
15	都市社会学のまとめと期末課題	講義プリントのふりかえり	
16	予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て		
	リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価		
	受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代都市を考える学習課題」Ⅰ・Ⅱの提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 琉球列島に展開した文化、歴史を学び、様々な問題をにたいする解決の糸口を考えることができる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島考古学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	2年		

学びの準備	ねらい 考古学におけるモノの捉え方、考え方、調査の方法などを学ぶ。 琉球列島に展開したグスク時代、琉球王国時代の文化を学ぶ。	メッセージ 現在沖縄考古会で議論されている最前線の話題もからめて講義します。
	到達目標 グスク時代や琉球王国時代における、記録にみられない生活文化の一端を知ることができる。また、その研究方法を認識することができる。	

学びの準備	到達目標 グスク時代や琉球王国時代における、記録にみられない生活文化の一端を知ることができる。また、その研究方法を認識することができる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	歴史考古学と出土遺物・遺構	
	2	古瓦と建物	
	3	沖縄諸島における屋瓦研究の現状	
	4	沖縄諸島の朝鮮系瓦概説	
	5	沖縄諸島の大和系瓦概説	
	6	沖縄諸島の中国系瓦概説	
	7	琉球列島における近世の黒色瓦と赤色瓦について	
	8	歴史的な技術とされるシマ瓦製作の現状	
9	日本と琉球の建物について		
10	先史古代の琉球列島の建物について		
11	韓国の歴史的建造物		
12	日本の建物の特質		
13	中国の歴史的建造物		
14	琉球の埴と煉瓦		
15	厨子にみる建物形と意義		
16	沖縄県の煉瓦と建物		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『沖縄県史』各論編2 考古学 2003年 『沖縄県史』各論編3 古琉球 2010年		
学びの実践	学びの手立て 考古学資料を博物館、資料館などで直接みることは講義内容を深く理解することができる。 講義内容の主たるは歴史時代にあたるため、隣接学の歴史学、民俗学、社会学研究の成果も積極的に学びましょう。		
学びの実践	評価 1、レポートか試験を実施する。 2、遅刻、欠席は減点の対象とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「考古学特講 I、II」「アジア考古学」「考古学概論2」の受講を勧める。
-------	---

※ポリシーとの関連性 琉球列島に展開した文化、歴史を学び、様々な問題をにたいする解決の糸口を考えることができる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 南島考古学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 水3	単位 2
	担当者 上原 静	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室5-417室 sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 考古学におけるモノの捉え方、考え方、調査の方法などを学ぶ。琉球列島に展開したグスク時代、琉球王国時代の文化を学ぶ。	メッセージ 現在沖縄考古会で議論されている最前線の話題もからめて講義します。
	到達目標 グスク時代や琉球王国時代における、記録にみられない生活文化の一端を知ることができる。また、その研究方法を認識することができる。	

学びの準備	到達目標 グスク時代や琉球王国時代における、記録にみられない生活文化の一端を知ることができる。また、その研究方法を認識することができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代と南島社会	
	2	夜光貝と南島交易	
	3	琉球王権とグスク	
	4	沖縄諸島の土木遺産	
	5	琉球諸島におけるグスク、近世の作事	
	6	琉球王国と鑄銭	
	7	琉球諸島の鑄造技術	
	8	琉球砥石考	
	9	泡盛と考古学	
	10	グスク時代の琉球料理	
	11	考古学からみた沖縄諸島の遊戯史	
	12	首里城の地下に広がる遺産群	
	13	琉球王国時代の窯業	
	14	琉球列島の厨子文化	
	15	琉球の庭園文化	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 『沖縄県史』各論編2 考古学 2003年 『沖縄県史』各論編3 古琉球 2010年		
	学びの手立て 考古学資料を博物館、資料館などで直接みることは講義内容を深く理解することができる。講義内容の主たるは歴史時代にあたるため、隣接学の歴史学、民俗学、社会学研究の成果も積極的に学びましょう。		
	評価 1、レポートか試験を実施する。 2、遅刻、欠席は減点の対象とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「考古学特講Ⅰ、Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論2」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会学	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	2年	講義終了直後およびオフィスアワー	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄社会について思考する4つの視点を通して、歴史的経緯や現在の課題を具体的に理解するとともに、その知見に基づいて身近な事例を社会学的な問題設定に引き付けて思考することを重視する。</p>	<p>講義で得た知見がもっている意義や問題点について、身近な事例に照らし合わせて考えるように意識してもらいたい。</p>
到達目標	<p>沖縄社会の特徴、歴史的経緯、現在の課題などについて理解し、複数の社会学的な視点からその構造や問題点を思考する方法を習得する。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回 講義内容と課題についてのガイダンス 第2回 生活空間の変遷① 移民県の歴史と現在 第3回 生活空間の変遷② 戦後の都市形成と米軍基地 第4回 生活空間の変遷③ 農村からの人口流出 第5回 労働の戦後体験① 基地労働 第6回 労働の戦後体験② 出稼ぎと本土就職 第7回 労働の戦後体験③ サービス産業と観光立県 第8回 労働の戦後体験④ 低賃金労働と貧困 第9回 復帰をめぐる社会意識① 復帰運動の思想 第10回 復帰をめぐる社会意識② 復帰の受けとめ方 第11回 復帰をめぐる社会意識③ 沖縄文化への視線 第12回 戦争体験の継承① 体験記録の作成 第13回 戦争体験の継承② 平和祈念資料館の展示問題 第14回 戦争体験の継承③ 教科書検定と沖縄戦 第15回 戦争体験の継承④ 戦争と心の傷 第16回 学期末テスト</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは指定せず、必要な資料を配布し、関連する文献を紹介する。</p> <p>参考資料 『名護市史7 社会と文化』（名護市、2002年） 嶋津与志『沖縄戦を考える』（ひるぎ社、1983年）</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>講義内容に関連する参考文献を探索し、必要な知見を積極的に吸収していくことが重要となる。</p>
	<p>評価</p> <p>学期末テスト50%、小レポート25%、参加姿勢25%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史学Ⅰ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 先史文化の概要に先立ち、琉球列島の成り立ちについて、地質学上の成果を紹介する。その後、旧石器時代の人々の拡散や島嶼における適応過程に関する研究を紹介する。	メッセージ 琉球列島誕生と人類誕生の歴史を一緒に考えていきましょう。
	到達目標 琉球列島の形成過程を知る。 ヒトの歴史と文化について、地球史の中で考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドランス	シラバスをよく読むこと
	2	先史学とは何か?	関連資料を配布するので読むこと
	3	琉球列島の地史(1)	文献①参照
	4	琉球列島の地史(2)	文献①参照
	5	琉球列島の動物と植物(1)	関連資料を配布するので読むこと
	6	琉球列島の動物と植物(2)	関連資料を配布するので読むこと
	7	サンゴ礁の海と人(1)	関連資料を配布するので読むこと
	8	サンゴ礁の海と人(2)	文献②参照
	9	サルとヒト	文献③参照
	10	人類誕生と拡散(1)	文献④参照
	11	人類誕生と拡散(2)	文献④参照
	12	沖縄人の起源	文献④参照
	13	琉球列島における新石器時代文化のはじまり	関連資料を配布するので読むこと
	14	まとめ	感想提出
15	※授業のうち1回を博物館見学を予定する	課題提出	
16	レポート	課題提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。 参考文献①神谷厚昭2007『琉球列島ものがたり—地層と化石が語る二億年史』ボーダーインク。②渡久地健2017『サンゴ礁の人文地理学:奄美・沖縄、生きられる海と描かれた自然』古今書院。③ジャレド・ダイヤモンド2017『若い読者のための第三のチンパンジー(草思社文庫)』草思社。④沖縄県立博物館・美術館2007『人類の旅—港川人の来た道—』。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠状況を毎回厳格に行う。 ・提出する課題は期日厳守の上、必ず取り組むこと。		
	評価 課題(80%)。平常点(20%)。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 継続的学びとして「南島考古学Ⅱ」を合わせて受講することを推奨する。 関連科目は「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄の社会文化を学ぶ上で、特に文字で記録されていない過去について深く学ぶ科目として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史学Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島に展開した先史文化を概観する。まず、沖縄諸島の新石器文化について、縄文時代とそれ以降に分けて、沖縄固有の文化がどのような過程で形成されてきたのかを概説する。続けて沖縄諸島と起源を異にする宮古・八重山諸島の先史文化を紹介し、その特質について学ぶ。	沖縄には、縄文文化や弥生文化が南下し少なくない影響下にある沖縄諸島と、台湾やフィリピンなど南から北上する文化の影響を受けた宮古・八重山諸島という、ルーツの異なる2つの先史世界があります。
到達目標	考古学のモノの見方、考え方を身につける。 琉球列島に展開した先史文化について深く知る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	沖縄の先史時代研究のあゆみ	関連資料を配布するので読むこと
	3	沖縄の先史文化の編年	関連資料を配布するので読むこと
	4	沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）①	関連資料を配布するので読むこと
	5	沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）②	関連資料を配布するので読むこと
	6	沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）③	関連資料を配布するので読むこと
	7	沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）④	関連資料を配布するので読むこと
8	沖縄の新石器時代（弥生～平安並行期）①	関連資料を配布するので読むこと	
9	沖縄の新石器時代（弥生～平安並行期）②	関連資料を配布するので読むこと	
10	沖縄の新石器時代（弥生～平安並行期）③	関連資料を配布するので読むこと	
11	沖縄の新石器時代（弥生～平安並行期）④	関連資料を配布するので読むこと	
12	宮古・八重山の新石器時代（下田原期）①	関連資料を配布するので読むこと	
13	宮古・八重山の新石器時代（下田原期）②	関連資料を配布するので読むこと	
14	宮古・八重山の新石器時代（無土器期）③	関連資料を配布するので読むこと	
15	宮古・八重山の新石器時代（無土器期）④	関連資料を配布するので読むこと	
16	レポート	課題提出	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。 参考文献：沖縄県教育委員会2003『沖縄県史』各論編2		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠状況を毎回厳格に行う。 ・提出する課題は期日厳守の上、必ず取り組むこと。		
評価	課題（80％）。平常点（20％）。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 継続的学びとして「南島考古学Ⅰ」をあわせて受講することを推奨する。 関連科目は「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学史 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	2年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の伝統的な社会集団について理解する。血縁集団（親族、門中、ヒキなど）と地縁集団（村、青年団など）の解説を軸として、婚姻や世代交代、先祖祭祀や村落祭祀、芸能の継承などを全体的に扱い、その基本的な社会像についての知見を獲得する。	メッセージ ムラとは何か、親戚とは何か、といった問題を扱います。民俗学においては生業論（南島民俗学Ⅱ；後期開講）、信仰論と並んで扱われる分野です。当たり前のものに意外な意味や機能があることに気づいてもらえたらと思っています。
	到達目標 沖縄民俗社会を理解し、自分の言葉で説明できること。またこの講義で得た知見から自分自身の出身地や、実家の親戚関係について考え、何らかの問いを立てられるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	配布したプリントに基づいた復習
	2	イエとムラ	配布したプリントに基づいた復習
	3	婚姻	配布したプリントに基づいた復習
	4	子供は誰のものか	配布したプリントに基づいた復習
	5	村の一員	配布したプリントに基づいた復習
	6	労働力の集約	配布したプリントに基づいた復習
	7	寄合と青年団	配布したプリントに基づいた復習
	8	村落祭祀	配布したプリントに基づいた復習
	9	神役	配布したプリントに基づいた復習
	10	家の継承	配布したプリントに基づいた復習
	11	男系と女系	配布したプリントに基づいた復習
	12	長子と養子	配布したプリントに基づいた復習
	13	どこまでが親戚か	配布したプリントに基づいた復習
	14	墓と位牌	配布したプリントに基づいた復習
	15	ヤマトと琉球	配布したプリントに基づいた復習
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> 講義中に指示するウェブサイトにてテキストを掲載している。またプリントを配布する 基本文献については講義中に指示する。 	
	学びの手立て	『沖縄民俗辞典』等を活用すること。本講義では「親戚」「婚姻」「位牌」といった我々が当たり前知っているつもりでいる言葉から考察を深め、その一つ一つの意味を丁寧に考えていくことから沖縄社会を理解しようとする。言葉の意味をあいまいにせず、疑問に思ったら問い合わせ、自分でも調べてみることを。	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> テストを中心に、講義への参加態度を加味して評価する。 	

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島の民俗学Ⅱ（南島民俗学Ⅱ）、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ、民俗学Ⅱ、民俗・人類学特殊講義Ⅰ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学史Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-阿利 よし乃	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は戦後の南島を対象とした民俗学的、文化人類学的な研究の理解を目的とします。講義前半で『沖縄の宗教と社会構造』を読み、基本的事項を踏まえたうえで、個別的なテーマに関する先行研究を読み進めていきます。具体的には門中や祖先祭祀、女性神役、神観念などを取り上げます。それらを通じて、学生の皆さん自身に興味を持つ個別テーマについて深く学ぶことを目指します。</p>	<p>この講義では先行研究を読むことで南島地域の民俗に関する個別テーマについて深く学びます。講義の中では、綱引きや豊年祭、清明や旧盆、家屋の造りなどといった学生の皆さんの生活と密接する民俗事象を取り上げます。それらにふれることで、自分の興味・関心のあるテーマを見つけ、それを踏まえて研究史の理解を目指しましょう。</p>
到達目標	戦後の南島を対象とする民俗学的・文化人類学的な研究史を理解する。自分の興味・関心を南島民俗研究史の中に位置づけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	柳宗悦と沖縄ー方言論争	配布文献『方言論争』を読む
	3	外国人による沖縄研究(1)ーW.P. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』①	リブラの著書を読む
	4	外国人による沖縄研究(1)ーW.P. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』②	同上
	5	外国人による沖縄研究(1)ーW.P. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』③	同上
	6	馬淵東一の研究ー「琉球世界観の再構成を目指して」①	馬淵論文を読む
	7	馬淵東一の研究ー「琉球世界観の再構成を目指して」②	同上
8	外国人による沖縄研究(2)ーC. アウエハント『HATERUMA』	アウエハントの著書を読む	
9	櫻井徳太郎の研究ー「沖縄民俗宗教の核ー祝女イヅムと巫女イヅム」	櫻井の論文を読む	
10	仲松弥秀の研究ー『神と村』	仲松の著書を読む	
11	竹田旦の研究ー「先祖祭祀ーとくに位牌祭祀についてー」	竹田論文を読む	
12	比嘉政夫の研究ー「『門中』研究をめぐる諸問題」	比嘉論文を読む	
13	女性からみる門中研究ー高江洲洋子著「父系出自集団における女性の帰属原理」	高江洲論文を読む	
14	まとめー研究史を振り返る	レポート作成	
15	社会組織と民俗宗教を連続的に捉えるー八重山諸島における女性神役の継承を事例として	レポート作成	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	講義で取り上げる文献を配布します。配布する文献は授業計画のとおりです。その他関連文献については、講義の際に随時紹介します。		
	学びの手立て		
	①履修の心構え 事前に講義で取り上げる文献を配布します。文献に目を通して受講してください。毎回の講義の最後10分間は感想文を書く時間とします。		
	②学びを深めるために 文献を読む際は、著者がどのような目的を持ってどのような方法で調査・研究し、どのような資料に基づいて結論を導き出しているのかを意識しましょう。		
	評価		
	①評価方法・割合 授業参加度(10%)、講義の感想文(10%)、中間レポート(40%)、期末レポート(40%)		
	②評価基準 講義の感想文では、授業参加度を確認します。中間・期末レポートでは、文献内容の理解度、文章の組み立て方、文献に対する自分の考えを明確に記述しているかなどを確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本講義で取り上げた先行文献だけではなく、関連するその他の文献にも触れ、これからのフィールドワークや資料整理、分析、考察に活かしていく。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 盛晃	2年	ptt705@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の民俗文化研究において重要な役割を果たした研究者を取りあげ、その生涯と学問の展開を時代的な背景を考慮しながら追い、その代表的な論文にふれる。そうした作業を通じて、沖縄の民俗文化研究の本質へ接近したい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄民俗研究史概要(1)	
	2	〃 (2)	
	3	柳田国男と沖縄研究(1)	
	4	〃 (2)	
	5	折口信夫と沖縄研究	
	6	伊波普猷と沖縄研究(1)	
	7	〃 (2)	
	8	比嘉春潮の沖縄研究(1)	
	9	〃 (2)	
	10	金城朝永の沖縄研究(1)	
	11	〃 (2)	
	12	仲原善忠の沖縄研究(1)	
	13	〃 (2)	
	14	佐喜真興英の沖縄研究(1)	
	15	〃 (2)	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回配布するレジユメに沿って、スライド(写真、映像)を用いながら行う。		
	学びの手立て		
	評価 出席状況(30%)と受講態度(30%)、最終レポート(40%)によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

沖縄民俗社会についての理解を深めることを目的とする。本講義では伝統的な信仰習俗とシンボリズムに焦点を合わせる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	2年	t.oikawa@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の民俗信仰について論じる。ノロ、ユタといった宗教者の問題のほか、特に仏教や修験道、道教の影響についても解説する。	メッセージ 沖縄の伝統的な信仰文化を扱います。民俗学においては社会論（南島民俗学Ⅰ；前期開講）、生業論と並んで扱われる分野です。当たり前のものに意外な意味や機能があることに気づいてもらえたらと思っています。
	到達目標 沖縄の伝統的な民俗信仰の世界の概要が理解できること	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	配布した資料に基づいた復習
	2	ノロ	配布した資料に基づいた復習
	3	龍	配布した資料に基づいた復習
	4	雨乞い	配布した資料に基づいた復習
	5	ユタ	配布した資料に基づいた復習
	6	火の神	配布した資料に基づいた復習
	7	先祖	配布した資料に基づいた復習
	8	骨	配布した資料に基づいた復習
	9	怪異	配布した資料に基づいた復習
	10	修験道	配布した資料に基づいた復習
	11	ニライカナイ	配布した資料に基づいた復習
	12	風水	配布した資料に基づいた復習
	13	神判	配布した資料に基づいた復習
	14	宗教政策	配布した資料に基づいた復習
	15	まとめ	配布した資料に基づいた復習
	16	試験	配布した資料に基づいた復習
	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配付する。 ・基本文献については講義中に指示する。		
	学びの手立て 沖縄の宗教的世界観とシンボリズムについて解説する。この分野は研究が多く、解釈がまとまっていない面もある。他の講義とも聞き合わせ、多面的に理解を深めてほしい。		
	評価 ・テストを中心に、講義への参加態度を加味して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島の民俗学Ⅰ（南島民俗学Ⅰ）、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ、民俗学Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学Ⅲ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高江洲 敦子	2年	ptt202@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>南島（講義では沖縄を中心に）の社会や文化は、固有なものをもちつつも中国や日本本土との交流の過程で、さまざまな影響を受けてきた。他地域から移入された文化は、その形を変えつつ、当該地域の文化に受容され、変容していく。講義は沖縄の社会の仕組みや文化の態様について、中国や日本本土と比較しながら進める。</p>	<p>民俗学を専攻する学生のみならず、他学科の学生も歓迎します。この講義を通して地域社会の成り立ちや、伝統的な沖縄の文化や習俗などに興味を持ってくれることを願います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の地域社会の成り立ちや変容について学ぶことができる。 ・中国や日本本土、沖縄における文化的共通性や独自性などについて学び、理解を深めることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	ガイダンス	
2	シマ社会の成り立ち		翌週の関連論文を紹介する。
3	シマ社会の展開（呼称の変遷から）		以下、2週と同様。
4	シマの行政組織		
5	シマのクミ組織		
6	シマの労働慣行		
7	沖縄の風水思想概説		
8	風水思想と村落		
9	前半のまとめ（中間試験）		
10	年中行事（1月～6月）		
11	年中行事（7月～12月）		
12	婚姻と出産		
13	ハジチ習俗		
14	民間療法		
15	俗信		
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しない。 ・参考文献は講義に配付するレジュメに明記する。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席確認を行う。やむを得ず欠席した場合は、翌週に届けを提出すること。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中間試験（40点） ・学期末試験（40点） ・授業時間中の提出物や、授業への取り組み姿勢（20点） 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容は、卒業後の実社会において大きな糧になるでしょう。 ・今後さまざまな場面で沖縄の伝統的習俗（結婚・出産・地域の行事等）と直面することになるでしょうが、講義で学んだ知識で理解する能力が高まっていることでしょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学Ⅳ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高江洲 敦子	2年	ptt202@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>南島の民俗宗教は、御嶽や火の神に対する信仰を持ちつつ、14～16世紀にかけて日本本土、中国、韓国など、東アジア各地域との交流のなかでさまざまな外来宗教の影響を受け、その神仏を受容してきた。講義では、沖縄の固有信仰について概説したのち、沖縄の民俗宗教における外来宗教の受容とその変容について理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の民俗宗教における外来宗教の影響を明確化する。 ・沖縄固有の民俗宗教と、東アジア各地域における宗教との共通性を考察する。 	<p>・2年生には、実習に向けての基礎的な知識を得られるような講義にしたい。</p> <p>・3年・4年生には実習報告書や卒論の一助となるような講義を行いたい。講義を通して、それぞれの生まれ育った地域や、文化に興味をもってくれることを願います。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>沖縄の御嶽信仰</td> <td>翌週に関連する論文を紹介する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>沖縄の火の神信仰</td> <td>以下、2週と同様。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本本土からの勧請神（権現と霊石①）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本本土からの勧請神（権現と霊石②）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本本土からの勧請神（地藏信仰）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>日本本土からの勧請神（荒神）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本本土からの勧請神（セース神）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本本土からの勧請神（エビス）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>前半まとめ（中間テスト）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>中国大陸からの勧請神（土帝君）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>中国大陸からの勧請神（関帝）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>中国大陸からの勧請神（天妃）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>中国大陸からの勧請神（天尊）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>中国大陸からの勧請神（孔子）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>学期末テスト</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス		2	沖縄の御嶽信仰	翌週に関連する論文を紹介する。	3	沖縄の火の神信仰	以下、2週と同様。	4	日本本土からの勧請神（権現と霊石①）		5	日本本土からの勧請神（権現と霊石②）		6	日本本土からの勧請神（地藏信仰）		7	日本本土からの勧請神（荒神）		8	日本本土からの勧請神（セース神）		9	日本本土からの勧請神（エビス）		10	前半まとめ（中間テスト）		11	中国大陸からの勧請神（土帝君）		12	中国大陸からの勧請神（関帝）		13	中国大陸からの勧請神（天妃）		14	中国大陸からの勧請神（天尊）		15	中国大陸からの勧請神（孔子）		16	学期末テスト	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	ガイダンス																																																		
	2	沖縄の御嶽信仰	翌週に関連する論文を紹介する。																																																	
3	沖縄の火の神信仰	以下、2週と同様。																																																		
4	日本本土からの勧請神（権現と霊石①）																																																			
5	日本本土からの勧請神（権現と霊石②）																																																			
6	日本本土からの勧請神（地藏信仰）																																																			
7	日本本土からの勧請神（荒神）																																																			
8	日本本土からの勧請神（セース神）																																																			
9	日本本土からの勧請神（エビス）																																																			
10	前半まとめ（中間テスト）																																																			
11	中国大陸からの勧請神（土帝君）																																																			
12	中国大陸からの勧請神（関帝）																																																			
13	中国大陸からの勧請神（天妃）																																																			
14	中国大陸からの勧請神（天尊）																																																			
15	中国大陸からの勧請神（孔子）																																																			
16	学期末テスト																																																			
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト特になし。 ・参考文献：①平敷令治、『沖縄の祭祀と信仰』第一書房 1990。②窪徳忠、『増訂 沖縄の習俗と信仰』東大東洋文化研究所 1974。 																																																				
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席確認を行う。 ・やむ得ず欠席した場合は、翌週に届けを提出すること。 																																																				
<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間試験（40点） ・学期末期末試験（40点） ・提出物や授業への取り組み姿勢（20点） 																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容は、今後の人生の中で困難に直面した時、それを解決する助けになることでしょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史概論 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	2年	tomo-ichikawa@hotmail.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1)前半に古代から近世までの歴史について政治・外交を軸に概説する。後半に幕末から明治期の解説を行う。</p> <p>2)近代史および現代史の理解が特定の見方に偏ることのないよう、多様な価値観を尊重し、最新の研究成果に基づく説明を行う。</p> <p>3)琉球・沖縄史について各回で触れるとともに、アジア貿易、琉球処分、ハワイ移民などの重要なテーマについては特に詳述する。</p>	<p>みなさんが生活する琉球・沖縄の歴史を学ぶ際には、日本の歴史を知っておく必要があります。この講義では近代・現代を中心に、写真、絵画、図表などを多用して、視覚的にわかりやすい内容とします。公文書館、博物館、図書館などで興味を持った事柄を調べてみること、ここで学習した内容がより豊かになります。</p>
到達目標	<p>1) 日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようにつながっているのかを認識できるようになる。</p> <p>2) 日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。</p> <p>3) 琉球・沖縄社会の歴史的変遷を、日本および周辺諸国・地域との関係から理解できる。</p> <p>4) 古代から近代・現代にいたる日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス	
	2	律令国家の成立と政治・外交	配布資料の復習、参考文献の確認。
	3	平安期の政治・外交	同上
	4	武家政権の成立と公家政権	同上
	5	室町・戦国時代の政治・外交	同上
	6	天下統一、江戸時代の政治・外交	同上
	7	アジア貿易と琉球王国	同上
8	幕末政治史	同上	
9	明治維新と地域社会	同上	
10	沖縄の近代：琉球処分、ハワイ移民	同上	
11	地域社会の変容と産業革命	同上	
12	明治憲法の成立と帝国議会	同上	
13	日清戦争と植民地領有	同上	
14	政党政治の展開と地方政治	同上	
15	日露戦争と都市騒擾	同上	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定の教科書は使用せずレジメを配布し、図表・絵画・写真・史料などをスライドで紹介する。参考文献は次の通り。各論については講義で紹介する。佐藤信ほか『日本の古代中世』放送大学教育振興会、2017年。杉森哲也『日本近世史』放送大学教育振興会、2013年。季武嘉也『日本の近現代—交差する人々と地域—』放送大学教育振興会、2015年。五味文彦・杉森哲也『日本史料論』放送大学教育振興会、2015年。石上英一ほか編『日本の時代史』全30巻、吉川弘文館、2002-2004年。安里進『沖縄県の歴史』山川出版社、2004年。金城正篤ほか『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。</p>		
学びの手立て	<p>1) 履修の心構え 遅刻、私語厳禁とします。</p> <p>2) 学びを深めるために 前回の配布資料で、どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。</p>		
評価	<p>1) 基礎的な知識の習得を確認するための小テストを実施する (5点×5回=25点)。</p> <p>2) 講義で習得した知識を整理し、疑問点を自分で調べて論述する中間レポートを実施する。(25点×1回=25点)。</p> <p>3) 理解度を確認するため論述式の試験を学期末に実施する。(25点×1回=25点)。</p> <p>1), 2), 3) の計100点満点で成績評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>可能な限り「日本史概論II」とセットで履修すること。「歴史学概論」、「琉球・沖縄史入門」、「沖縄前近代史」など歴史関係の科目と合わせて受講し、自ら比較・検討することが望ましい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史概論Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	2年	tomo-ichikawa@hotmail.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1)前半に古代から近世までの歴史について、経済・社会を軸に概説する。後半に大正期から戦後史の解説を行う。</p> <p>2)近代史および現代史の理解が特定の見方に偏ることのないよう、多様な価値観を尊重し、最新の研究成果に基づく説明を行う。</p> <p>3)琉球・沖縄史について各回で触れるとともに、薩摩の琉球侵攻、沖縄戦争マラリア事件、占領などの重要なテーマについては特に詳</p>	<p>みなさんが生活する琉球・沖縄の歴史を学ぶ際には、日本の歴史を知っておく必要があります。この講義では近代・現代を中心に、写真、絵画、図表などを多用して、視覚的にわかりやすい内容とします。公文書館、博物館、図書館などで興味を持った事柄を調べてみることで、ここで学習した内容がより豊かになります。</p>
到達目標	<p>1) 日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようにつながっているのかを認識できるようになる。</p> <p>2) 日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。</p> <p>3) 琉球・沖縄社会の歴史的変遷を、日本および周辺諸国・地域との関係から理解できる。</p> <p>4) 古代から近代・現代にいたる日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス	
	2	律令国家の都市	配布資料の復習、参考文献の確認。
	3	平安期・摂関期の社会経済と日宋貿易	同上
	4	鎌倉および京の社会経済と元寇	同上
	5	室町・戦国時代の都市と流通	同上
	6	江戸時代の社会経済と身分制	同上
	7	薩摩の琉球侵攻とアジア貿易の変容	同上
8	幕末～明治期の整理	同上	
9	第一次世界大戦前後の政治・外交	同上	
10	大正・昭和期の日本社会：都市化の進展と農村の疲弊	同上	
11	対外戦争と国内政治	同上	
12	沖縄戦争マラリア事件	同上	
13	敗戦と戦後占領	同上	
14	占領期の沖縄社会：琉球政府と復興	同上	
15	高度経済成長と社会変容	同上	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定の教科書は使用せずレジメを配布し、図表・絵画・写真・史料などをスライドで紹介する。参考文献は次の通り。各論については講義で紹介する。佐藤信ほか『日本の古代中世』放送大学教育振興会、2017年。杉森哲也『日本近世史』放送大学教育振興会、2013年。季武 嘉也『日本の近現代—交差する人々と地域—』放送大学教育振興会、2015年。五味文彦・杉森哲也『日本史料論』放送大学教育振興会、2015年。石上英一ほか編『日本の時代史』全30巻、吉川弘文館、2002-2004年。安里進『沖縄県の歴史』山川出版社、2004年。金城正篤ほか『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。</p>		
学びの手立て	<p>1) 履修の心構え 遅刻、私語厳禁とします。</p> <p>2) 学びを深めるために 前回の配布資料で、どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。</p>		
評価	<p>1) 基礎的な知識の習得を確認するための小テストを実施する (5点×5回=25点)。</p> <p>2) 講義で習得した知識を整理し、疑問点を自分で調べて論述する中間レポートを実施する。(25点×1回=25点)。</p> <p>3) 理解度を確認するため論述式の試験を学期末に実施する。(25点×1回=25点)。</p> <p>1), 2), 3) の計100点満点で成績評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>可能な限り「日本史概論I」とセットで履修すること。「歴史学概論」、「琉球・沖縄史入門」、「沖縄前近代史」など歴史関係の科目と合わせて受講し、自ら比較・検討することが望ましい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 多様な民俗事象を理解し、物事を相対化し、自文化や自分自身の置かれた状況を捉えなおす視点を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較民俗学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城博美8回／神谷智昭(7回)	2年	hiromioshiro@hotmail.com 大城博美(台湾担当)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>身近な沖縄、日本の民俗事象も確認しながら、台湾、韓国といった周辺諸地域の民俗事象との比較をします。そこから浮かび上がってくるであろう、それぞれの地域の特性や歴史性についても考えていきます。今、我々が生活している現代社会を観察し、物事の状況を複眼的に捉える視点を獲得することが最終目標です。</p>	<p>「比較民俗学」という名前が示すように、「比較」ということがキーワードになってきます。外国をはじめ、身の回りにいる「他者」と自分自身、自分自身の置かれている状況(社会・文化)について、「比較」という方法を通して相対化し捉えなおすことができるようになります。世の中を眺めた時に、いつもと違う景色が広がってくると思います。</p>
到達目標	<p>・「当たり前」に過ごしている日常生活世界を切り取り、そこにつまんでいるであろう歴史や意味といったものを理解することができるようになる。</p> <p>・「比較」という手法を通して、自己(自文化)の相対化の視点を学ぶことが出来る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション「比較民俗学とは？」	前半8回は台湾と沖縄の比較です。
	2	沖縄と台湾の社会組織 女は先祖になれないの？	「台湾」に関連したニュースなど
	3	人生儀礼	アンテナを張り、積極的に「台湾」
	4	葬儀に立ち現れる人間の価値観	を意識してください。
	5	お盆に来る霊 あなたは誰を迎えているの？	普段の生活をより意識しつつ、
	6	まつりと人々	年中行事などを実践・観察しよう！
	7	信仰の世界(民間信仰、民間医療)	
	8	老いと死の現在	
	9	現代韓国概況解説	韓国のイメージを挙げてみよう
	10	朝鮮半島の歴史概説	沖縄の歴史を振り返ってみよう
	11	朝鮮半島の家族・親族	貴方にとっての家族・親族とは誰？
	12	朝鮮半島のマウル(村)と生活	沖縄の村を調べてみよう
	13	朝鮮半島の村落祭祀	沖縄の村落祭祀を調べてみよう
	14	朝鮮半島の葬送儀礼	出身地の葬送儀礼を調べてみよう
15	朝鮮半島のシャーマニズム	沖縄のシャーマニズムを調べよう	
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特に指定しませんが、各回の講義と関連する参考文献などは講義前後に随時紹介していきます。

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗学、人類学などを履修済みであると理解しやすいでしょう。 ・おしゃべりなどをして他の受講生の妨げとなったり、居眠りやスマホいじりなどは厳禁。 ・講義開始後20分を過ぎての遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。 <p>②「学びを深めるために」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビのドキュメンタリー番組などを見て興味・見識の幅を広げてください。
--------	--

評価	<p>・毎回リアクションペーパーを書いてもらい講義内容の理解度や、視点の多様性を確認すると同時に出席確認する。【30%】</p> <p>・地域毎(台湾、韓国)に、レポートを提出してもらおう。関心のある事象について自分自身で資料を集め、まとめるという作業を通して、理解を深めてもらう。(合計2回)【70%】</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>隣接科目の「文化人類学」や「社会学」、「歴史学」といった科目を履修することで、複眼的視点獲得の基礎作りがさらに出来ると思います。身の回りの「当たり前」を一度括弧に入れて「当たり前」が当たり前になったいきさつや、そう感じる自分の感性を注視しながら、社会とのかかわり方を模索していけるような、学問の基礎体力を身につけましょう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 優子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本セミナーでは、共同学習を通じて、学生ひとりひとりが大学で学ぶための基礎的な知識や技能を習得し、4年間の学生生活を軌道に乗せることを目的とします。	メッセージ 新入生の皆さんに、学生間、教員とのコミュニケーションの場を提供します。一緒に、学生としての意識、方法、目的を明確にしていきたいと思います。
	到達目標 ・大学生活の基盤（規則的生活・友人関係・自学自習の習慣）を作る。 ・大学で学ぶための基本的スキル（読む、書く、聴く、伝える、対話する力）を習得する。 ・他者とのコミュニケーションや協働を通じて、自分自身の興味関心や学習目的を研ぎ澄ませる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス、自己紹介	シラバスの熟読
	2	仲間とともに学ぶ・他者紹介	ワークシート課題
	3	大学での学びと自己管理①	ワークシート課題
	4	大学での学びと自己管理②	ワークシート課題
	5	講義ノートのとり方	ワークシート課題
	6	テキストの読み方・要約の仕方①	ワークシート課題
	7	テキストの読み方・要約の仕方②	ワークシート課題
	8	テキストの読み方・要約の仕方③	ワークシート課題
	9	図書館の活用	ワークシート課題
	10	レジュメの作り方・発表の仕方	ワークシート課題
	11	レジュメの発表とディスカッション①	レジュメ作成と発表準備
	12	レジュメの発表とディスカッション②	レジュメ作成と発表準備
	13	レジュメの発表とディスカッション③	レジュメ作成と発表準備
	14	レポートの書き方	ワークシート課題
	15	大学生活と自分の将来	ワークシート課題
	16	まとめ	今後の課題発見
	17	後期ガイダンス、グループ編成	
	18	話し合いと仮テーマの設定	各自、事前にテーマ案を探す
	19	グループ調査①	グループで協力して調査を行う
	20	グループ調査②	グループで協力して調査を行う
	21	中間発表①	グループで課題に取り組む
	22	中間発表②	グループで課題に取り組む
	23	アウトラインの作成と提出	グループで課題に取り組む
	24	グループ調査①	グループで協力して調査を行う
	25	グループ調査②	グループで協力して調査を行う
	26	グループ調査のまとめ①	グループで課題に取り組む
	27	グループ調査のまとめ③	グループで課題に取り組む
	28	最終プレゼンテーション①	グループで課題に取り組む
	29	最終プレゼンテーション②	グループで課題に取り組む
30	最終プレゼンテーション③	グループで課題に取り組む	
31	まとめ	今後の課題発見	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業内容に応じて、プリントを配布します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 本セミナーは、大学4年間の学びの基盤となる授業です。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席をとります。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡してください。 ・入学から卒業までをともにする仲間たちを尊重し、一緒に学ぶ姿勢を持ちましょう。 ・日常的に新聞を読み、沖縄、日本、世界の動向に関心を持ちましょう。 ・毎回授業のふりかえりを行います。自分自身の学びや興味関心を確認していきましょう。 ・わからないことは仲間や教員に相談するようにしましょう。 </p>
	<p>評価 平常点50%（出席状況、授業への参加、課題への取り組み）、期末点50%（レポート）をあわせて総合的に評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 2年次配当科目の「領域演習」が上位科目になります。フレッシュマンセミナーで会得した学びの基礎や習慣を 抛りどころに、専門的な方法論を修得し、自分自身の言葉を育てていきましょう。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	1年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備	ねらい 社会文化学科の学びにおいて必要とされる基礎的な技能と考え方を習得するために、実践的な課題を設定して取り組む。	メッセージ 大学での学びに適応しようとする意志と知的好奇心を発揮することが必要となる。
	到達目標 専門的な文章を理解する能力、伝達力をもった報告を作成する能力、テーマに対応したグループ調査を行う能力を身に付ける。	

学びの準備	到達目標 専門的な文章を理解する能力、伝達力をもった報告を作成する能力、テーマに対応したグループ調査を行う能力を身に付ける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期の課題と方法についてのガイダンス①	
	2	前期の課題と方法についてのガイダンス②	
	3	文章読解のトレーニング①	
	4	文章読解のトレーニング②	
	5	文章読解のトレーニング③	
	6	文章読解のトレーニング④	
	7	レジュメ作成と報告①	
	8	レジュメ作成と報告②	
	9	レジュメ作成と報告③	
	10	レジュメ作成と報告④	
	11	課題提出に向けた報告①	
	12	課題提出に向けた報告②	
	13	課題提出に向けた報告③	
	14	課題提出に向けた報告④	
	15	課題の提出と振り返り	
	16	後期の課題と方法についてのガイダンス	
	17	調査テーマの設定と役割分担	
	18	文献・資料調査のトレーニング①	
	19	文献・資料調査のトレーニング②	
	20	グループ調査の準備状況の報告①	
	21	グループ調査の準備状況の報告②	
	22	調査の中間報告①	
	23	調査の中間報告②	
	24	調査の中間報告③	
	25	調査内容のまとめと報告資料の作成①	
	26	調査内容のまとめと報告資料の作成②	
	27	調査内容のまとめと報告資料の作成③	
	28	調査の最終報告①	
	29	調査の最終報告②	
30	調査の最終報告③		
31	後期課題の振り返り		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など テキスト等は指定せず、課題に応じて必要な資料を配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 課題に取り組む中での「気づき」や調査による「発見」をメモ等に残し、必要に応じて再確認しながら取り組むことが重要となる。</p>
	<p>評価 演習への参加姿勢、提出課題の内容、報告内容によって評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 各自が選択する2年次の領域演習につながる</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	t o m o - i c h i k a w a @ h o t m a i l . c o . j p	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、大学で学び、自ら調べ考えたことを発信（文章作成、プレゼンテーション）するための基礎訓練を行う。文章を読む、書く、調べた内容を伝える、討論するといった事柄について、準備の過程からその実践までを扱う。</p>	<p>本ゼミで習得したことが、大学で学ぶ基礎となります。ゼミでの討論やグループワークを通して積極的な姿勢を身につけてください。</p>
到達目標	<p>1) 講義や討論の内容をノートにまとめ、理解した点と疑問点を明確にすることができる。 2) 新聞の社説、新書レベルの文章を正確に読解し、要約を作成することができる。 3) 興味を持ったことについて、テーマを具体化し、調査を実践することができる。 4) 上記の内容について、他人に口頭で説明し（プレゼンテーション）、論理的な文章を書くことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス：みなさんは自己紹介できますか？	
	2	大学で学ぶとは？講義とゼミ	
	3	ノートの取り方	配布資料の復習、学習内容の実践。
	4	大学でのPCの活用：知らない人にメール出したことありますか？	同上
	5	文章の読解と要約の作成①	事前の準備
	6	文章の読解と要約の作成②	同上
	7	文章の読解と要約の作成③	同上
	8	図書館の使い方	配布資料の復習、学習内容の実践
	9	論理的な文章を書く①	事前の準備
	10	論理的な文章を書く②	同上
	11	論理的な文章を書く③	同上
	12	発表の準備をする①：レジメの作成	事前の準備
	13	発表の準備をする②：レジメの作成	同上
	14	発表の準備をする③：パワーポイントの作成	同上
	15	前期のまとめ	
	16	後期ガイダンス：調査報告とは？班分け。	前期の学習内容の確認
	17	調査テーマを決める	班ごとの準備
	18	調査テーマについて説明	同上
	19	調査の方法(material and method)を明確し計画を立てる	同上
	20	調査の計画を説明する	同上
	21	グループで調査を実践する①	同上
	22	グループで調査を実践する②	同上
	23	グループで調査を実践する③	同上
	24	調査の中間報告①	同上
	25	調査の中間報告②	同上
	26	調査の中間報告③	同上
	27	予備日（講義またはフィールドワーク）	
	28	プレゼンテーション①	同上
	29	プレゼンテーション②	同上
30	プレゼンテーション③	同上	
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。関連する文献をその都度紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 履修の心構え 受講者は次の週の準備を行い、ゼミでも積極的に発言すること。また、遅刻、欠席をしないこと。（特に自分の発表の無断欠席は厳禁。） 2) 学びを深めるために 講義で学習する内容を、常に自分の生活との関連で考えてみる。新聞、ニュース、ほかの講義なども、自らの文章の作成やプレゼンテーション能力向上の材料とすること。
	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文章作成、プレゼンテーション課題などへの取り組み（10点×5回=50点） 2) 年度末レポート（50%）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は、2年次の「領域演習」、3,4年次の「演習」でのゼミ活動の基礎となる。</p>

科目基本情報	科目名 フレッシュマンセミナー	期別 通年	曜日・時限 水3	単位 4
	担当者 及川 高	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ t.oikawa@okiu.ac.jp 迷ったらすぐに問い合わせること	

学びの準備	ねらい 大学で学び、研究をするための最も基本的な技術を身につけることが目的である。ここで言う技術とは、「論文や専門書を探し、読むこと」「情報を整理すること」「生産的な議論すること」「成果をまとめること」「書くこと」「発表すること」等を指している。講義と実践を交えつつ、それらの技術の習得を目指す。またインターネット上の情報の扱いや、研究者倫理の考え方も解説する	メッセージ 大学での学びは何であっても主体性が求められます。言われたことをこなしていくのではなく、自分のやりたいことを探し、それを教員にぶつけていってください。
	到達目標 自分で必要な資料や文献を探し出せること。またその内容を適切につかみ、文章への表現ができるようになること。加えて写真や図表による表現も使いこなせるようになることが望ましい	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	「書く」ための調査	
	3	資料を探すー1	
	4	資料を探すー2	
	5	資料を探すー3	
	6	資料を探すー4	
	7	文章を書くー1	
	8	文章を書くー2	
	9	文章を書くー3	
	10	文章を書くー4	
	11	推敲するー1	
	12	推敲するー2	
	13	推敲するー3	
	14	まとめる	
	15	フィードバックする	
	16	前期まとめ	
	17	後期ガイダンス	
	18	研究計画を立てるー1	
	19	研究計画を立てるー2	
	20	必要なデータを見定めるー1	
	21	必要なデータを見定めるー2	
	22	必要なデータを見定めるー3	
	23	データを集めるー1	
	24	データを集めるー2	
	25	データを集めるー3	
	26	データをまとめるー1	
	27	データをまとめるー2	
	28	データをまとめるー3	
	29	フィードバックする	
	30	まとめ	
31	通年のまとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を配付する ・特になし
	<p>学びの手立て</p> <p>読書習慣をつけること。人文学とは「読む・書く」ことが全てです。</p>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義と共に適宜実践的な課題を課す。その課題への取り組みに準じ、①基本的な技術の習熟度合い、②積極性と創意工夫、の2点に基づいて評価をつける。なお技術の習得を目的とした講義であるため、出席数に関しては厳格な考え方を採る。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>領域演習</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	1年		

学びの準備	ねらい 本科目は、社会文化学科1年生を対象としたゼミナール形式の授業である。本科目では大学での学びにおいて必要となる「書く」「読む」「伝える」ことの基本的な能力を習得することを目的とする。	メッセージ 【履修上の注意事項】 本科目は一般講義とは異なり、受講者に対して能動的・意欲的な取り組みを求める。
	到達目標 専門書の文章読解、文献・資料調査およびその報告書やレジュメの作成ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス①	授業時に指示した文献の講読
	2	ガイダンス②	授業時に指示した文献の講読
	3	文章読解のトレーニング①	授業時に指示した文献の講読
	4	文章読解のトレーニング②	授業時に指示した文献の講読
	5	文章読解のトレーニング③	授業時に指示した文献の講読
	6	文章読解のトレーニング④	授業時に指示した文献の講読
	7	レジュメ作成と報告①	レジュメ作成に関する文献の講読
	8	レジュメ作成と報告②	レジュメ作成に関する文献の講読
	9	レジュメ作成と報告③	レジュメ作成に関する文献の講読
	10	レジュメ作成と報告④	レジュメ作成に関する文献の講読
	11	学外フィールドワーク	フィールドワークのデータ整理
	12	報告書の作成①	報告書作成に関する文献の講読
	13	報告書の作成②	報告書作成に関する文献の講読
	14	報告書の作成③	報告書作成に関する文献の講読
	15	前期のふり返り	前期の総合的な復習
	16	後期のガイダンス・グループ編成	授業時に指示した文献の講読
	17	テーマ設定と役割分担	授業時に指示した文献の講読
	18	文献・資料調査のトレーニング①	調査に関する文献の講読
	19	文献・資料調査のトレーニング②	調査に関する文献の講読
	20	グループ調査の準備①	調査の具体的計画の考案と実施
	21	グループ調査の準備②	調査の具体的計画の考案と実施
	22	グループ調査の準備③	調査の具体的計画の考案と実施
	23	中間発表①	調査報告書の作成
	24	中間発表②	調査報告書の作成
	25	グループ調査のまとめ①	調査報告書の修正と発表準備
	26	グループ調査のまとめ②	調査報告書の修正と発表準備
	27	グループ調査のまとめ③	調査報告書の修正と発表準備
	28	最終発表①	最終報告書の作成
	29	最終発表②	最終報告書の作成
30	最終発表③	最終報告書の作成	
31	後期のふり返り	後期の総合的な復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。適宜、資料を配布する。</p>
び の 実	<p>学びの手立て</p>
践	<p>評価 原則として、授業参加度（40%）、発表・調査報告・課題（60%）を総合し評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

※ポリシーとの関連性 グローバル化時代を生き抜くには、「他者」理解もまた必須である。
。本講義の目的は、異文化理解の基礎を提供することにある。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学概論	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「文化人類学」とは、「文化」というキーワードを基礎としながら、世界各地の諸社会および総体としての人類社会について、その多様性と共通性を明らかにしていこうとする学問分野である。本講義では、「人間と文化」という視点から人類社会に関わるさまざまなトピックを取り上げて、人類とは何か、人間社会とは何かについて考えていく。	日本の人口は世界の1/60である。140万人の沖縄県に至っては1/5, 200に過ぎない。「自文化」理解は大切だが、沖縄・日本だけが世界ではない。世界の諸社会・文化を知ること、翻って、沖縄・日本の社会・文化的特徴を再発見することにつながる。本講義を通じて人類社会・文化の多様性と共通性を認識し、「アジア・世界のなかの沖縄・日本」を考えることのできる人材を目指して欲しい。
到達目標	世界各地の諸社会・文化に関する基礎的な知識を身に付け、比較という観点から人類社会・文化の多様性と共通性を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	文化人類学について調べよう。
	2	「文化」とは何か? — 人類学と「異文化」理解	「文化」概念について考えよう。
	3	文化人類学の方法論 — 「社会・文化」を読み解くために	文化人類学の独自性とは何か。
	4	映像鑑賞	「文化」を扱った作品を探そう。
	5	家族と親族 (1) — 親族研究の基礎と人類学	親族関係の多様性を知ろう。
	6	家族と親族 (2) — キンドレッド/出自/婚姻	親族の役割について考えよう。
	7	贈物のヒミツ — 贈与・交換の原理と「社会」	身の回りの贈物を考えよう。
	8	認識/コミュニケーション/儀礼	儀礼の意味について考えよう。
	9	「死」の扱い方と宗教 — 究極問題へのアプローチ	宗教の多様性を考えよう。
	10	映像鑑賞	身近な「儀礼」を探してみよう。
	11	政治と権力 — 人類社会における諸政治形態と権力	身近な「政治」を探してみよう。
	12	身体とジェンダー — オトコ (△) であること、オンナ (○) になること	ジェンダーの構築性を知ろう。
	13	自然/環境/資源化 — 人類と自然・環境との関係	自然・環境と人類を考えよう。
14	アイデンティティ/民族/ナショナリズム	「自己/我々」の成立を考えよう。	
15	まとめ — 「人類社会理解」への果敢な挑戦	人類学を学ぶ意義を考えよう。	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	・テキストは特になし。(毎回の講義でレジュメおよび資料を配布する) ・主要参考文献は次の通り。 石川栄吉ほか(編)1995『文化人類学事典』弘文堂 米山俊直(編)1995『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社		
	学びの手立て		
	「他者」を知ることは、より深い「自己」理解のための必須条件である。世界各地の社会・文化に関するニュース報道などの関心をもち、欧米だけでなくアジア/アフリカ/太平洋/中南米地域の社会・文化と沖縄・日本のそれとを比較する視点を養ってほしい。「他者」に関心をもつ者には、「自己」しか知らない者よりも、より多くの「発見」を得られるはずである。		
	評価		
	平常点 (30%)、筆記試験 (70%) 毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパー (感想、コメント、質問) の提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化人類学理論、アジア文化概論、アジア社会文化論 I・II・III、比較民俗学、多民族論、etc.
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学理論	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学概論」では、生活に関連した諸トピックを例に、人類社会・文化の多様性と共通点を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な理論(≒「メガネ」)をレビューすることで、世界の諸社会・文化の理解が「自文化理解の深化」につながることを学ぶ。</p>	<p>人文・社会科学における「理論」とは、事象をより説得的に説明するための「メガネ」である。社会・文化人類学が用いてきた様々な「理論≒メガネ」の存在を知る者は、より多くの「世界(人類社会・文化)の秘密」を発見することができる。人類学理論によって発見された「秘密」は、あなたが限りある人生を生きていく上で、極めて有用なものとなるだろう。</p>
到達目標	<p>社会・文化人類学の諸理論(≒メガネ)に関する基礎的な知識を身につけ、人々が普段の生活では意識することが少ない「自文化」を含む世界各地の諸社会・文化の構造やメカニズム、すなわち「世界の秘密」を理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	文化人類学について調べよう。
	2	「文化人類学」とは何か?—人類学と「異文化」理解	「文化」概念について考えよう。
	3	人類進化の歴史—地球/生物/人類の歴史	人類の歴史を調べよう。
	4	社会進化論・伝播論・新進化論—人類史の一般化	人類学最初の理論を学ぼう。
	5	文化とパーソナリティ論・心理人類学—「文化の型」・民族性	国民・民族性について考えよう。
	6	映像鑑賞—人類学者の仕事、『南太平洋の人々』	フィールドワークを学ぼう。
	7	機能主義(1)—「社会の仕組み」を考える	自文化社会の仕組みを考えよう。
	8	機能主義(2)—「社会関係の基礎」としての「親族」	身近な「親族」を調べよう。
	9	構造主義(1)—発想の由来とエッセンス	構造主義の特徴を調べよう。
	10	構造主義(2)—構造分析とその影響力	構造主義の議論を調べよう。
	11	映像鑑賞—構造主義の復習&応用編 『音楽の正体』	構造分析にトライしてみよう。
	12	認識・象徴人類学と解釈人類学—「文化」の捉え方	「文化」の可変性を考えよう。
	13	構造と実践—構造/歴史/主体性	無意識の「文化」を考えよう。
14	日本の人類学—歴史と現在	日本の人類学について調べよう。	
15	まとめ—人類学理論と人類社会・文化の理解	文化人類学の意義を考えよう。	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>・テキストは特になし。(毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する)</p> <p>・主要参考文献は次のとおりである。</p> <p>綾部恒雄(編)2006『文化人類学20の理論』弘文堂。</p> <p>石川栄吉ほか(編)1995『文化人類学事典』弘文堂。</p> <p>バーナード、A. 2005『人類学の歴史と理論』明石書店</p>		
学びの手立て	<p>「他者」を知ることは、より深い「自己」理解のための必須条件である。世界各地の社会・文化に関するニュース報道などに関心をもち、欧米だけでなくアジア/アフリカ/太平洋/中南米地域の社会・文化と沖縄・日本のそれとを比較する視点を養ってほしい。「他者」に関心をもち者には、「自己」しか知らない者よりも、より多くの「発見」を得られるはずである。</p>		
評価	<p>平常点(30%)、筆記試験(70%)</p> <p>毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパー(感想、コメント、質問)の提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、多民族論、etc.</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 平和運動史	期別 後期	曜日・時限 月 4	単位 2
	担当者 -石川 朋子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 戦後日本が掲げてきた「平和主義」や「平和国家」とはどのようなものか、沖縄の抱えている「米軍基地」から改めて考える機会にする。	メッセージ 沖縄の歴史的経験から「平和」について考えるきっかけになることを期待したい。
	到達目標 沖縄、日本の未来の平和について、自分自身の考え、意見を目標に思考を深化させる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 沖縄の「基地問題」の歴史を第一の波「島ぐるみ闘争」、第二の波「祖国復帰運動」、第三の波「脱米軍基地運動」と時期区分し、その時期の平和を求める住民運動から平和について考えていきます。 講義時間外に半日程度のフィールドワーク等も取り入れる予定です。
	テキスト・参考文献・資料など 特になし。講義は毎回配布するレジユメに沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像も使用する。

学びの実践	学びの手立て 私語、講義の妨害する行為は認めない。
	評価 講義でのリアクションペーパー等を提出してもらおう。それにより出席・講義理解状況を把握し、レポート、テスト等で総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和学概論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	1年	講義終了後の教室およびオフィスアワー	

学びの準備	ねらい いま沖縄で問われ続けていることを出発点としつつ、いくつかの具体的な問題に焦点を当てながら、平和学の入口を紹介していく。そのために、「戦争と国家」という問題設定から世界史的な動向にも視野を広げたうえで、身近な暴力性を含めて問い直すために構造的暴力の視点を重視し、平和学の広がり理解できるように講義を展開する。	メッセージ わたしたちの身の回りで日々起こっている問題に目を向け、それを生み出している社会の構造について考える意識を持ってもらいたい。
	到達目標 人びとの権利や尊厳、それを脅かす問題に目を向け、地域の視点と世界的な視点の双方を用いて思考する力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 講義内容と課題についてのガイダンス 第2回 沖縄から考える① 基地問題の起源 第3回 沖縄から考える② 基地集中と固定化 第4回 沖縄から考える③ 韓国との同時代性 第5回 沖縄から考える④ 核兵器と沖縄 第6回 沖縄から考える⑤ 選別される戦争犠牲者 第7回 戦争と国家① 総力戦の世紀 第8回 戦争と国家② メディアと戦意 第9回 戦争と国家③ 軍産複合体 第10回 戦争と国家④ 核の”平和利用” 第11回 構造的暴力① ガルトウングの視点 第12回 構造的暴力② 貧者の徴兵制 第13回 構造的暴力③ 軍隊と性暴力 第14回 構造的暴力④ 国策と地域 第15回 構造的暴力⑤ 沖縄の経験を読み解く 第16回 学期末テスト
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、必要な資料は教室で配布する。 石原昌家ほか編『沖縄を平和学する！』（法律文化社、2005年） 最上敏樹『いま平和とは』（岩波新書、2006年）
	学びの手立て 各テーマに関する配布資料や文献を精読するとともに、関連図書や新聞を調査して問題を発見する。
	評価 学期末テスト50%、小レポート25%、参加姿勢25%

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の専門基礎科目
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和教育学	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-北上田 源	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄ではさかんに平和教育が行われているものの、それがどのような社会的背景や学問的研究の成果に基づいて変遷してきたのかは知られていない。本講義では、これまで行われてきた特徴的な平和教育実践に着目し、模擬授業およびその実践の背景に関しての解説を通して、今後の平和教育のあるべき姿について考える。</p>	<p>みなさんがこれまで受けてきた平和学習はどのようなものでしたか？それは沖縄・日本・世界の平和教育の変遷の中でどのように位置づけられるものなのでしょうか？本講義では、平和教育の授業実践に焦点を当てて、時代や地域・国によって変化する平和教育の多様性/多層性について学び、今後の平和教育のあり方を考えていきます。特に、教員を目指す方にはぜひ受講してほしいと思います。</p>
到達目標	<p>①それぞれの時代・地域・国によって多様な平和教育があることを理解できる。 ②沖縄戦や沖縄の基地問題についてこれまでどのような平和教育実践が行われてきたかを、社会的背景や学術研究の成果との関連で理解できる。 ③国内や海外でこれまでどのような平和教育実践が行われてきたかを、社会的背景や学術研究の成果との関連で理解できる。 ④これまでの平和教育の発展・成果を踏まえて、今後のあるべき平和教育の創造に寄与できる力をつける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	自分たちが経験してきた平和学習を振り返ろう①	記憶にある平和学習を振り返る
	3	自分たちが経験してきた平和学習を振り返ろう②	記憶にある平和学習を振り返る
	4	基地問題を取り上げた平和教育実践-沖国大ヘリ墜落事故を取り上げた授業実践	沖国大ヘリ墜落事故について調べる
	5	基地問題を取り上げた平和教育実践の背景-基地問題の何をどう教えるか？	沖縄の基地問題について調べる
	6	戦争体験の継承を意図した平和教育実践-身近な人の体験を聞き取る授業実践	身近な人の戦争体験について調べる
	7	戦争体験の継承を意図した平和教育実践の背景-なぜ身近な人を取り上げるか？その意味と課題は？	身近な人の戦争体験について調べる
	8	加害の側面に着目した平和教育実践-アジアでの加害の実態について調べる授業実践	日本のアジア侵略について調べる
	9	加害の側面に着目した平和教育実践の背景-日本はアジアで何をしたか？その責任をどう考えるか？	日本のアジア侵略について調べる
	10	加担・抵抗の側面に着目した平和教育実践-朝日新聞連載「女も戦争を担った」を用いた授業実践	参考資料(授業時に提示)を読む
	11	加担・抵抗の側面に着目した平和教育実践の背景-誰が戦争を推し進めたのか？	参考資料(授業時に提示)を読む
	12	積極的平和について考える平和教育実践-「大切な経験を共有する」平和教育実践	参考資料(授業時に提示)を読む
	13	積極的平和について考える平和教育実践の背景-消極的平和と積極的平和・直接的暴力と構造的暴力	参考資料(授業時に提示)を読む
14	身近な問題から平和について考える授業実践-人権・平和・環境について考える平和教育実践	参考資料(授業時に提示)を読む	
15	身近な問題から平和について考える授業実践の背景-平和とは何か？	参考資料(授業時に提示)を読む	
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	特になし：授業時にプリント配布		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の人数、出身地、関心などに応じて授業内容および順序を変更することがあります。 ・授業では適宜沖縄戦および基地問題など、平和教育に関する時事問題を取り上げます。新聞等を意識して見ておくことで学習内容についての理解が深まります。 ・講義中に意見交流や議論の場を頻りに設けるため、積極的な授業参加の姿勢が求められます。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点…20点(出欠状況に基づく。授業への積極的な参加が見られる場合には適宜加点する) ・小レポート…30点(毎回の講義でA4半分程度の用紙にて小レポートの提出を課す)上記到達目標①②③を評価 ・最終レポート…50点 上記到達目標④を評価 		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 国際社会で起きていることを事例から各立場の「平和思想」を考え
る。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和思想	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄の平和思想と世界の著名な平和思想者との相違点を考える。また、「平和思想」の運動の中で蔑ろにされた人々の権利回復要求運動を知る。加えて、権力者が使用する「平和」という概念と非戦・非暴力の違いを考える。	メッセージ 沖縄はもとより、世界の代表的な平和思想を知り、様々な考えを取り入れることができるようになる。
	到達目標 目標① 基本の理論を用いて国際問題を分析できる。 目標② 国家の外政策と国内政策の概要を説明できる。 目標③ 安全保障問題と平和の争議を説明できる。 目標④ インターネットや新聞等で平和問題に関わる事柄の情報収集をすることができる。 目標⑤ 時事問題に関して授業中発言することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義内で提示
	2	平和思想とは何か	講義内で提示
	3	沖縄の平和思想①	沖縄県史、市史、字誌
	4	沖縄の平和思想②	沖縄県史、市史、字誌
	5	沖縄の平和思想③	沖縄県史、市史、字誌
	6	マハトマ・ガンジーとインドの独立運動	『ガンジー自伝』
	7	キング牧師と公民権運動	『キング牧師』
	8	米国の公民権運動と先住民族の権利①	『好戦の共和国アメリカ』
	9	米国の公民権運動と先住民族の権利②	『好戦の共和国アメリカ』
	10	「平和」と安全保障①	講義内で提示
	11	「平和」と安全保障②	講義内で提示
	12	人間の安全保障①	人間の安全保障
	13	人間の安全保障②	人間の安全保障
14	人間の安全保障③	人間の安全保障	
15	講義のまとめ		
16	最終試験		
テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：油井大三郎『好戦の共和国アメリカ』岩波新書、2008年、石原昌家・仲地博編『オキナワを平和学する』法律文化社、2005年、木戸衛一編『平和研究入門』大阪大学出版会、2014年など。			
学びの手立て 新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。 沖国の規定どおり5回以上欠席した場合は、不可とする。講義時間開始30分以降の入室は遅刻とする。 講義内では理解度確認のため、受講生へ意見や発言を促すことがある。			
評価 出席30%、平常点10%、期末試験60%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「平和学」、「国際平和学I」など
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マスコミ論	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 要	2年	kaname@11.u-ryukyuu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マス・コミュニケーションの機能や影響、日本のジャーナリズムが抱える問題点などに関する講義を行なう。また、新聞記事を読んでもらうことにより、時事問題への理解を深めるだけでなく、メディアの働きについて深く考えてもらう。	メッセージ 「マスコミ」をよく知り、情報に踊らされない人になりましょう。この授業がその手助けになるはずです。
	到達目標 現代社会におけるマス・コミュニケーション状況を社会的視点から理解し、各人のメディアリテラシーを養う。また、実際に新聞記事のスクラップ作成を通して、現代のマス・メディアの報道機能を批判的に考察できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	マス・コミュニケーションの概念1	授業内容の復習および課題
	3	マス・コミュニケーションの概念2	同上
	4	メディアの社会的機能	同上
	5	新聞社の組織と問題点	同上
	6	ジャーナリズムの機能	同上
	7	報道協定	同上
	8	ジャーナリズムと報道の自由	同上
	9	誤報と虚報	同上
	10	性表現と言論の自由	同上
	11	世論とマスコミ	同上
	12	マスコミの利用と満足研究	同上
	13	マスコミの説得効果	同上
	14	コミュニケーションの流れ研究	同上
15	広告とマスコミ		
16	試験・課題提出		
テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じ資料を配布する。			
学びの手立て 履修の心構え：新聞記事のスクラップを作成するので、新聞が入手できることが望ましい（やむを得ない場合は新聞記事のコピーでも可）。質疑応答など授業に積極的に望む姿勢が求められる。学びを深めるために：日頃から、新聞やテレビニュースなどに触れることが望ましい。			
評価 1. 課題：60% 新聞記事のスクラップ作成（作成方法等は授業時に説明する） 2. 期末試験：40%（ノート、参考文献等の持込不可）			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民俗学概論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	主に日本民俗学の知見に即して、民俗学的なものの方・考え方について解説する。なお本講義では沖縄県に限らず、日本各地や一部東アジア諸国の事例にも幅広く言及する。テーマごとに1回完結の内容で講義を進めていくが、適宜以前の講義内容にも言及し、生産技術と社会組織、精神文化の複合について理解を深めていく。なお最後に講義内容に則った試験を課す。	民俗学の知見を広く浅く扱います。高校までの日本史の知識を前提に、民衆の生活から見たらそれらがどのように捉えられているのか、その一端に触れてもらえればと思います。
到達目標	民俗学の基本的な知識を身につけ、その用語について自分でも使えるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	民俗学とはどんな学問か	
2	地域共同体；村落とは何か		
3	親族と婚姻；財としての女性		
4	人生；生まれ育って死ぬこと		
5	死者と先祖		
6	宗教者；霊威と権力		
7	俗信；行為としての宗教		
8	食べる；嗜好の文化		
9	農耕；米と芋		
10	海と川；魚を獲った人々		
11	山；殺すことと作ること		
12	都市と商業		
13	非日常；祭りと災害		
14	口承文芸；民話から都市伝説まで		
15	東アジア民俗学		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	・プリントを配付する。		
	学びの手立て		
	配布資料は過密に作成されている。読み返すことで知識が深まる面もあるため利用すること。		
	評価		
	・テストを中心に、講義への参加態度を加味して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗学Ⅰ、南島民俗学Ⅱ、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民俗・人類学特殊講義Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-武井 基晃	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄および台湾でのフィールドワークの成果を題材に、提示された教材資料の内容の理解だけでなく、その資料の可能性と限界—そこから何がどこまでわかるのか・どこからがわからず足りないのか—を認識することを学ぶ。また近世史や戦後史の題材についても、常にそれらの歴史が現代においていかに生きているかを考えたい。	講義担当者は山梨の生まれ、関東の大学で民俗学を学んでから、2003年20代半ばのときに沖縄調査を始め、以来フィールドワークを続けています。調査の対象は村落・祭祀・行事から、門中そして家譜資料へと移行し、関心の向くまま現代、戦後、近代、近世へと及んでいます。今回はその成果、および台湾の調査成果について、資料や動画を提
到達目標	(1)講義内容1—沖縄の門中の家譜資料(近世史)・来歴(近代史、戦後史)・実態(現代)について理解する。 (2)講義内容2—台湾の年中行事・神と人との対話—について理解する。 (3)講義や資料・映像に対して、可能性と限界を自分なりに考える。 (4)その上で、1人1人が次に調査するべき課題を意識することを目指す。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	『民俗〇〇』の検証—民俗学者の語彙論—	教材資料の可能性と限界を認識する
	2	日本民俗学が論じた沖縄—一九七〇年前後の反省の文脈を中心に—	教材資料の可能性と限界を認識する
	3	屋取における士族系門中の現状	教材資料の可能性と限界を認識する
	4	ムラ・ヤードゥイの関係の実例	教材資料の可能性と限界を認識する
	5	軍用地返還の経緯と跡地利用の実体験：西原飛行場周辺	教材資料の可能性と限界を認識する
	6	戦後沖縄の墓の修繕	教材資料の可能性と限界を認識する
	7	自動車社会化と沖縄の祖先祭祀	教材資料の可能性と限界を認識する
	8	新「公益法人」制度と門中	教材資料の可能性と限界を認識する
	9	那覇孔子廟の引っ越し 戦中・戦後～最近	教材資料の可能性と限界を認識する
	10	系図と子孫：系図をつなぐ(系図作成の実例)	教材資料の可能性と限界を認識する
	11	琉球王府の「士」の人生—名門・官吏・外交担当—	教材資料の可能性と限界を認識する
	12	琉球王府「通事」と異国船	教材資料の可能性と限界を認識する
	13	台湾：神と人の対話(紙銭、コックリサン、神の豚、踊るナタク)	教材資料の可能性と限界を認識する
	14	台湾：七夕と成年儀礼	教材資料の可能性と限界を認識する
15	台湾：旧暦7月—鬼門の開閉	教材資料の可能性と限界を認識する	
16	まとめ：フィールドワークの積み重ね	教材資料の可能性と限界を認識する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	参考文献：「琉球王府の外交官と異国船」『別冊『環』』23(2018)、「日本民俗学が論じた沖縄 1970年代前後の反省の文脈を中心に」『國學院雑誌』118-4(2017)、「歴史を越える門中 門中団体の事業と法人化」『〈境界〉を越える沖縄』(2016)、「系図と子孫 琉球王府士族の家譜の今日における意義」『日本民俗学』275(2013)、「軍用地返還後の土地利用と暮らし 西原飛行場一帯の原状と現状」『沖縄民俗研究』31(2013)、「祭祀を続けるために 沖縄の祖先祭祀における代行者と禁忌の容認」『現代民俗学研究』4(2012)、「『民俗〇〇』の検証」『歴史人類』39(電子公開)

学びの手立て	講義を聴いて、「〇〇についてわかった(つもり)！」で終わるのではなく、「〇〇についてはわかったが、◇◇についてはまだよくわからない…?」を常に意識してほしい。その「◇◇」が、学生本人にとっての次の課題、次のテーマの起点となる。そのためには休まず遅刻せず居眠りせずに、提示する教材にしっかりと目を通すことが求められる。
--------	--

評価	小レポート(40%)：授業後や区切りの良いところで、自分の理解度(教材資料の可能性と限界の認識)に向き合い、ことばにする。 最終レポート(60%) 但し、1/3以上欠席した学生については評価対象としない。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本科目は、「沖縄」・「フィールドワーク」・「比較文化的観点」を強調する本学科の教育目標の実現において不可欠なものである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球アジア文化論	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣直(4) / 及川高(4) / 比嘉理麻(4) / 神谷智昭(3)	2年	石垣直 (nishigaki@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、「アジア」（特に東アジア）のなかの沖縄の文化を、比較文化的あるいは文化人類学的な視点から学ぶ。1年次に学ぶ「民俗学概論」・「文化人類学概論」をはじめ、民俗・人類学関連の講義・ゼミでの学習を踏まえ、「琉球・沖縄文化」を広く「（東）アジアの文化」のなかに位置づけることを目指す。</p>	<p>琉球弧の島々の歴史や文化を学ぶことはとても大切である。しかし、その特徴は周辺諸地域との比較を通じてこそより一層明らかになる。公務員・教員としてこの社会を支えるにしても、あるいは観光業その他の民間企業で働くとしても、この島々で育まれてきた文化の特徴を理解することは極めて重要である。「沖縄を知り、さらにその先に進もう！」とする学生の志に期待したい。</p>
到達目標	<p>本講義を履修するのにあたっては、その前段階として、沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論などの科目を履修していることが必要である。また、沖縄文化はもとよりアジア諸地域の文化に関する基礎的理解も重要であるため、南島民俗学史Ⅰ・Ⅱや南島民俗学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳあるいはアジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか複数の科目を合わせて履修することが望ましい。学生は、本講義の履修によって、沖縄文化を広く「（東）アジア」の諸文化のなかの一つとして位置づけることができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス——「アジアの中の琉球文化」という視点	琉球／アジア関係について調べる
	2	東アジアのなかの沖縄の親族制度	沖縄の親族制度と周辺地域との比較
	3	東アジアの年中行事と沖縄	沖縄の年中行事と周辺地域との比較
	4	東アジアのなかの沖縄の宗教・世界観	沖縄の宗教と周辺地域との比較
	5	東アジアの仏教1 儒教・道教・神道との習合	東アジア諸宗教について調べる
	6	東アジアの仏教2 日本史・琉球史の中の仏教	東アジア仏教史について調べる
	7	東アジアのキリスト教 イエスの宗教と民衆運動	キリスト教諸派の性格を調べる
8	東アジアの新宗教——カリスマのアジア的性格	さまざまな新宗教について調べる	
9	食文化から考える沖縄	沖縄の食文化の特徴を整理する	
10	食文化から考えるアジア	アジアの食文化について調べる	
11	東アジアのなかの沖縄の豚食文化	沖縄の豚食文化の歴史を調べる	
12	東アジアの産業化と食文化の変容	産業化の歴史を考察する	
13	朝鮮半島と沖縄の家族・親族	朝鮮半島と沖縄の家族・親族を比較	
14	朝鮮半島と沖縄の村落	朝鮮半島と沖縄の村落を比較	
15	朝鮮半島と沖縄の霊的職能者	朝鮮半島と沖縄の霊的職能者を比較	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	<p>本講義はオムニバス形式（複数教員による分担）で実施されるため、統一したテキストはない。レジュメ、参考文献、資料などは各回を担当する教員から提示・配布される予定である。</p>		
学びの手立て	<p>履修に際しては、通常の出席確認だけでなく、リアクション・ペーパー（感想・質問・意見）の提出を求める場合がある。他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意してほしい。なお、本講義での学びを深化させるため、履修学生には日頃から地域の歴史・文化関連ニュース、さらには周辺地域との経済・文化交流などについても意識して情報収集することを勧めたい。</p>		
評価	<p>本講義を担当する各教員による（リアクションペーパー／筆記試験／レポートなどに基づく）評価を総合し、成績を出す。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>上記【学びの準備】で挙げた関連科目をぜひ履修して欲しい。かつ、履修者自身が本講義で身に着けた知識や視点を在学中あるいは卒業後に社会でどのように活かすことができるのかという問題意識を常にもちながら、本講義における学びを実践して欲しい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

沖縄地域を学ぶ上においての、基本的な知識の提供。および沖縄地域の特徴を具体的に理解する機会になる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球・沖縄史入門	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原静 4回・深澤秋人 4回・市川智生 3回・藤波潔 4回	1年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では4名の担当教員がオムニバス形式で、沖縄の先史古代から近世、近現代までの枠組みの中から、各テーマを挙げて紹介し、琉球・沖縄の独自性や特質性を理解するとともに、その見方、考え方を学んでもらう。また、沖縄の歴史文化の広がりや深さの一端を知る授業である。	メッセージ 講義は考古学、歴史学の2領域の内容である。
	到達目標 今後の専攻ゼミを選択する際の素材提供となる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	昔と今の発掘調査	
	2	沖縄考古学の誘い	
	3	沖縄人のルーツ	
	4	先史時代のレシピ	
	5	琉球王国の成立	
	6	アジアの中の琉球王国	
	7	首里城	
	8	沖縄人の名前	
	9	沖縄戦の記憶	
	10	ゼロからのスタート	
	11	ネコとネズミ	
	12	沖縄を返せ	
	13	琉球王国から沖縄県へ	
	14	沖縄と大和とはざま	
	15	沖縄をはなれたウチナンチュ	
	16	まとめ	
	テキスト・参考文献・資料など 講義毎に資料を配付する。		
	学びの手立て 2年次の領域演習からゼミ選択があるため、事前講義としてみてもらいたい。		
	評価 試験・レポート（90%）、平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学、歴史学には各必修科目、選択必修科目が提供されているので、シラバスなどを参考にすること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉中交流史	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球王国と中国の明清王朝は、14世紀後半から19世紀後半にいたるまで、国家間の関係を成立させていました。しかし、常に安定した関係ではなく、アジアの歴史の変動を背景とする変化や危機がありました。本講義では、琉中交流史の変遷、琉球の王権や政権にとって琉中交流史が持つ意味を日本との関係を意識しながら考えます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14世紀から19世紀にいたる琉中交流史の変遷をアジアの歴史と関連づけて理解できるようになる。 ・琉球の王権や政権にとって時期によって異なる琉中交流史が持つ意味を理解できるようになる。 	<p>沖縄県内の博物館の常設展では、琉球・中国交流史に関わる資料が展示されています。また、企画展やシンポジウムが開催されることもあります。博物館やシンポジウムに足を運んでモノや議論に接することをおすすめします。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション、琉中交流史を始める前に</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>琉中交流史の研究の歴史—空白の40年間—</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>琉球の国家形成と明朝の朝貢システム</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>琉球の中継貿易①—東南アジア産品と中国商品—</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>琉球の中継貿易②—16世紀の海域アジア世界—</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>琉明関係の危機—朝鮮出兵と琉球侵攻の影響—</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>明清交替と琉球—南明政権・清朝・抗清復明運動—</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>講義の折り返し地点で</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>近世の琉球王権と冊封</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>琉球の朝貢ルート—進貢使の道—</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>清代の北京と琉球使節</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>琉清関係の危機—開港と太平天国運動の影響—</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>琉中関係の停止—東アジア国際秩序の再編の一環として—</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>琉中交流史をまとめる前に</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	イントロダクション、琉中交流史を始める前に		2	琉中交流史の研究の歴史—空白の40年間—		3	琉球の国家形成と明朝の朝貢システム		4	琉球の中継貿易①—東南アジア産品と中国商品—		5	琉球の中継貿易②—16世紀の海域アジア世界—		6	琉明関係の危機—朝鮮出兵と琉球侵攻の影響—		7	明清交替と琉球—南明政権・清朝・抗清復明運動—		8	講義の折り返し地点で		9	近世の琉球王権と冊封		10	琉球の朝貢ルート—進貢使の道—		11	清代の北京と琉球使節		12	琉清関係の危機—開港と太平天国運動の影響—		13	琉中関係の停止—東アジア国際秩序の再編の一環として—		14	琉中交流史をまとめる前に		15	まとめ		16	期末試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	イントロダクション、琉中交流史を始める前に																																																				
2	琉中交流史の研究の歴史—空白の40年間—																																																				
3	琉球の国家形成と明朝の朝貢システム																																																				
4	琉球の中継貿易①—東南アジア産品と中国商品—																																																				
5	琉球の中継貿易②—16世紀の海域アジア世界—																																																				
6	琉明関係の危機—朝鮮出兵と琉球侵攻の影響—																																																				
7	明清交替と琉球—南明政権・清朝・抗清復明運動—																																																				
8	講義の折り返し地点で																																																				
9	近世の琉球王権と冊封																																																				
10	琉球の朝貢ルート—進貢使の道—																																																				
11	清代の北京と琉球使節																																																				
12	琉清関係の危機—開港と太平天国運動の影響—																																																				
13	琉中関係の停止—東アジア国際秩序の再編の一環として—																																																				
14	琉中交流史をまとめる前に																																																				
15	まとめ																																																				
16	期末試験																																																				
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト・資料】テキストはなし。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入間田宜夫／豊見山和行『〈日本の中世5〉北の平泉、南の琉球』（中央公論新社、2002年） ・豊見山和行『琉球王国の外交と王権』（吉川弘文館、2004年）、同編『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』（吉川弘文館、2003年） ・桃木至朗編『海域アジア史研究入門』（岩波書店、2008年） 																																																				
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画であげたテーマのなかで関心を持ったもの、関心を持ってそうなものを事前にピックアップしておきましょう。 ・講義を受けながら、中国の歴代王朝のなかでも明朝と清朝の共通点や相違点を考えてみましょう。 																																																				
	<p>評価</p> <p>課題の提出状況20%、期末試験もしくはレポート80%によって総合的に評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「アジア史」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」を受講することを希望します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：上原 静 後期：宮城 弘樹	2年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	考古学はモノを通して学ぶ学問である。したがって実際に発掘することによって、まず調査の方法（測量、層位の識別、遺物の検出、データの整理法、図版作成など）について学ぶ。しかし、遺跡の発掘は、一種の遺跡破壊行為でもある。一度発掘してしまうと、遺跡は再び元には戻らない。このことを十分認識し、発掘に際しては周到な計画と、細心の注意が必要なことを理解してもらう。そうす	考古学領域は他のコースと異なり、前期、後期を一環して行うため、コース選択の際に注意すること。

到達目標
考古学の専門用語を学ぶ。 考古学におけるモノの捉え方、考え方、調査方法を学ぶ。 発掘調査報告書や論文が読め、内容の発表ができる。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1～5週 考古学の考え方を把握してもらう。 第6～10週 沖繩の先史文化について概説する。 第11～15週 土器、石器、骨器、貝器、陶磁器などの人工遺物について紹介する。 第16～18週 遺物の洗浄、註記、分類、集計を行う。 第19～25週 遺物の観察、実測、トレースを行う。 第26～30週 図版の作成とともに記述を行い、発掘調査報告書を仕上げる。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>藤本 強『考古学を学ぶ』雄山閣出版 1966年 高宮廣衛『先史古代の沖繩』第一書房 1991年 佐々木憲一他『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ 2011年 他多数、講義において随時紹介する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>考古学領域は卒業後にはすぐ専門職に就けるような修学の組み立てをしています。コース選択の際に注意すること。考古学はモノを対象に研究することから、積極的に屋外にでて、遺跡や貝塚を訪れ、また、資料館、博物館で実際のモノをみましよう。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>1、レポートを数回、随時に課す。 2、遅刻、欠席は減点の対象とする。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論2」。 先史古代の環境と社会文化の関わりについて、多様な視点でみる必要から社会文化学科提供科目を広く受講する。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：鳥山淳 後期：澤田佳世	2年	講義時間およびオフィスアワーに対応する	

学びの準備	ねらい 社会文化学科2年次の「社会・平和領域」の学生を対象として、ゼミナール形式の授業を行う。社会文化学科で取り組む調査・研究の基礎を構築するために、専門用語・概念の理解および専門的な調査の方法を身につけることを目的とする。	メッセージ 専門的な学びの基礎をしっかりと身につけること。
	到達目標 専門的な調査・研究方法の基礎を修得し、3年次の演習と実習に対応できる能力を身につける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 【前期】文献の輪読と各週の新聞報告を中心に進める。取り上げる文献は、以下のテーマに関連するものとする。 (1) 戦争体験・占領体験の記録化と継承の課題 (2) 軍事基地と沖縄社会との関係 (3) 現代沖縄社会が抱える構造的暴力 【後期】以下の目標と授業計画のもと、ゼミ形式で授業をすすめる。 《目標》 ①社会（科）学の基本的な考え方（ものの見方）と知識を習得する。 ②社会（科）学の調査研究と報告の仕方、「問い」の立て方と論じ方を身につける。 《授業計画》 ①ガイダンス（第1回） ②自己紹介と“他己紹介”（第2-3回） ③社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（第4-11回） ④沖縄フィールドトリップ（第12-13回） ④ビブリオ・バトル（第14-15回）
	テキスト・参考文献・資料など 【前期】テーマに応じて複数のテキストを授業中に提示する。 【後期】①他己紹介に関する参考資料を配布する。②輪読する社会学の入門的文献については、初回授業で紹介・選定したのち各自入手する。③ビブリオ・バトルについては、テーマに関する本を各自選定・準備して対応する。
	学びの手立て 課題に取り組む熱意とチームワークが不可欠である。
	評価 授業への参加姿勢、各種課題へのとりくみ、報告内容および提出状況によって総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次の演習 I および実習につながる
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：藤波 潔 後期：深澤 秋人	2年	藤波：fujinami@okiu.ac.jp 深澤：a.fukazawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会文化学科では、領域演習を「専門領域における調査・研究の基礎を構築する」科目として位置づけている。したがって、本演習では、歴史学の専門的な研究方法の基礎を修得させることを目的とする。具体的には、歴史研究に不可欠な工具類の活用法、専門文献の収集法、基礎的な歴史概念やフィールドワークを踏まえた歴史事象の理解を目的とする。</p>	<p>歴史領域の受講生は、3年次の演習Ⅰで前近代史と近現代史の2つのゼミに分かれることになる。そのため、演習Ⅰを担当する2人の教員で領域演習を担当するので、3年次以降の演習選択の参考にしてもらいたい。</p>
到達目標	<p>(1) 琉球・沖縄史に関する基本的な歴史概念や歴史事象を理解することができる。 (2) 歴史研究に必要な研究書や専門論文を収集し、概要を読解することができる。 (3) 歴史研究に不可欠な工具類やデータベースを、利用することができる。 (4) 歴史史料読解の基本的能力を習得できる。 (5) フィールドワークに積極的に参加し、五感を活用して歴史理解を深めようとする姿勢を持つことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス (担当：藤波 1～15回)	シラバス内容の理解
	2	歴史研究の全体像を知る	ワークシートの作成・提出
	3	基本的な事実を知る① (基本文献の理解)	ワークシートの作成・提出
	4	基本的な事実を知る② (研究工具の理解)	ワークシートの作成・提出
	5	基本的な事実を知る③ (博物館・史料館の理解)	ワークシートの作成・提出
	6	フィールドワーク実習① (不屈館)	ワークシートの作成・提出
	7	先行研究を調べる① (紀要、専門雑誌を知る)	ワークシートの作成・提出
	8	先行研究を調べる② (データベースを利用する)	ワークシートの作成・提出
	9	フィールドワーク実習② (波之上、泊地区)	ワークシートの作成・提出
	10	史料を集める① (歴史史料の多様性を知る)	ワークシートの作成・提出
	11	史料を集める② (歴史史料の所在を知る)	ワークシートの作成・提出
	12	フィールドワーク実習③ (史料収集演習)	ワークシートの作成・提出
	13	史料を読む①	史料読解の予習
	14	史料を読む②	史料読解の予習
	15	史料を読む③	史料読解の予習
	16	イントロダクション、後期の授業計画の確認 (担当：深澤16～31回)	シラバスをよく読むこと
	17	琉球・沖縄史の概要①ー古琉球と近世琉球ー	配布資料の復習と整理
	18	琉球・沖縄史の概要②ー宜野湾間切我如古村の世界ー	配布資料の復習と整理
	19	我如古旧集落のフィールドワーク	課題の作成と提出
	20	基本文献の紹介①ー『岩波講座 日本歴史』についてー	課題の作成と提出
	21	基本文献の紹介②ー『岩波講座 日本歴史』の琉球・沖縄史関連論考ー	課題の作成と提出
	22	基本文献の紹介③ー県内市町村史の刊行状況ー	課題の作成と提出
	23	基本文献の紹介④ー県内市町村史の文献資料ー	課題の作成と提出
	24	宜野湾市立博物館の見学 (予定)	課題の作成と提出
	25	基本史料を読む①ー福地家文書の日記ー	配布資料の復習と整理
	26	基本史料を読む②ー佐喜真家文書の「口上覚」と「言上写」ー	配布資料の復習と整理
	27	基本史料を読む③ー『評定所文書』宜野湾関係史料ー	配布資料の復習と整理
	28	主要論文を読む①ー比嘉春潮と「ある筆算人の一生」1)ー	配布資料の復習と整理
	29	主要論文を読む②ー「ある筆算人の一生」2)ー	配布資料の復習と整理
30	主要論文を読む③ー「ある筆算人の一生」3)ー	課題の作成と提出	
31	まとめ、3年次の取り組みについて		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、レジュメ・プリントを配付する。 参考文献は、適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会文化学科 2 年次を対象とした学科専門必修科目である。 ② 1 年次の学年末に提出した領域演習希望届に基づき、歴史領域に配属された者だけが履修できる。 ③ ゼミは、学生の主体的な学びによって成り立つので、積極的な参加が求められる。 ④ 前期、後期の詳細な内容は、それぞれの担当者が 1 回目の授業の際に説明する。
	<p>評価</p> <p>上記の到達目標の達成を指標として、前期、後期それぞれ100点で評価し、合算して総合成績とする。 個別の評価基準や評価方法については、前期、後期のガイダンスで説明する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>歴史領域の 2 年次は、領域演習の他に「社会調査法 I・II」「外国語資料講読演習 I・II」が必修科目となっている。それぞれクラス指定があるので、指定されたクラスで受講すること。 また、異文化理解科目のうち 1 科目以上が選択必修科目となっているが「アジア史」は必ず履修すること。 歴史研究にとって史料読解は不可欠の能力なので、「古文書講読 I・II」は早めに修得することを勧める。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：石垣 直 後期：及川 高	2年	石垣 (nishigaki@okiu.ac.jp) 及川 (t.oikawa@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の目的は、民俗学ならびに人類学（社会・文化人類学の根幹をなす調査・研究手法である「フィールドワーク」（現地調査）を通じて、対象社会・文化の諸テーマ／トピックに対する理解を深め、その調査成果を整理・分析し、報告書・論文としてまとめる作法の基礎を学ぶことにある。</p>	<p>①テーマ設定→②関連情報の収集・検討→③フィールドワーク→④調査データの整理・分析・発表（他者への説明・説得）。このプロセスを大学時代に経験することは、学生たちが本学卒業後の分野に進もうとも、必ず役に立つはずである。社会文化学科の真骨頂であるフィールドワークから、ぜひ多くのことを学んで欲しい。</p>
到達目標	<p>民俗学および人類学分野における研究の手法を理解し、フィールドワークを実践することで得た調査成果を整理・分析し、報告書あるいは論文としてまとめる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	大学とライフ・プランニング——「自分らしい人生」とは？	大学での学びと人生設計を考える
	3	文化人類学とは何か——フィールドワークという方法論	人類学のフィールドを考える
	4	レジュメ作成方法・発表方法レポート・論文作法の流れ	レポート／論文の構成を考える
	5	調査計画&文献研究の作法	自身の調査テーマを探す
	6	フィールドワークの作法（1）	身の回りの出来事を記録する
	7	フィールドワークの作法（2）	身の回りの人にインタビューする
	8	テーマ設定と班分け	班毎にテーマを絞り込む
	9	文献検索と下調べ（1）	班毎で文献を探す
	10	文献検索と下調べ（2）	班毎で文献を読み込む
	11	ミニ・フィールドワーク	フィールドでの見聞を記録する
	12	各班の発表（1）	発表準備&課題の発見
	13	各班の発表（2）	発表準備&課題の発見
	14	各班の発表（3）	発表準備&課題の発見
	15	まとめ	
	16	（予備日）	
	17	ガイダンス	
	18	民俗学者がフィールドですること	
	19	現地資料の収集方法——市町村誌・地図・統計	
	20	問いを立てる——何が民俗学の対象となるか	
	21	調査項目を作る（1）——何を調べるか	
	22	調査項目を作る（2）——誰に話を聞くか	
	23	フィールドへの入り方	
	24	フィールドノートの書き方	
	25	景観を観察する	
	26	儀礼を観察する	
	27	様々な現地資料——写真・民具・文書	
	28	インタビューの方法	
29	フィールドノートのまとめ方		
30	データを統合する——集団調査と情報カード		
31	民俗調査報告書を書く		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>石垣：日本文化人類学会（監修）2011『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社 及川：上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）1987『新版 民俗調査ハンドブック』吉川弘文館</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。まずは現場（フィールド）に足を運んでみる。そして、現場で見聞きしたことを（ノート、ICレコーダー、カメラ、ビデオなどを用いて）記録する。その際、重要な情報を持っている人物に接触できるか、どのようにして必要な情報を聞き出すのがポイントになる。文献なども踏まえながら、こうして得られた記録・資料を何度も読み返してさらなる調査を進めるうちに、あなたはあなたが対象とした社会・文化的事象の構造・メカニズムを徐々に理解するだろう。</p>
	<p>評価</p> <p>演習への参加姿勢（平常点）ならびに課題への取り組み・成果を、総合的に評価する。教員によっては、期末試験あるいは課題レポート（調査報告）などを課す場合がある。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	歴史学概論	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、歴史を学ぶ目的を確認した上で、人間が過去の出来事をどのように認識してきたのかについて考察する。また、歴史認識をめぐる摩擦という現代的課題について、その問題の所在を幾つかの事例に基づいて把握する。これにより、歴史を学ぶことにおける人間と社会の関係を理解し、その前提に立って歴史を学ぶことの意味を考えられるようにすることを目的とする。	① この科目は、社会文化学科1年時を対象とした、学科専門の必修科目です。 ② また、「学問体系の基本を理解する」ことを目的とした「基礎科目」として位置づけられているので、「学問としての歴史学」を学びます（日本史や世界史のような通史をまなぶものではありません）。
到達目標	(1) 特定の歴史理論について、その理論が登場した当時の時代や社会との関わりから説明することができる。 (2) 現代社会の状況を踏まえつつ、「歴史問題」の実態を理解し、その問題の所在を自らの言葉で論理的に表現することができる。 (3) 歴史認識の歴史に関わる人物や基本的な歴史理論を修得し、特定の歴史理論について論理的に説明できる。 (4) 歴史認識に関する資料を読解し、その結果を表現できる。 (5) 主体的な意欲に基づき、「学問としての歴史」を学ぼうとする姿勢を有することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス記載内容の理解
	2	イントロダクション：なぜ、どのように歴史を学ぶのか？	ワークシートの作成・提出
	3	社会と歴史認識の関係①（ギリシア・ローマ①）	ワークシートの作成・提出
	4	社会と歴史認識の関係②（ギリシア・ローマ②）	ワークシートの作成・提出
	5	社会と歴史認識の関係③（ヨーロッパ中世社会の特徴）	ワークシートの作成・提出
	6	社会と歴史認識の関係④（中世社会と普遍史の成立）	ワークシートの作成・提出
	7	社会と歴史認識の関係⑤（ルネサンス的歴史認識）	ワークシートの作成・提出
	8	社会と歴史認識の関係⑥（啓蒙主義の時代と進歩史観）	ワークシートの作成・提出
	9	社会と歴史認識の関係⑦（19世紀ヨーロッパ世界とロマン主義）	ワークシートの作成・提出
	10	社会と歴史認識の関係⑧（ランケと近代歴史学の成立）	ワークシートの作成・提出
	11	社会と歴史認識の関係⑨（唯物史観とアナール派）	ワークシートの作成・提出
	12	現代の「歴史問題」①（独仏間の事例）	ワークシートの作成・提出
	13	現代の「歴史問題」②（日韓間の事例①）	ワークシートの作成・提出
	14	現代の「歴史問題」③（日韓間の事例②）	ワークシートの作成・提出
15	現代の「歴史問題」④（問題の所在と克服へ向けて）	ワークシートの作成・提出	
16	学期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。 主な参考文献は、下記の通り。 ①山本博文『歴史をつかむ技法』（新潮社、2013年）、②弓削達『歴史学入門』（東京大学出版会、1986年、③E.H.カー『歴史とは何か』（岩波書店、1962年）、④南塚信吾『世界史なんていらない？』（岩波書店、2007年）、他
-------	--

学びの手立て	① 履修の心構え 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聴き、重要な点はメモを作成した上で、ノートの作成に取り組んで、ワークシートを作成・提出するようにしてください。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることができる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。
--------	---

評価	到達目標（1）の評価 : レポート（30%） 到達目標（2）の評価 : 学期末試験（30%） 到達目標（3）（4）の評価 : ワークシートの内容（25%） 到達目標（5）の評価 : ワークシートの提出（15%） による総合評価とする。なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。なお、出席が講義回数分の3分の2に満たない者は、レポートと試験の評価の対象外です。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会文化学科専門科目の1年次対象の基礎教育科目は、他に5科目あります。これらの科目を履修して、それぞれの専門分野の学問体系の基礎を学んだ上で、2年次の領域演習や、3年次以降の演習Ⅰ・Ⅱを選択するようにしてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	歴史学特殊講義Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-近藤 健一郎	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代の沖縄社会を深く理解するために、近代沖縄史を学校に注目してたどる。「琉球処分」以降、日本政府が沖縄を日本国家に組み込んでいく政治的な過程をたどりつつ、そのもとでの沖縄の人々の暮らしのあるようにして歴史的な史料を実際に読むことにより理解していく。学校に注目するのは、日本的な言語習慣等が沖縄社会のなかでまず学校にもたらされたからである。	午前は、講義により当該時期の政治的な状況をおさえつつ、教育・文化状況を論じる。午後は、グループ学習により歴史的な史料を読み、そこからわかったこと・わからなかったことを教室全体で共有し、適宜担当教員による補足説明により理解を深めていく。なお高校までで学習するような日本史や世界史の知識習得は前提としないけれども、史料を読むことは求めるので積極的に受講してほしい。
到達目標	<p>1) 近代沖縄史の流れをつかむことができる。とくに①全国的な法制度との差異に注目して流れをつかむことができる、②沖縄の言語風俗の変容の流れを学校に注目してつかむことができる。</p> <p>2) 史料を批判的に読むことができる。史料に書かれていることを字面通りに理解することとどまらず、書かれている理由や何かが書かれていない理由などを考察することができる。</p> <p>3) 史料を読んで、わかったこと、わからなかったことを他者に伝えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の計画—学校に注目して近代沖縄をたどる	近現代史年表を通覧する
	2	「琉球処分」とその直後—学校が「大和屋」と呼ばれた頃	配布資料を通読する
	3	「琉球処分」とその直後—史料講読1『沖縄対話』	配布資料を通読する
	4	「琉球処分」とその直後—史料講読2『学事規定全書』	配布資料を通読する
	5	日清戦争後の特別県政—徴兵令施行、土地整理事業などの「制度改革」	配布資料を通読する
	6	日清戦争後の特別県政—「風俗改良」運動	配布資料を通読する
	7	日清戦争後の特別県政—史料講読1 学校記念誌に掲載されている回想を読む	配布資料を通読する
	8	日清戦争後の特別県政—史料講読2「普通語ノ励行方法答申書」	配布資料を通読する
	9	第一次世界大戦後の一般県政—ソテツ地獄と移民・出稼ぎの増加	配布資料を通読する
	10	第一次世界大戦後の一般県政—沖縄県と高等教育	配布資料を通読する
	11	第一次世界大戦後の一般県政—史料講読1『島の教育』	配布資料を通読する
	12	第一次世界大戦後の一般県政—史料講読2「創作・人気者」	配布資料を通読する
	13	沖縄戦—引揚（学童疎開・住民疎開）と御真影疎開	配布資料を通読する
14	沖縄戦から沖縄戦後へ—「戦後」と「戦後教育」の始まり	配布資料を通読する	
15	授業のまとめ	授業および資料・ノートを振り返る	
16	テスト	授業および資料・ノートを振り返る	
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は指定せず、プリントを配布して、それに即して講義や史料講読を進める。講義の参考文献は適宜紹介するが、以下のものを予め紹介しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近藤健一郎『近代沖縄における教育と国民統合』北海道大学出版会、2006年、 ・『沖縄県史 各論編5 近代』沖縄県教育委員会、2011年 ・復刻版『琉球教育 全13巻』本邦書籍、1980年（1895年～1906年の全116号。）、 ・復刻版『沖縄教育 全39巻』不二出版、2009年（1906年～1944年の328号分。ただし、半数弱が散逸しており、収録できていない） 		
学びの手立て	<p>①「履修の心構え」 受講にあたって、近現代沖縄史の知識や何らかの科目履修を必要とはしないが、琉球・沖縄の何らかの分野に関心をもっており、それとのかかわりで近現代史や教育について考えてもらいたいと、授業担当教員としては願っている。また、朝1限から開講するので、朝早いことを承知して履修してほしい。</p> <p>②「学びを深めるために」 授業において紹介する文献や史料を、各自で探して、閲覧するようにしてほしい。</p>		
評価	<p>「評価方法」 ①期末試験・・・集中講義最終日の午後実施する。②平常点・・・授業期間中毎日、授業に関する短いコメント（わかったこと、わからなかったこと、感想など）を提出する。</p> <p>「評価割合」 期末試験60%+平常点40%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「関連科目」・・・とくに指定しないが、琉球・沖縄に関する諸科目は関連するので、これからの履修において、近現代沖縄史の知見や調査方法を学習の支えにしてもらいたい。</p> <p>「次のステージ」・・・自ら、琉球・沖縄に関する関心のある課題について、どのように調べ、考えるかを、考えてほしい。</p>
-------	--